

ならのがんに関する患者意識調査
報 告 書

平成 29 年 10 月

奈良県

目次

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的	3
1-2. 調査方法	3
1-3. 調査内容	3
1-4. 配布・回収結果	4
1-5. 調査結果の見方	4

第2章 アンケート調査結果

2-1. 医療機関で受けた診断や治療について	
問1 がんの診断時期	7
問2 がんの部位	8
問3 治療等を受けている病院名	10
問3-1 かかりつけ医の有無	11
問4 現在の治療状況	12
問5 今まで受けた治療	13
問6 病院を選んだ理由	14
問7 病院を選択する際の情報源	15
問8 現在の病院に対する満足度	16
問9 現在の病院に対する不満な点と望む対応（自由記述）	18
問10 がん治療の納得感	19
問11 医師から受けた説明の理解度	21
問12 疑問や意見の医師への意思疎通	22
問13 不妊への影響について説明の有無	24
問14 不妊への影響について具体的な説明	26
問15 院内スタッフの連携について	28
問16 医師等からの情報提供	30
問17 セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無	32
問18 セカンドオピニオンの経験の有無	33
問19 セカンドオピニオンの満足度	33
問20 現在の心身の状態	34
問21 緩和ケアの認知度	39
問22 緩和ケアを開始すべき時期の認識	41
問23 緩和ケア外来の認知度	43
問24-1 からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無	44
問24-2 からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善	45
問24-3 気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無	48
問24-4 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善	49
問25 受けた治療の納得感	52
2-2. 地域連携について	
問26 在宅医療・移行時の情報伝達について	53
問27 がん地域連携クリティカルパス等の認知度	55
2-3. 今後の療養について	
問28 在宅緩和ケアの認知度	57
問29 在宅緩和ケアへの考え	58
問30 自宅で療養するために必要なこと	60
問31 希望する療養場所	61

2-4.	相談支援・情報提供について	
問 32	がん医療に関する相談支援及び情報提供	63
問 33	がんに関する情報の充実度	65
問 34	がんネットならの利用度	74
問 35	がん相談支援センターの利用の有無	75
問 36	患者サロンの認知度	77
問 37	患者サロンを知ったきっかけ	78
問 38	支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感	79
2-5.	治療と就労について	
問 39	がん治療と継続就労についての認識	80
問 40	がん診断時の就労状況	82
問 41	仕事の継続に関する事業主の理解・支援	83
問 42	仕事を継続するために受けた事業主の支援内容	84
問 43	治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況	85
問 44	がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況	87
問 45	仕事を継続するために必要な対応・制度	90
問 46	就労等の情報提供・相談支援に望むこと	92
問 47	がん相談支援センターにおける就労相談の認知度	94
問 48	奈良県立医科大学附属病院における就職相談の認知度	95
2-6.	がん登録について	
問 49	がん登録の認知度	96
問 50	がん登録による期待するメリット	97
2-7.	全体的なことについて	
問 51	がん対策で奈良県に望むこと	99
問 52	療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと (自由記述)	101
問 53	医療機関や行政に対するがん医療に関する意見 (自由記述)	104
2-8.	患者本人について	
問 54	記入者	107
問 55	年齢	108
問 56	性別	109
問 57	居住する医療圏	110
(参考)	アンケート調査票	113

第 1 章 調査の概要

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的

がん患者の受療の状況や受けた医療に対する満足度、がん医療に関する認知度等を調査することにより、がん患者の医療に対する認識や行動を明らかにし、今後のがん対策の基礎資料を得ることを目的とする。

1-2. 調査方法

調査の方法は、以下の通りである。

■調査の方法

調査対象	県内のがん診療連携拠点病院・支援病院、その他がん診療を行っている医療機関に受診されているがん患者（入院・外来）ご本人
実配布数	1,714人
調査方法	・協力医療機関から、がん患者に調査票と返信用封筒を手渡しし、がん患者本人が調査票に記入後、郵送で提出。 ・原則として患者本人の記入方式としたが、記入できない場合については、家族の方などが補助して記入することも可とした。 ・調査票は奈良県医療政策部保健予防課あての返信用封筒により回収した。
調査期間	平成29年6月1日（木）～6月30日（金） （回答締め切り：平成29年7月14日（金）消印有効）

1-3. 調査内容

アンケート調査の内容は、以下の通りである。

1. 医療機関で受けた診断や治療について 問1 がんの診断時期 問2 がんの部位 問3 治療等を受けている病院名 問3-1 かかりつけ医の有無 問4 現在の治療状況 問5 今まで受けた治療 問6 病院を選んだ理由 問7 病院を選択する際の情報源 問8 現在の病院に対する満足度 問9 現在の病院に対する不満な点と望む対応（自由記述） 問10 がん治療の納得感 問11 医師から受けた説明の理解度 問12 疑問や意見の医師への意思疎通 問13 不妊への影響について説明の有無 問14 不妊への影響について具体的な説明 問15 院内スタッフの連携について 問16 医師等からの情報提供 問17 セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無 問18 セカンドオピニオンの経験の有無 問19 セカンドオピニオンの満足度	問20 現在の心身の状態 問21 緩和ケアの認知度 問22 緩和ケアを開始すべき時期の認識 問23 緩和ケア外来の認知度 問24-1 からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無 問24-2 からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善 問24-3 気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無 問24-4 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善 問25 受けた治療の納得感 2. 地域連携について 問26 在宅医療・移行時の情報伝達について 問27 がん地域連携クリティカルパス等の認知度 3. 今後の療養について 問28 在宅緩和ケアの認知度 問29 在宅緩和ケアへの考え 問30 自宅で療養するために必要なこと 問31 希望する療養場所
--	--

<p>4. 相談支援・情報提供について</p> <p>問 32 がん医療に関する相談支援及び情報提供</p> <p>問 33 がんに関する情報の充実度</p> <p>問 34 がんネットならの利用度</p> <p>問 35 がん相談支援センターの利用の有無</p> <p>問 36 患者サロンの認知度</p> <p>問 37 患者サロンを知ったきっかけ</p> <p>問 38 支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感</p> <p>5. 治療と就労について</p> <p>問 39 がん治療と継続就労についての認識</p> <p>問 40 がん診断時の就労状況</p> <p>問 41 仕事の継続に関する事業主の理解・支援</p> <p>問 42 仕事を継続するために受けた事業主の支援内容</p> <p>問 43 治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況</p> <p>問 44 がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況</p> <p>問 45 仕事を継続するために必要な対応・制度</p> <p>問 46 就労等の情報提供・相談支援に望むこと</p>	<p>問 47 がん相談支援センターにおける就労相談の認知度</p> <p>問 48 奈良県立医科大学附属病院における就職相談の認知度</p> <p>6. がん登録について</p> <p>問 49 がん登録の認知度</p> <p>問 50 がん登録による期待するメリット</p> <p>7. 全体的なことについて</p> <p>問 51 がん対策で奈良県に望むこと</p> <p>問 52 療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと（自由記述）</p> <p>問 53 医療機関や行政に対するがん医療に関する意見（自由記述）</p> <p>8. 患者本人について</p> <p>問 54 記入者</p> <p>問 55 年齢</p> <p>問 56 性別</p> <p>問 57 居住する医療圏</p>
--	---

1-4. 配布・回収結果

調査票の配布・回収結果を示したものが次表である。

■ 配布・回収結果一覧

① 配布数※1	2,085人
② 実配布数※2	1,714人
④ 有効回収数	908人
⑤ 回収率 (④/②)	53.0%

※1 圏内のがん診療連携拠点病院・支援病院等に配布した数

※2 実際にがん患者本人に手渡された数

1-5. 調査結果の見方

- ・比率は全て百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。
このため、合計が100.0%とならない回答もある。
- ・図中「n数」とは、回答数の合計をいう。
- ・表中「n数」は上段、「百分率」は下段に表記している。
- ・「複数回答」とは、1人が2つ以上の回答をしてもよい設問をいう。
- ・比較分析を行う際、『患者体験調査 平成26年度(厚生労働省)』、『がん対策に関する世論調査 平成26年11月(内閣府)』のデータを参照した。
- ・n数が小さく統計的な割合を出しても信頼度の低いものもあるが、一応図表化してある。
- ・国(総務省)の調査は%のみ集計のため、集計表は%のみ表記している。
- ・脚注(*)の番号はページごとに付すのではなくて、内容順に通し番号を付している。

第2章 アンケート調査結果

第2章 アンケート調査結果

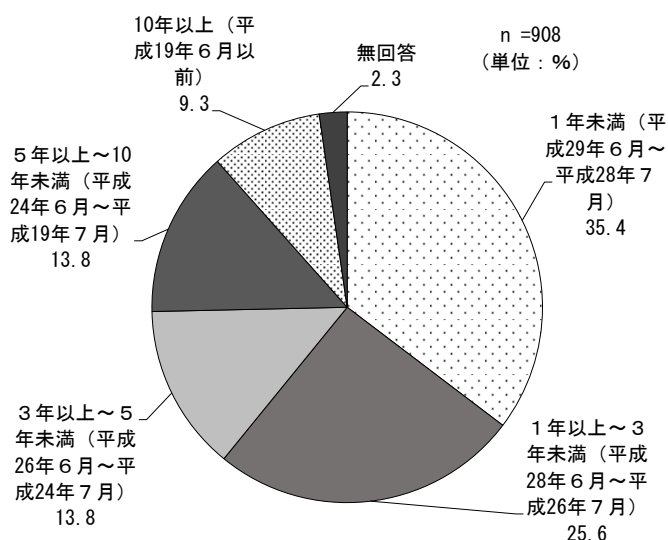
2-1. 医療機関で受けた診断や治療について

問1 がんの診断時期

問1 がんと最初に診断されたのは、いつ頃ですか。

がんと最初に診断された時期については、「1年未満（平成29年6月～平成28年7月）」が35.4%と最も高く、次いで「1年以上～3年未満（平成28年6月～平成26年7月）」が25.6%、「3年以上～5年未満（平成26年6月～平成24年7月）」「5年以上～10年未満（平成24年6月～平成19年7月）」が同率13.8%となっている。

■がんの診断時期（単数回答/全体）



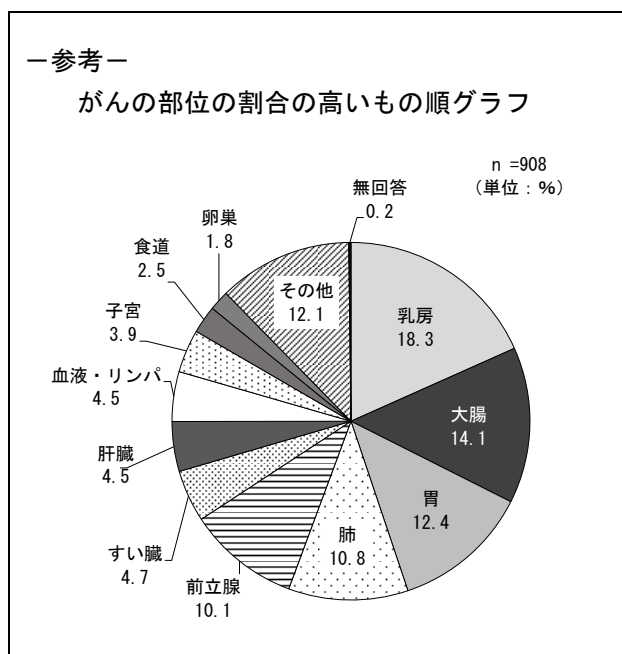
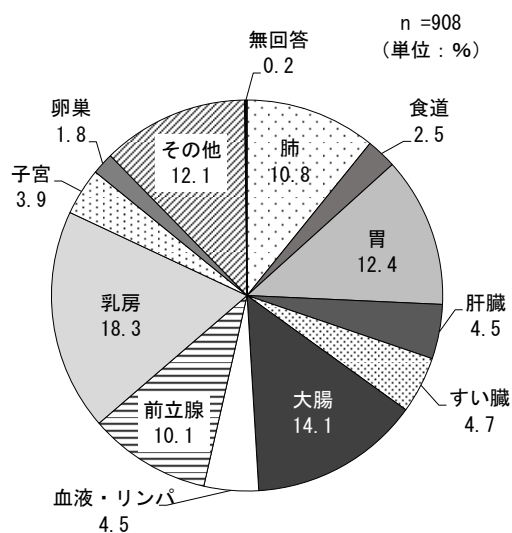
	n	1年未満 (平成28年6月～平成29年6月)	1年以上～3年未満 (平成26年6月～平成28年7月)	3年以上～5年未満 (平成24年6月～平成26年7月)	5年以上～10年未満 (平成19年6月～平成24年7月)	10年以上 (平成19年6月以前)	無回答
全体	908	321	232	125	125	84	21
	100.0	35.4	25.6	13.8	13.8	9.3	2.3

問2 がんの部位

問2 最初にがんと診断された部位はどこですか。【〇はひとつだけ】

最初にがんと診断された部位については、「乳房」が 18.3%と最も高く、次いで「大腸」が 14.1%、「胃」が 12.4%の順となっている。

■がんの部位（単数回答/全体）



	n	肺	食道	胃	肝臓	すい臓	大腸	血液・リンパ	前立腺	乳房	子宮	卵巣	その他	無回答
全体	908	98	23	113	41	43	128	41	92	166	35	16	110	2
	100.0	10.8	2.5	12.4	4.5	4.7	14.1	4.5	10.1	18.3	3.9	1.8	12.1	0.2

【その他】（3件以上）

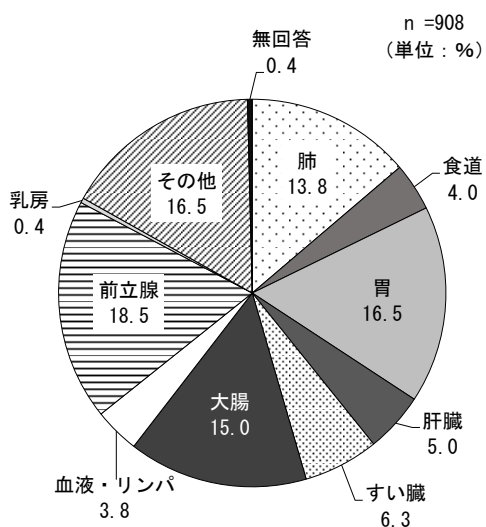
- ・膀胱（16件）
- ・直腸・腎臓（10件）
- ・舌・喉（9件）
- ・甲状腺（7件）
- ・胆管（6件）
- ・尿管（4件）
- ・口腔（4件）
- ・小腸（4件）
- ・歯肉（4件）
- ・十二指腸（3件）
- ・胆嚢（3件）
- ・顎（3件）

男女別にみると、男性では「前立腺」が18.5%と最も高く、次いで「胃」が16.5%、「大腸」が15.0%の順となっている。

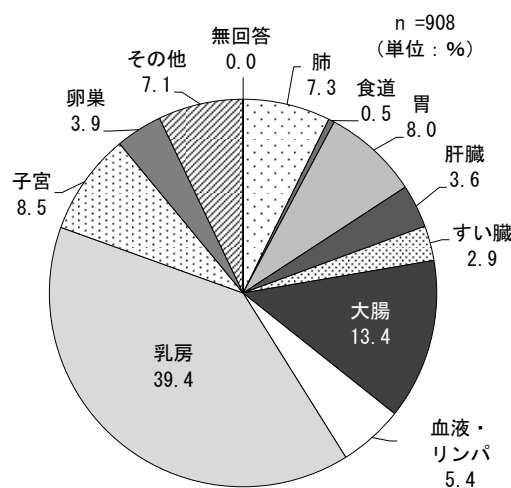
一方、女性では「乳房」が39.4%と最も高く、次いで「大腸」が13.4%、「子宮」が8.5%の順となっている。

■がんの部位（単数回答/男女別）

【男】

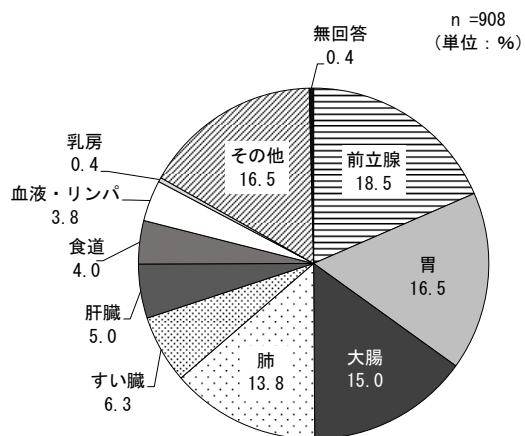


【女】

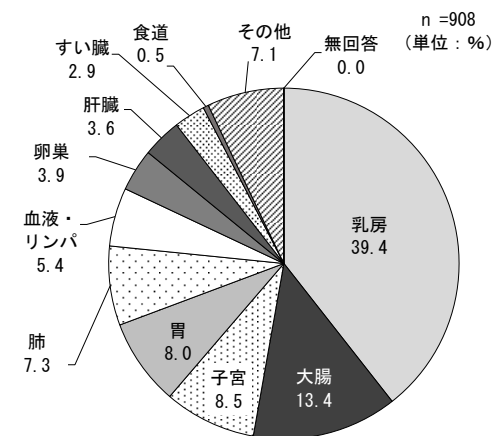


—参考— がんの部位の割合の高いもの順グラフ（男女別）

【男】



【女】



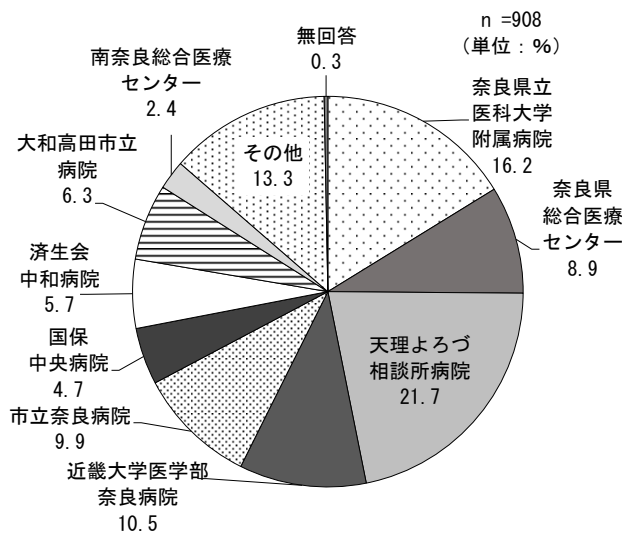
	n	肺	食道	胃	肝臓	すい臓	大腸	血液・リンパ	前立腺	乳房	子宮	卵巣	その他	無回答
男	480	66	19	79	24	30	72	18	89	2	-	-	79	2
	100.0	13.8	4.0	16.5	5.0	6.3	15.0	3.8	18.5	0.4	-	-	16.5	0.4
女	411	30	2	33	15	12	55	22	-	162	35	16	29	0
	100.0	7.3	0.5	8.0	3.6	2.9	13.4	5.4	-	39.4	8.5	3.9	7.1	0.0

問3 治療等を受けている病院名

問3 現在がんの治療（または経過観察）のためにかかっている病院はどこですか。
【〇はひとつだけ】

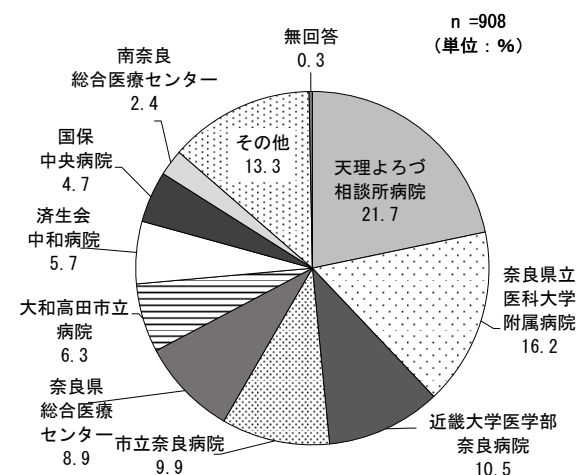
現在がんの治療を受けている病院については、「天理よろづ相談所病院」が 21.7%と最も高く、次いで「奈良県立医科大学附属病院」が 16.2%、「近畿大学医学部奈良病院」が 10.5%の順となっている。

■治療等を受けている病院名（単数回答/全体）



—参考—

治療等を受けている病院名の割合の高いもの順グラフ



	n	院	奈良	奈良	天理	近畿	市立	国保	済生	大和	南	そ	無
	数	奈良	奈良	天理	近畿	市立	国保	済生	大和	南	そ	無	
		県	県	よろ	大	立	保	会	高	奈	他	回	
		立	総	づ	学	奈	中	中	田	良		答	
		医	合	相	学	良	和	和	市	良			
		科	医	談	部	病	病	病	立	良			
		大	療	所	奈	院	院	院	病	病			
		学	セ	病	良				院	院			
		部											
		奈											
		良											
		病											
		院											
全体	908	147	81	197	95	90	43	52	57	22	121	3	
	100.0	16.2	8.9	21.7	10.5	9.9	4.7	5.7	6.3	2.4	13.3	0.3	

【その他】（3件以上）

- ・平成記念病院（27件）
- ・高井病院（20件）
- ・大和郡山病院（11件）
- ・生駒市立病院（10件）
- ・中井記念病院（10件）
- ・土庫病院（8件）
- ・奈良県西和医療センター（6件）
- ・平尾病院（6件）
- ・済生会奈良病院（5件）
- ・阪奈中央病院（5件）
- ・高の原中央病院（3件）

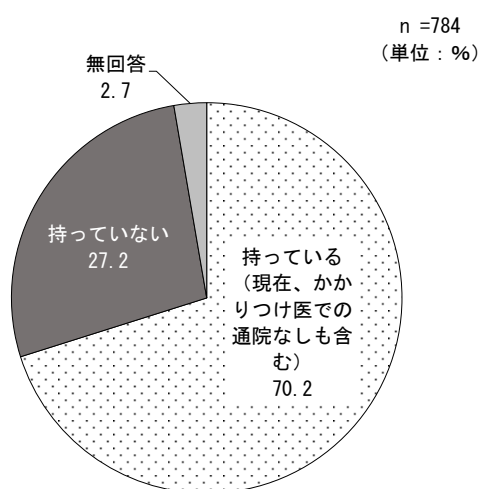
問3-1 かかりつけ医の有無

問3-1 問3で1.~9.の病院にかかっている方で、地域の病院や診療所のかかりつけ医（注参照）をお持ちですか。【〇はひとつだけ】

（注）かかりつけ医：地域の病院や診療所の医師。身近な地域で日常的な医療を受けたり、あるいは健康の相談等ができる医師のこと。

奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、南奈良総合医療センターにかかっている方のかかりつけ医の有無については、「持っている（現在、かかりつけ医での通院なしも含む）」が70.2%、「持っていない」が27.2%となっており、約7割がかかりつけ医を持っている。

■かかりつけ医の有無（単数回答/全体）



	n 数	持 つ て い る （ 現 在 、 か か り つ け 医 で の 通 院 な し も 含 む ）	持 つ て い な い	無 回 答
全体	784 100.0	550 70.2	213 27.2	21 2.7

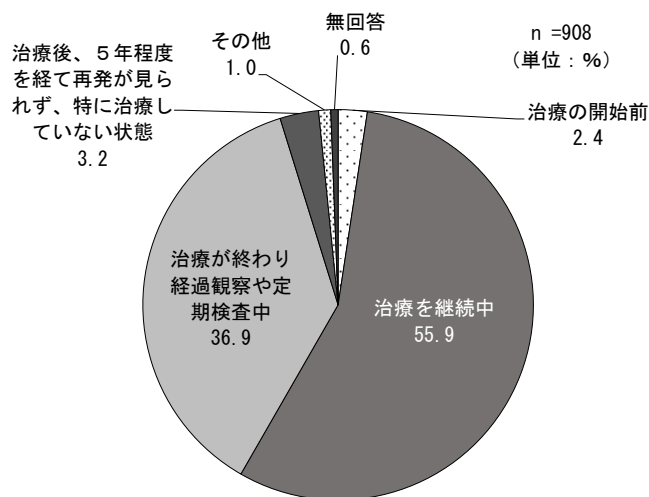
問4 現在の治療状況

問4 現在のがんの治療（緩和ケアも含む）状況を教えてください。【○はひとつだけ】

現在の治療状況（緩和ケアも含む）については、「治療を継続中」が55.9%と約5割、「治療が終わり経過観察や定期検査中」が36.9%と約3割を占めている。

一方「治療後、5年程度を経て再発が見られず、特に治療していない状態」は3.2%と1割以下となっている。

■現在の治療状況（単数回答/全体）



	n 数	治療の開始前	治療を継続中	治療が終わり経過観察や定期検査中	治療後、5年程度を経て再発が見られず、特に治療していない状態	その他	無回答
全体	908	22	508	335	29	9	5
	100.0	2.4	55.9	36.9	3.2	1.0	0.6

【その他】

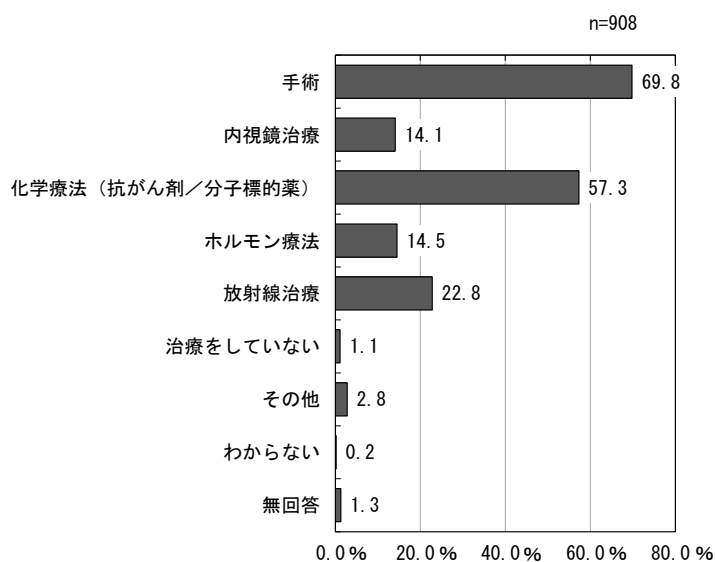
- ・治療後再発し、治療中（4件）
- ・再発の疑い又は再発し、検査中（2件）

問5 今まで受けた治療

問5 がんと診断されてからこれまで受けたがん治療を教えてください。【〇はいくつでも】

今まで受けた治療については、「手術」が 69.8%と最も高く、次いで「化学療法（抗がん剤／分子標的薬）」が 57.3%、「放射線治療」が 22.8%の順となっている。

■今まで受けた治療（複数回答/全体）



	n 数	手術	内 視 鏡 治 療	子 化学 標 的 薬 法 （ 抗 が ん 剤 ／ 分	ホル モン 療 法	放 射 線 治 療	治 療 を し て い な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	908 100.0	634 69.8	128 14.1	520 57.3	132 14.5	207 22.8	10 1.1	25 2.8	2 0.2	12 1.3

【その他】

- ・投薬（7件）
- ・免疫療法（5件）
- ・カテーテル、ラジオ波照射療法（4件）

問6 病院を選んだ理由

問6 現在かかっている病院を選んだ理由は何ですか。【〇は3つまで】

病院を選んだ理由については、「医師による紹介」が 55.9%と最も高く、次いで「自宅や職場・学校に近い」が 22.1%、「技術のすぐれた医師がいる」が 17.4%の順となっており、「医師による紹介」が約5割を占めている。

■病院を選んだ理由（複数回答/全体）



【その他】

- ・他の病気・以前から当該病院にかかっている（10件）
- ・医師の転院（5件）
- ・検診・検査を受けた（4件）

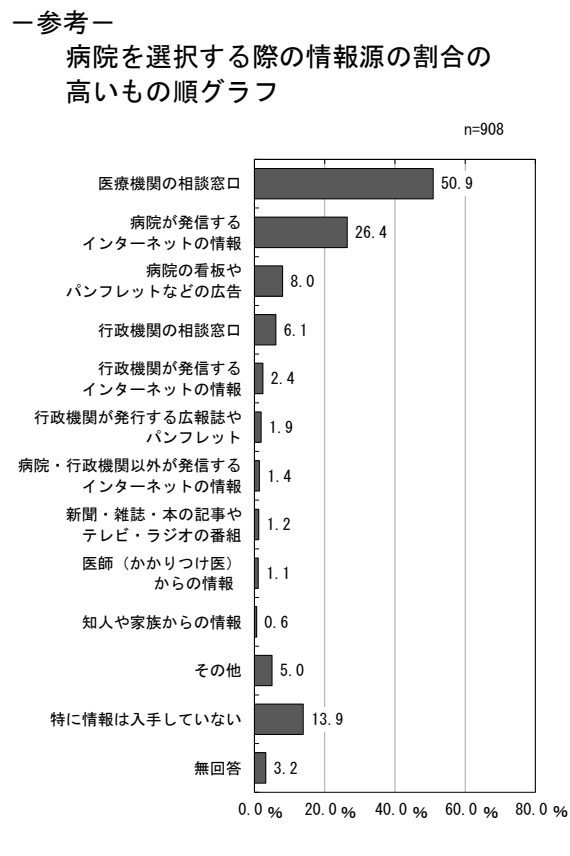
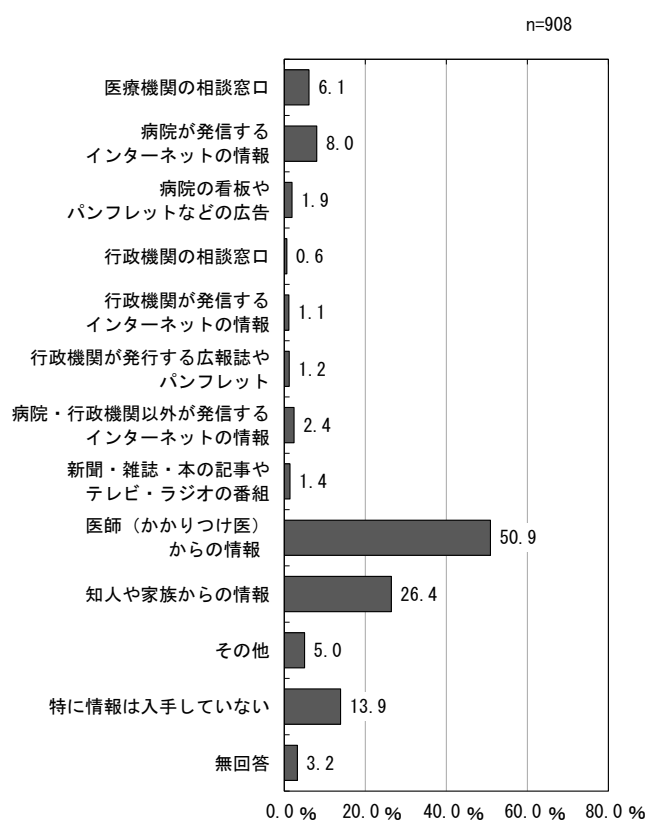
	n	医師による紹介	家族・友人・知人からのすすめ	薬局や他の医療関係者からの紹介	自宅や職場・学校に近い	交通機関の便がよい	以前に来たことがある	以前に受診した医療機関に満足できなかった	大きな病院で安心そう	病室などがきれいな病院だから	医師や看護師が親切	技術のすぐれた医師がいる	専門性が高い医療を提供している	様々な症状に対応できる医療を提供している	受けたい検査や治療をおこなっている	生存率、合併症発生率などの治療成績が良い	入院にかかる経済的負担が少ない	連携している医療機関・福祉施設が充実	その他	特に理由はない	無回答
全体	908	508	126	27	201	68	137	25	117	28	135	158	117	94	47	6	21	10	27	2	9
	100.0	55.9	13.9	3.0	22.1	7.5	15.1	2.8	12.9	3.1	14.9	17.4	12.9	10.4	5.2	0.7	2.3	1.1	3.0	0.2	1.0

問7 病院を選択する際の情報源

問7 現在かかっている病院を選ぶにあたり、どこから情報を入手しましたか。【〇はいくつでも】

病院を選択する際の情報源については、「医師（かかりつけ医）からの情報」が50.9%と最も高く、次いで「知人や家族からの情報」が26.4%、「特に情報は入手していない」が13.9%の順となっており、「医師（かかりつけ医）からの情報」が約5割を占めている。

■病院を選択する際の情報源（複数回答/全体）



	n	医療機関の相談窓口	病院が発信するインターネットの情報	病院の看板やパンフレットなどの広告	行政機関の相談窓口	行政機関が発信するインターネットの情報	行政機関が発行する広報誌やパンフレット	病院・行政機関以外が発信するインターネットの情報	新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組	医師（かかりつけ医）からの情報	知人や家族からの情報	その他	特に情報は入手していない	無回答
全体	908	55	73	17	5	10	11	22	13	462	240	45	126	29
	100.0	6.1	8.0	1.9	0.6	1.1	1.2	2.4	1.4	50.9	26.4	5.0	13.9	3.2

【その他】

- ・他の病気・以前からかかっている病院（22件）
- ・検診・検査をうけた病院（7件）
- ・自宅から近い（4件）

問8 現在の病院に対する満足度

問8 現在、かかっている病院についての感想をお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

(A) 医師による診療・治療内容の満足度については、「非常に満足している」が 52.3%と最も高く、次いで「やや満足している」が 30.1%、「ふつう」が 14.2%の順となっている。

“満足している”（「非常に満足している」+「やや満足している」）が 82.4%、一方“満足していない”（「やや不満である」+「非常に不満である」）は 1.8%となっており、“満足している”が約8割を占めている。

(B) 医師との対話の満足度については、「非常に満足している」が 50.1%と最も高く、次いで「やや満足している」が 27.9%、「ふつう」が 15.5%の順となっている。

“満足している”が 78.0%、一方“満足していない”は 3.3%となっており、“満足している”が約7割を占めている。

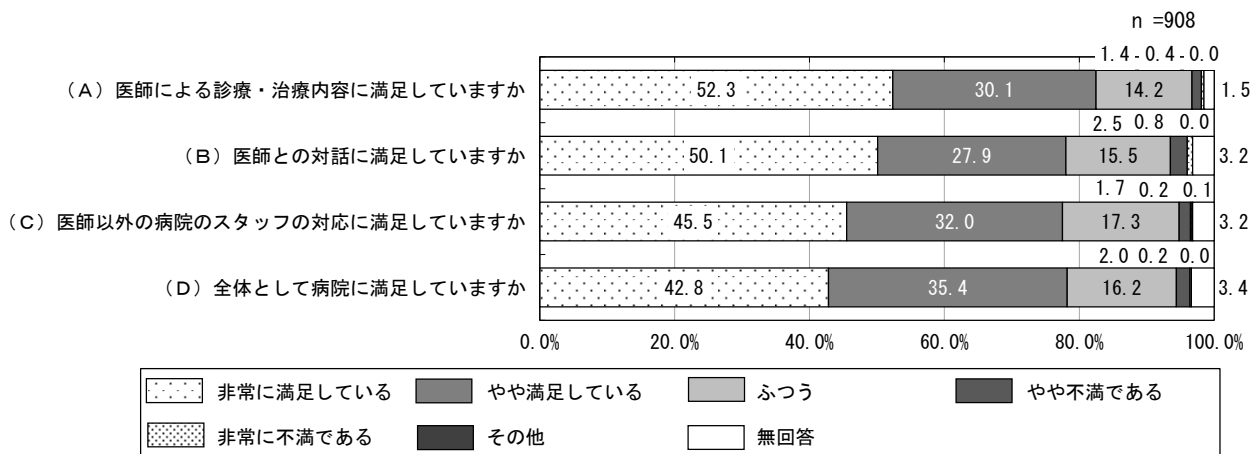
(C) 医師以外の病院のスタッフの対応の満足度については、「非常に満足している」が 45.5%と最も高く、次いで「やや満足している」が 32.0%、「ふつう」が 17.3%の順となっている。

“満足している”が 77.5%、一方“満足していない”は 1.9%となっており、“満足している”が約7割を占めている。

(D) 全体として受診している病院の満足度については、「非常に満足している」が 42.8%と最も高く、次いで「やや満足している」が 35.4%、「ふつう」が 16.2%の順となっている。

“満足している”が 78.2%、一方“満足していない”は 2.2%となっており、“満足している”が約7割を占めている。

■現在の病院に対する満足度（単数回答/全体）



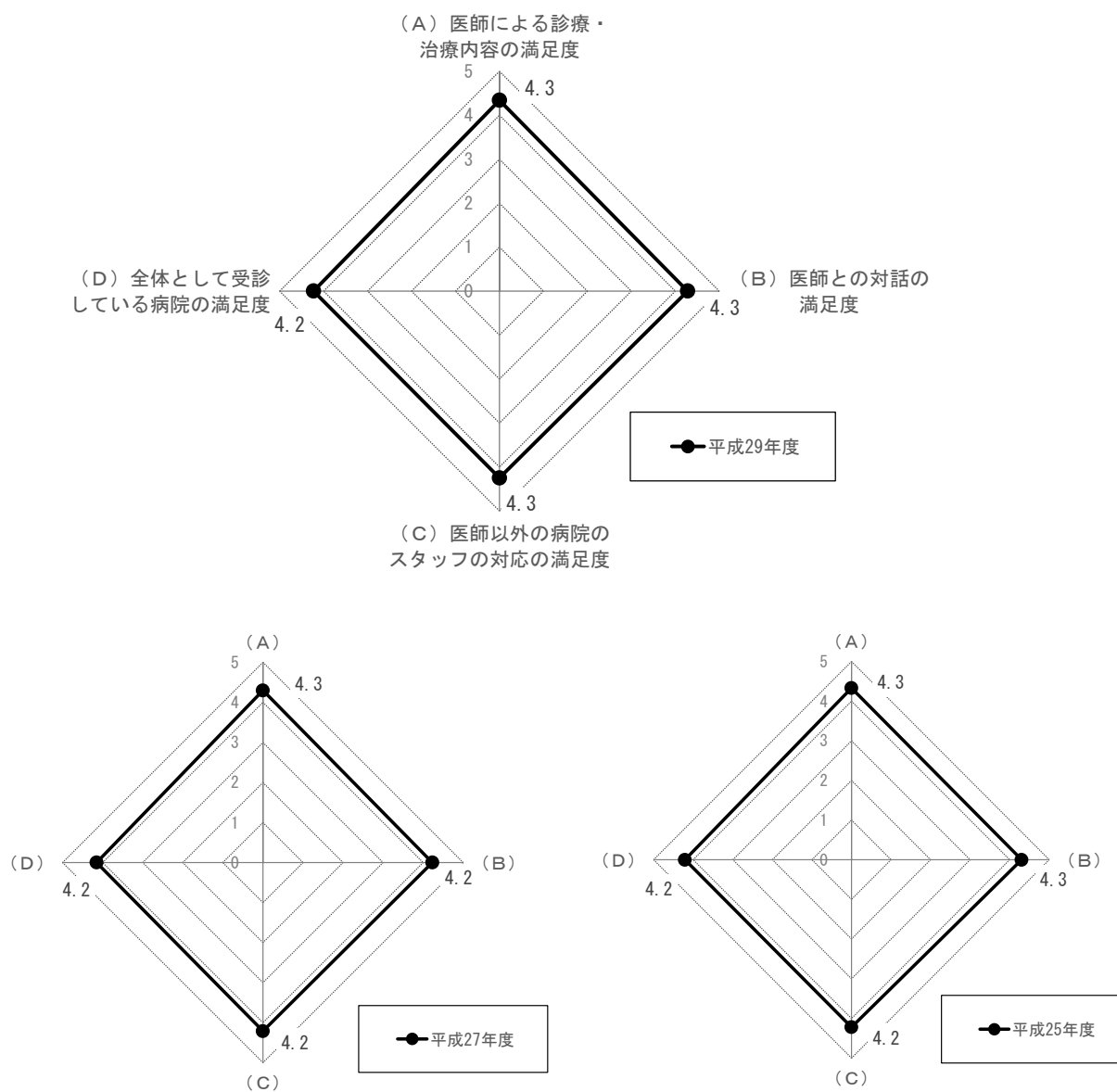
	n	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	非常に不満である	その他	無回答
(A) 医師による診療・治療内容に満足していますか	908	475	273	129	13	4	0	14
	100.0	52.3	30.1	14.2	1.4	0.4	0.0	1.5
(B) 医師との対話に満足していますか	908	455	253	141	23	7	0	29
	100.0	50.1	27.9	15.5	2.5	0.8	0.0	3.2
(C) 医師以外の病院のスタッフの対応に満足していますか	908	413	291	157	15	2	1	29
	100.0	45.5	32.0	17.3	1.7	0.2	0.1	3.2
(D) 全体として病院に満足していますか	908	389	321	147	18	2	0	31
	100.0	42.8	35.4	16.2	2.0	0.2	0.0	3.4

満足度を訪ねた4つの項目についてみると、『A：医師による診療・治療内容の満足度』『B：医師との対話の満足度』『C：医師以外の病院のスタッフの対応の満足度』がいずれも4.3となっており、最も満足度が高くなっている。

一方『D：全体として受診している病院の満足度』は4.2と最も低くなっている。

『平成25年度』『平成27年度』と比較してもほぼ同じ傾向となっている。

■現在の病院に対する満足度比較（項目別）



点数配点表

5：非常に満足している 4：やや満足している 3：ふつう
2：やや不満である 1：非常に不満である

$$\text{かかっている病院の満足度} = \frac{\sum \text{各回答} \times \text{点数}}{\text{無回答} \cdot \text{「その他」} \cdot \text{「わからない」を除いた有効回答数}}$$

(注)「その他」は『平成29年度』『平成27年度』、「わからない」は『平成25年度』の選択肢となっている

問9 現在の病院に対する不満な点と望む対応（自由記述）

問9 問8のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。
不満な点は具体的にどのような点ですか。また、それに対して、どのような対応を望みますか。ご自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見を上位最大5件まで抽出している。

A. 不満な点は具体的にどのような点か

□医師の診療・治療内容（3件）

- ・飲み薬ばかりが多く、その薬の副作用で生活に支障をきたしている。
- ・採血のみで定期的にMR I やPETの検査をしてくれない。
- ・最初にカルテを見られてなかったようでMR I の撮影部位を間違われそうになった。

□医師との対話（25件）

- ・治療、副作用について、再発・転移について、今後の方針について、具体的な説明がない。（6件）
- ・大きな病院で患者も多いためか、診察が流れ作業のように感じる。（5件）
- ・もう少し心を広くもってほしい。質問しにくい私たちの意見を聞く耳をもってほしい。コミュニケーションがない。（3件）
- ・ほとんど医師と話をする時間が少ない。（2件）

□医師以外の病院スタッフの対応（6件）

- ・全員がそうではないが、たまに不親切なスタッフがいる。不具合を指摘しても返答の回答もない。（3件）
- ・スタッフ同士の連携がとれていない。
- ・担当看護師がいるが、交代が頻繁で相談が出来ない。
- ・患者に対するちょっとした気配りや配慮が足りないように思われる。

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（12件）

- ・検査・診療予約していても待ち時間が長すぎる。（6件）
- ・事務局の対応。（3件）
- ・病院が古いのでトイレ等使用しづらい、汚れも目立つ。
- ・PETや放射線治療などで最新の機器がそろっていない。

B. 不満な点について、どのような対応を望むか

□医師の診療・治療内容（4件）

- ・定期的に検査をして安心させてほしい。
- ・具合が悪いから診察してほしいのに予約も取ってくれなかった。漢方薬を飲んでいけば治ると言われた。対面して症状を見てほしかった。

□医師との対話（16件）

- ・主治医であれば気軽に相談出来る医師の配置があればいいと思う。（8件）
- ・不満点を充分納得いくようにしていく（時間をかけて話し合うようにしていく）。（4件）
- ・医師の対応に少々不満を感じる。（3件）
- ・患者の立場に立って診て頂きたい。

□医師以外の病院スタッフの対応（7件）

- ・患者側の立場でやさしく親身に対応してもらいたい。（4件）
- ・忙しいと思うが、診察前に治療の流れを確認してほしい。

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（9件）

- ・医師が少ないと思う。
- ・医療機器の更新。
- ・外来での診察時間をもっと長くしてほしい。

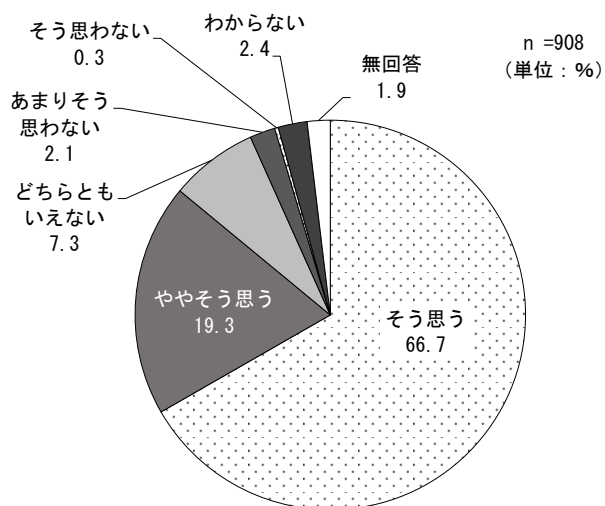
問 10 がん治療の納得感

問 10 がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、ご自身が納得いく治療を選択することができましたか。【〇はひとつだけ】

がん治療の納得感については、「そう思う」が 66.7%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 19.3%、「どちらともいえない」が 7.3%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 86.0%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 2.4%となっており、“思う”が約 8 割となっている。

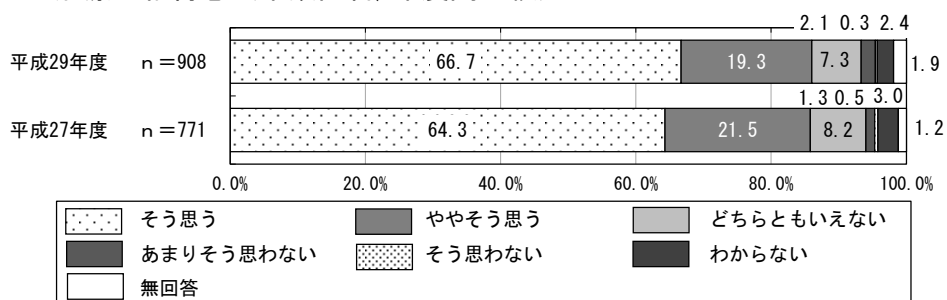
■がん治療の納得感（単数回答/全体）



	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	908	606	175	66	19	3	22	17
	100.0	66.7	19.3	7.3	2.1	0.3	2.4	1.9

年度間比較をすると、『平成27年度』では“思う”が85.8%であったものが、『平成29年度』では同86.0%と0.2ポイント（86.0%－85.8%）上回っている。

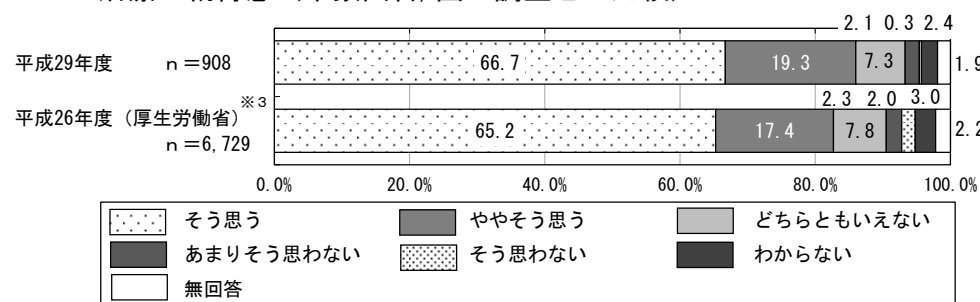
■がん治療の納得感（単数回答/年度間比較）



	n	思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
平成29年度	908	606	175	66	19	3	22	17
	100.0	66.7	19.3	7.3	2.1	0.3	2.4	1.9
平成27年度	771	496	166	63	10	4	23	9
	100.0	64.3	21.5	8.2	1.3	0.5	3.0	1.2

国の調査（厚生労働省※3）と比較すると、『平成26年度（厚生労働省）』では“思う”（「思う」＋「ややそう思う」）が82.6%であるのに対し、『平成29年度』では同86.0%と3.4ポイント（86.0%－82.6%）上回っている。

■がん治療の納得感（単数回答/国の調査との比較）



	n	思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
平成29年度	908	606	175	66	19	3	22	17
	100.0	66.7	19.3	7.3	2.1	0.3	2.4	1.9
平成26年度※3 （厚生労働省）	6,729	4,390	1,171	528	156	135	202	147
	100.0	65.2	17.4	7.8	2.3	2.0	3.0	2.2

※3 患者体験調査（平成26年度） 厚生労働省

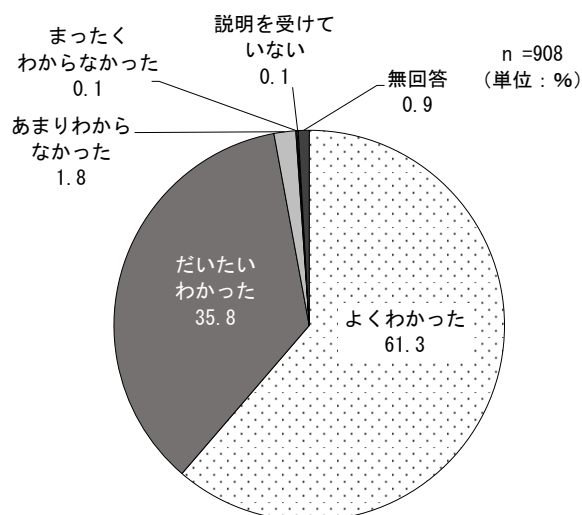
問 11 医師から受けた説明の理解度

問 11 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師から受けた説明はよくわかりましたか。【〇はひとつだけ】

医師から受けた説明の理解度については、「よくわかった」が 61.3%と最も高く、次いで「だいたいわかった」が 35.8%、「あまりわからなかった」が 1.8%の順となっている。

“わかった”（「よくわかった」＋「だいたいわかった」）と回答した人は 97.1%と 9割を越えている。

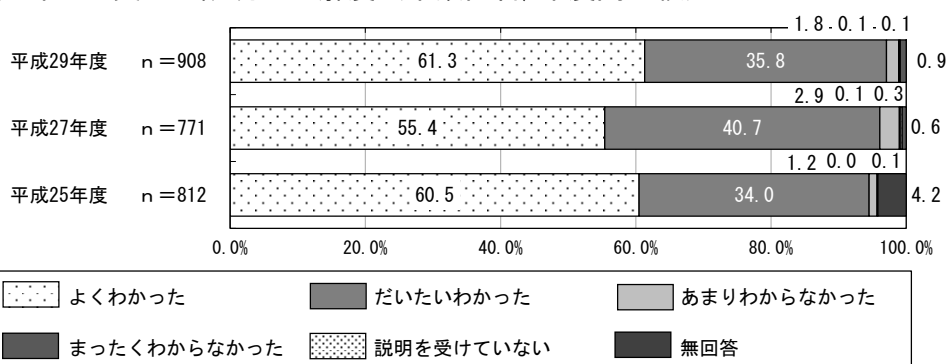
■医師から受けた説明の理解度（単数回答/全体）



	n	よくわかった	だいたいわかった	あまりわからなかった	まったくわからなかった	説明を受けていない	無回答
全体	908	557	325	16	1	1	8
	100.0	61.3	35.8	1.8	0.1	0.1	0.9

年度間比較をすると、『平成 25 年度』には“わかった”が 94.5%であったものが調査年度毎に増加し、『平成 29 年度』では同 97.1%となっている。

■医師から受けた説明の理解度（単数回答/年度間比較）



	n	よくわかった	だいたいわかった	あまりわからなかった	まったくわからなかった	説明を受けていない	無回答
平成29年度	908	557	325	16	1	1	8
	100.0	61.3	35.8	1.8	0.1	0.1	0.9
平成27年度	771	427	314	22	1	2	5
	100.0	55.4	40.7	2.9	0.1	0.3	0.6
平成25年度	812	491	276	10	0	1	34
	100.0	60.5	34.0	1.2	0.0	0.1	4.2

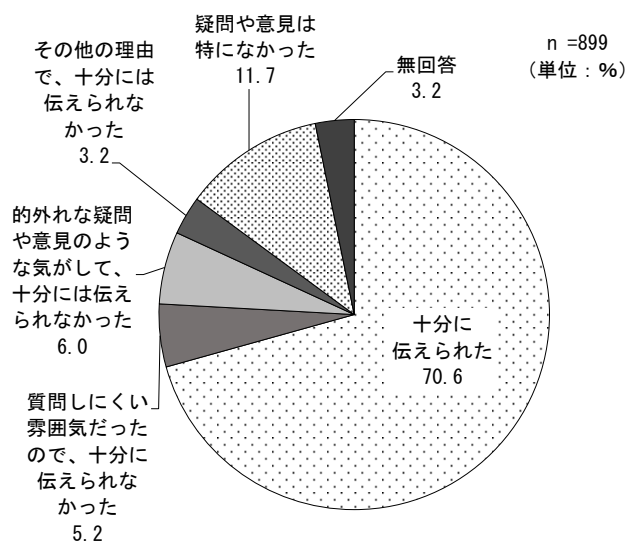
問 12 疑問や意見の医師への意思疎通

問 12 問 11 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

医師から受けた診断や治療方針の説明に対して、あなたの疑問や意見を医師に十分に伝えられましたか。【○はひとつだけ】

診療や治療方針について病院の医師から説明を受けた方の疑問や意見の医師への意思疎通については、「十分に伝えられた」が 70.6%と最も高く、次いで「疑問や意見は特になかった」が 11.7%、「的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった」が 6.0%の順となっている。

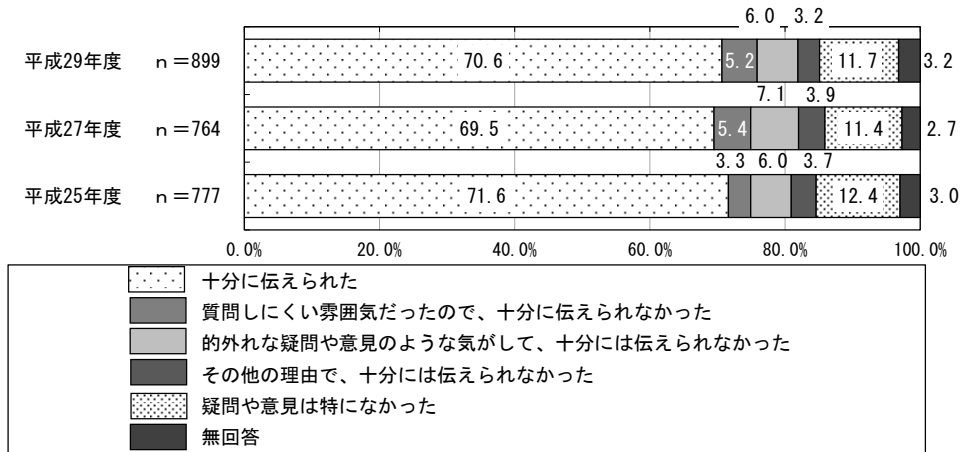
■ 疑問や意見の医師への意思疎通（単数回答/全体）



	n	十分に伝えられた	質問しにくい雰囲気だったので、十分には伝えられなかった	的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった	その他の理由で、十分には伝えられなかった	疑問や意見は特になかった	無回答
全体	899	635	47	54	29	105	29
	100.0	70.6	5.2	6.0	3.2	11.7	3.2

年度間比較をすると、いずれの調査年度も「十分に伝えられた」が約7割を占めている。一方「十分に伝えられなかった」（「質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった」＋「的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった」＋「その他の理由で、十分には伝えられなかった」）は約1割となっている。

■ 疑問や意見の医師への意思疎通（単数回答/年度間比較）



	n	十分に伝えられた	質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった	的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった	その他の理由で、十分には伝えられなかった	疑問や意見は特になかった	無回答
平成29年度	899	635	47	54	29	105	29
	100.0	70.6	5.2	6.0	3.2	11.7	3.2
平成27年度	764	531	41	54	30	87	21
	100.0	69.5	5.4	7.1	3.9	11.4	2.7
平成25年度	777	556	26	47	29	96	23
	100.0	71.6	3.3	6.0	3.7	12.4	3.0

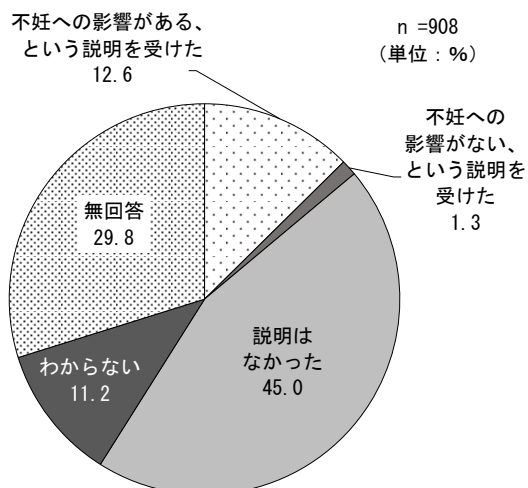
問 13 不妊への影響について説明の有無

問 13 最初のがん治療が開始される前に、その治療による不妊への影響について、医師から説明を受けましたか。【〇はひとつだけ】

不妊への影響について説明の有無については、「説明はなかった」が 45.0%と最も高く、次いで「不妊への影響がある、という説明を受けた」が 12.6%、「わからない」が 11.2%の順となっている。

“説明を受けた”（「不妊への影響がある、という説明を受けた」+「不妊への影響がない、という説明を受けた」）は、13.9%と約1割を占めている。

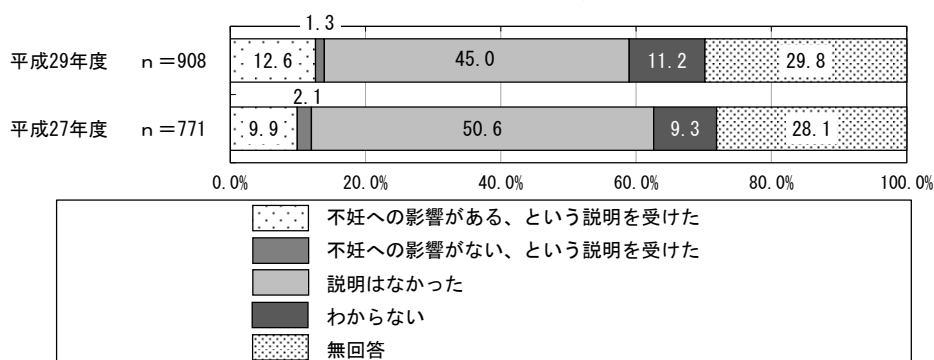
■不妊への影響について説明の有無（単数回答/全体）



	n	い 不 妊 へ の 影 響 が あ る 、 と い う 説 明 を 受 け た	い 不 妊 へ の 影 響 が な い 、 と い う 説 明 を 受 け た	説 明 は な か っ た	わ か ら な い	無 回 答
全体	908	114	12	409	102	271
	100.0	12.6	1.3	45.0	11.2	29.8

年度間比較をすると、『平成 27 年度』で「説明はなかった」は 50.6%であったものが、『平成 29 年度』では同 45.0%となっており、5.6 ポイント (45.0% - 50.6%) 下回っている。

■不妊への影響について説明の有無（単数回答/年度間比較）

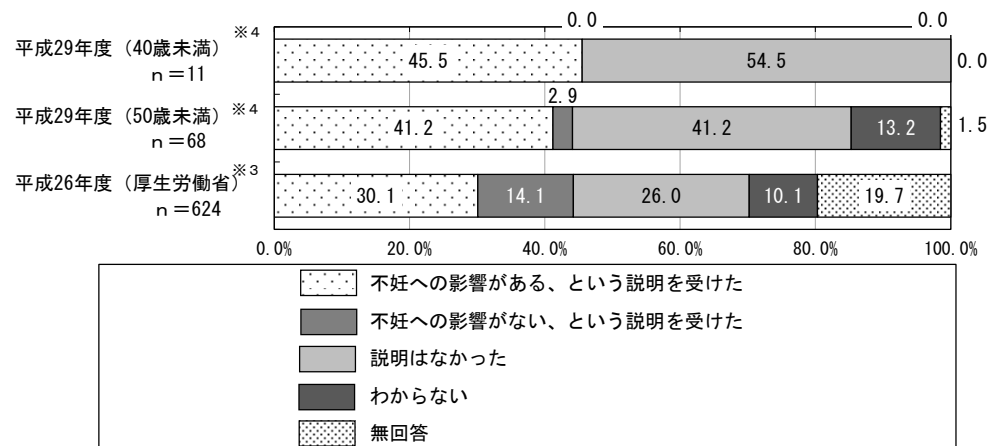


	n	い 不 妊 へ の 影 響 が あ る 、 と い う 説 明 を 受 け た	い 不 妊 へ の 影 響 が な い 、 と い う 説 明 を 受 け た	説 明 は な か っ た	わ か ら な い	無 回 答
平成29年度	908	114	12	409	102	271
	100.0	12.6	1.3	45.0	11.2	29.8
平成27年度	771	76	16	390	72	217
	100.0	9.9	2.1	50.6	9.3	28.1

国の調査（厚生労働省※³）と比較すると、『平成26年度（厚生労働省）』では「不妊への影響がある、という説明を受けた」が30.1%であるのに対し、『平成29年度（40歳未満）※⁴』では45.5%と約1.5倍となっている。

『平成29年度（50歳未満）※⁴』では「不妊への影響がある、という説明を受けた」「説明はなかった」が同率41.2%と最も多くなっている。

■不妊への影響について説明の有無（単数回答/国の調査との比較）



	n	い 不 妊 へ の 影 響 が あ る と	い 不 妊 へ の 影 響 が な い と	説 明 は な か つ た	わ か ら な い	無 回 答
平成29年度 ※ ⁴ (40歳未満)	11 100.0	5 45.5	0 0.0	6 54.5	0 0.0	0 0.0
平成29年度 ※ ⁴ (50歳未満)	68 100.0	28 41.2	2 2.9	28 41.2	9 13.2	1 1.5
平成26年度 ※ ³ (厚生労働省)	624 100.0	188 30.1	88 14.1	162 26.0	63 10.1	123 19.7

※³ 患者体験調査（平成26年度） 厚生労働省

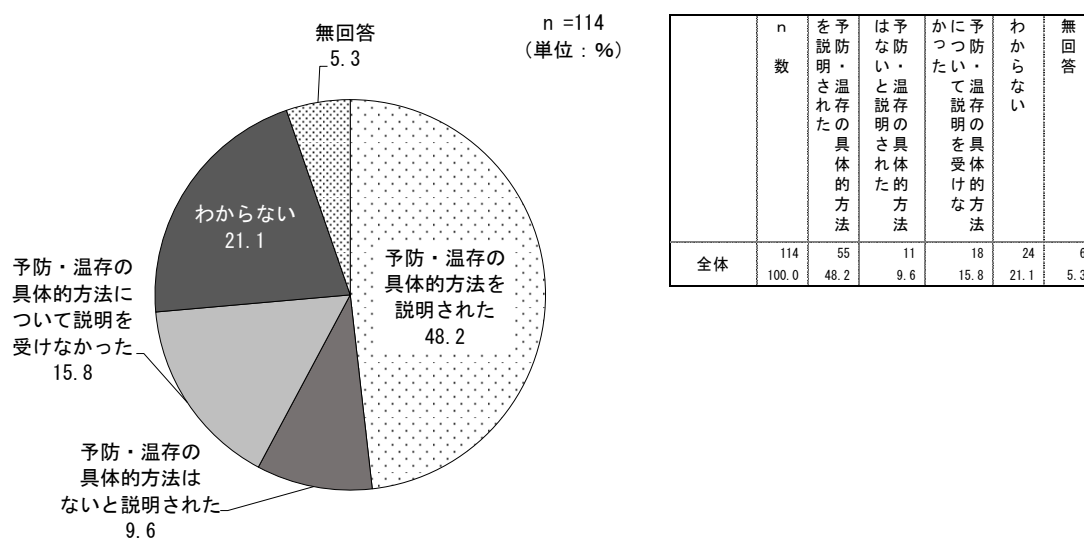
※⁴ 『平成26年度（厚生労働省）』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成29年度』で40歳未満のデータを抽出し再集計している
また50歳未満のデータも再集計し掲載している

問 14 不妊への影響について具体的な説明

問 14 がん治療により不妊になる可能性があることについて、それを予防する、あるいは妊娠する能力を温存するための具体的方法を医師から説明されましたか。【〇はひとつだけ】

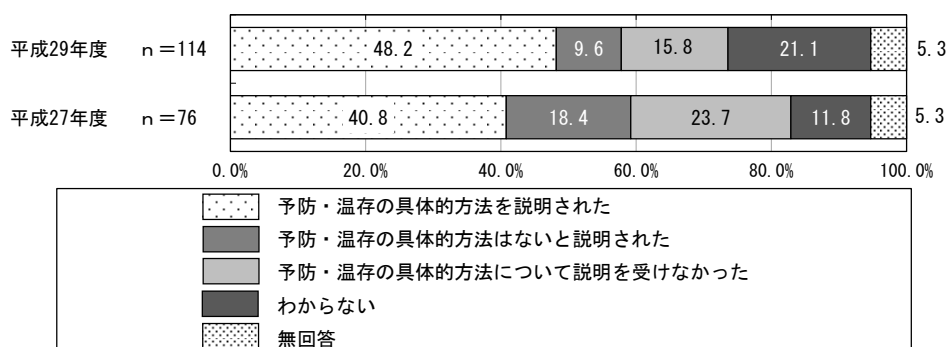
不妊への影響がある、という説明を受けた方の不妊への影響について具体的な説明については、「予防・温存の具体的方法を説明された」が 48.2%と最も高く、次いで「わからない」が 21.1%、「予防・温存の具体的方法について説明を受けなかった」が 15.8%の順となっている。

■不妊への影響について具体的な説明（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『平成 27 年度』で「予防・温存の具体的方法を説明された」は 40.8%であったものが、『平成 29 年度』では同 48.2%となっており、7.4 ポイント (48.2% - 40.8%) 上回っている。

■不妊への影響について具体的な説明（単数回答/年度間比較）

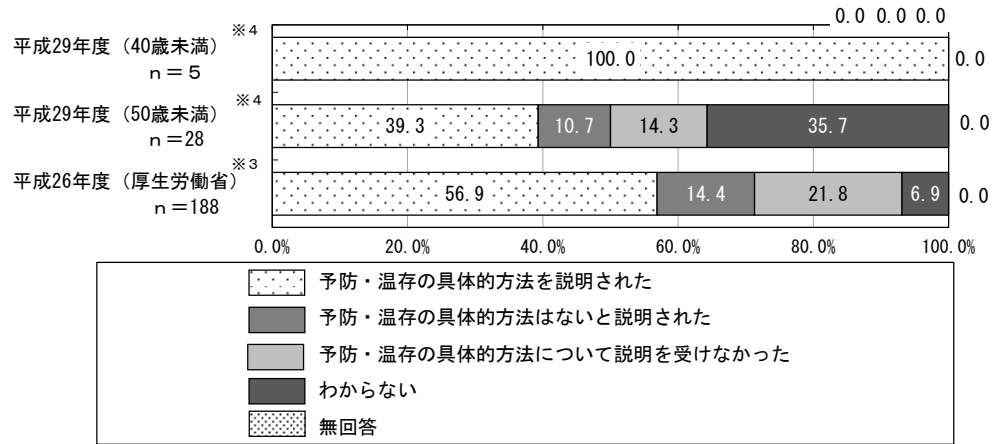


	n	を予防・温存の具体的方法を説明された	は予防・温存の具体的方法はないと説明された	か予防・温存の具体的方法について説明を受けなかった	わからない	無回答
平成29年度	114	55	11	18	24	6
	100.0	48.2	9.6	15.8	21.1	5.3
平成27年度	76	31	14	18	9	4
	100.0	40.8	18.4	23.7	11.8	5.3

国の調査（厚生労働省※³）と比較すると、『平成26年度（厚生労働省）』では「予防・温存の具体的方法を説明された」が56.9%であるのに対し、『平成29年度（40歳未満）※⁴』では100.0%（n数5人の全員）となっている。

『平成29年度（50歳未満）※⁴』では「予防・温存の具体的方法を説明された」が39.3%と最も多くなっている。

■不妊への影響について具体的な説明（単数回答/国の調査との比較）



	n	を予防・温存の具体的方法を説明された	は予防・温存の具体的方法を説明された	かに予防・温存の具体的方法を説明された	わからない	無回答
平成29年度 ※ ⁴ (40歳未満)	5	5	0	0	0	0
平成29年度 ※ ⁴ (50歳未満)	28	11	3	4	10	0
平成26年度 ※ ³ (厚生労働省)	188	107	27	41	13	0
	100.0	56.9	14.4	21.8	6.9	0.0

※³ 患者体験調査（平成26年度） 厚生労働省

※⁴ 『平成26年度（厚生労働省）』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成29年度』で40歳未満のデータを抽出し再集計している
また50歳未満のデータも再集計し掲載している

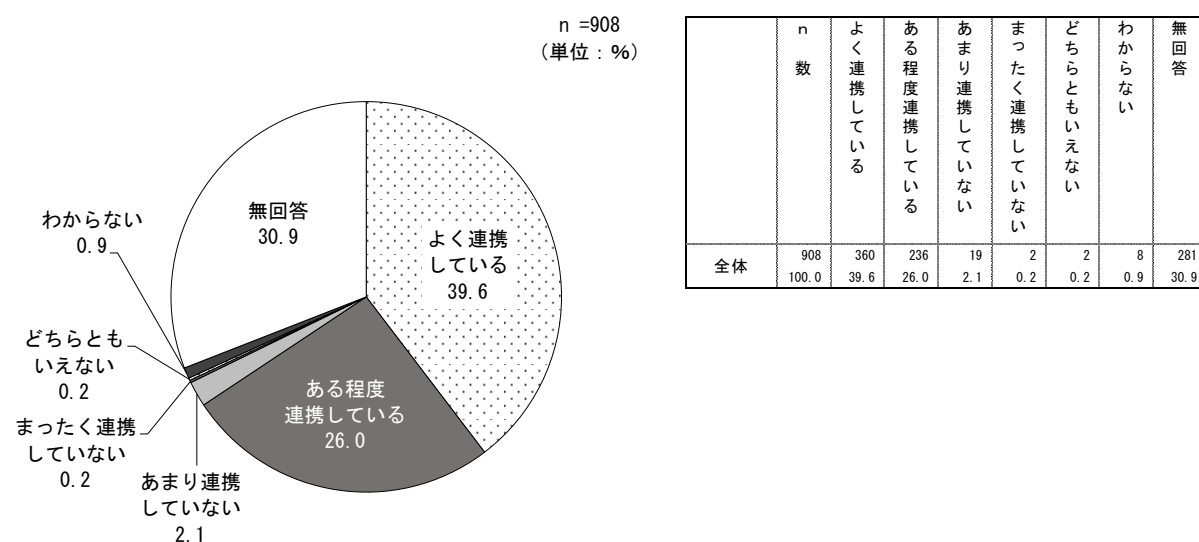
問 15 院内スタッフの連携について

問 15 あなたが治療を受けている病院では、診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフはあなたから見て十分に連携していると思いますか。【〇はひとつだけ】

院内スタッフの連携については、「よく連携している」が 39.6%と最も高く、次いで「ある程度連携している」が 26.0%、「あまり連携していない」が 2.1%の順となっている。

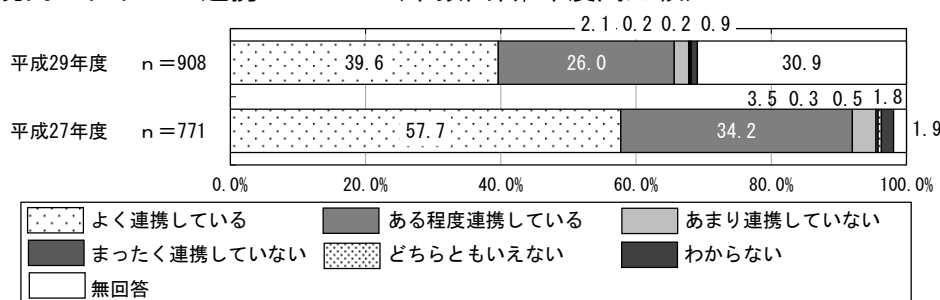
また“連携している”（「よく連携している」＋「ある程度連携している」）は 65.6%と約 6 割を占めている。

■院内スタッフの連携について（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『平成 27 年度』で“連携している”は 91.9%であったものが、『平成 29 年度』では同 65.6%となっており、26.3 ポイント（65.6%－91.9%）下回っている。

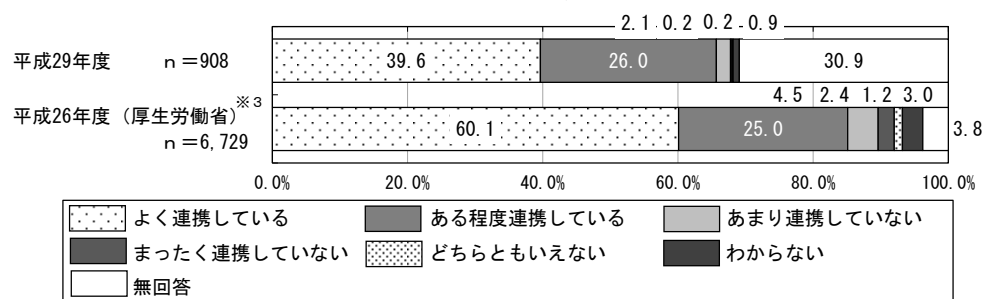
■院内スタッフの連携について（単数回答/年度間比較）



	n	よく連携している	ある程度連携している	あまり連携していない	まったく連携していない	どちらともいえない	わからない	無回答
平成29年度	908	360	236	19	2	2	8	281
	100.0	39.6	26.0	2.1	0.2	0.2	0.9	30.9
平成27年度	771	445	264	27	2	4	14	15
	100.0	57.7	34.2	3.5	0.3	0.5	1.8	1.9

国の調査（厚生労働省※3）と比較すると、『平成26年度（厚生労働省）』では“連携している”が85.1%であるのに対し、『平成29年度』では同65.6%と19.5ポイント（65.6%－85.1%）下回っている。

■院内スタッフの連携について（単数回答/国の調査との比較）



	n	よく連携している	ある程度連携している	あまり連携していない	まったく連携していない	どちらともいえない	わからない	無回答
平成29年度	908	360	236	19	2	2	8	281
	100.0	39.6	26.0	2.1	0.2	0.2	0.9	30.9
平成26年度※3 (厚生労働省)	6,729	4,047	1,681	301	159	82	200	259
	100.0	60.1	25.0	4.5	2.4	1.2	3.0	3.8

※3 患者体験調査（平成26年度） 厚生労働省

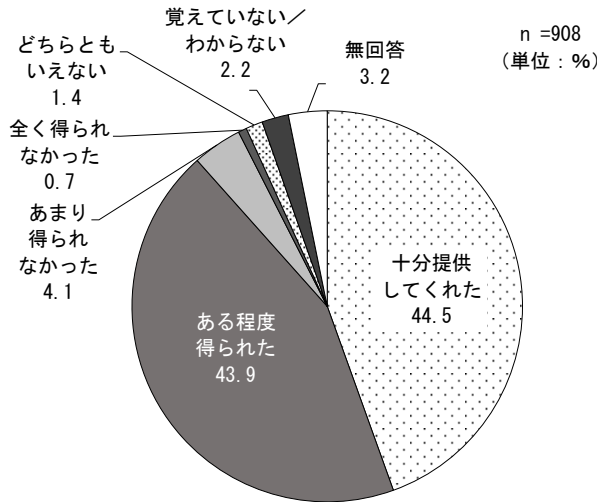
問 16 医師等からの情報提供

問 16 「がん治療」を決めるまでの間、医師、看護師、他のスタッフは、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか。（「がん治療」には治療しないという方針も含みます。）【〇はひとつだけ】

医師等からの情報提供については、「十分提供してくれた」が 44.5%と最も高く、次いで「ある程度得られた」が 43.9%、「あまり得られなかった」が 4.1%の順となっている。

また“情報を得られた”（「十分提供してくれた」＋「ある程度得られた」）は 88.4%と約 8 割を占めている。

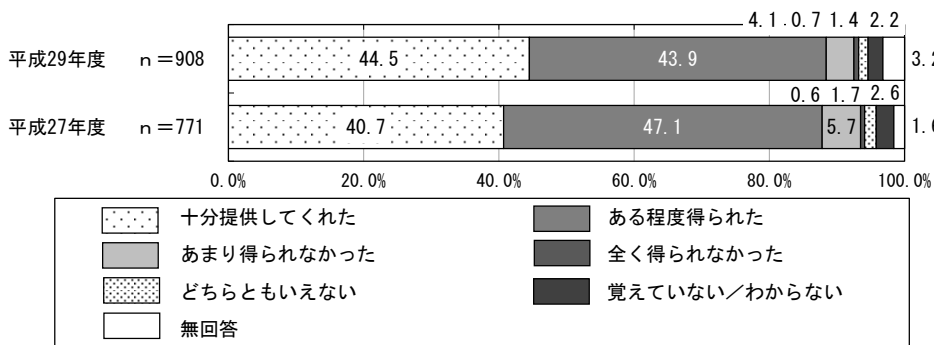
■医師等からの情報提供（単数回答/全体）



	n	十分提供してくれた	ある程度得られた	あまり得られなかった	全く得られなかった	どちらともいえない	覚えていない／わからない	無回答
全体	908	404	399	37	6	13	20	29
	100.0	44.5	43.9	4.1	0.7	1.4	2.2	3.2

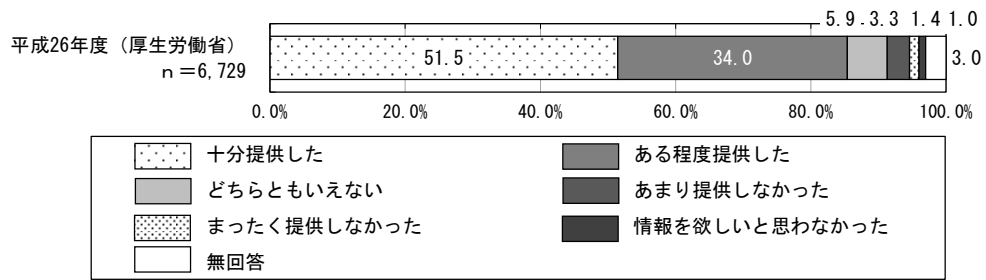
年度間比較をすると、『平成 27 年度』で“情報を得られた”が 87.8%、『平成 29 年度』では同 88.4%となっており、いずれの調査年度も 8 割を越えている。

■医師等からの情報提供（単数回答/年度間比較）



	n	十分提供してくれた	ある程度得られた	あまり得られなかった	全く得られなかった	どちらともいえない	覚えていない／わからない	無回答
平成29年度	908	404	399	37	6	13	20	29
	100.0	44.5	43.9	4.1	0.7	1.4	2.2	3.2
平成27年度	771	314	363	44	5	13	20	12
	100.0	40.7	47.1	5.7	0.6	1.7	2.6	1.6

—参考— 医師等からの情報提供 患者体験調査（平成26年） 厚生労働省



	n	十分提供した	ある程度提供した	どちらともいえない	あまり提供しなかった	まったく提供しなかった	情報を欲しいと思わなかった	無回答
平成26年度 (厚生労働省)	6,729	3,464	2,289	395	222	93	66	200
	100.0	51.5	34.0	5.9	3.3	1.4	1.0	3.0

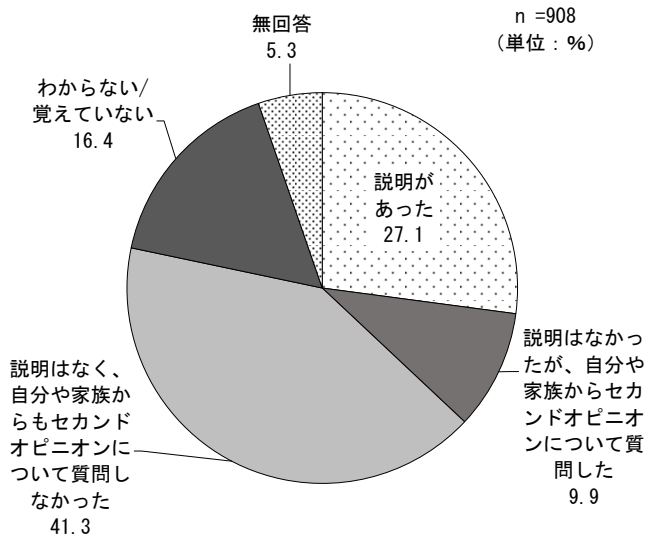
(注)厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄がやや異なるため、参考として記した。

問 17 セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無

問 17 がん治療が始まる前にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を受けられることについて担当医から説明はありましたか。【〇はひとつだけ】

セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無については、「説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった」が41.3%と最も高く、次いで「説明があった」が27.1%、「わからない/覚えていない」が16.4%の順となっている。

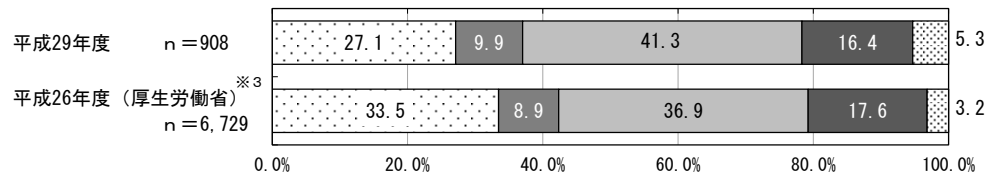
■セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無（単数回答/全体）



	n	説明があった	説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した	説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった	わからない/覚えていない	無回答
全体	908	246	90	375	149	48
	100.0	27.1	9.9	41.3	16.4	5.3

国の調査（厚生労働省^{※3}）と比較すると、『平成26年度（厚生労働省）』では「説明があった」が33.5%であるのに対し、『平成29年度』では同27.1%と6.4ポイント(27.1%－33.5%)下回っている。

■セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無（単数回答/国の調査との比較）



	説明があった
	説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した
	説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった
	わからない/覚えていない
	無回答

	n	説明があった	説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した	説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった	わからない/覚えていない	無回答
平成29年度	908	246	90	375	149	48
	100.0	27.1	9.9	41.3	16.4	5.3
平成26年度 ^{※3} (厚生労働省)	6,729	2,255	597	2,480	1,183	214
	100.0	33.5	8.9	36.9	17.6	3.2

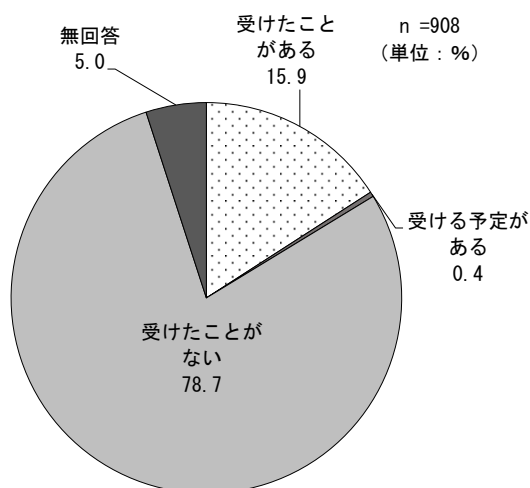
※3 患者体験調査（平成26年度） 厚生労働省

問 18 セカンドオピニオンの経験の有無

問 18 セカンドオピニオンを受けたことがありますか。【〇はひとつだけ】

セカンドオピニオンの経験の有無については、「受けたことがない」が78.7%と最も高く、次いで「受けたことがある」が15.9%、「受ける予定がある」が0.4%の順となっている。

■セカンドオピニオンの経験の有無（単数回答/全体）



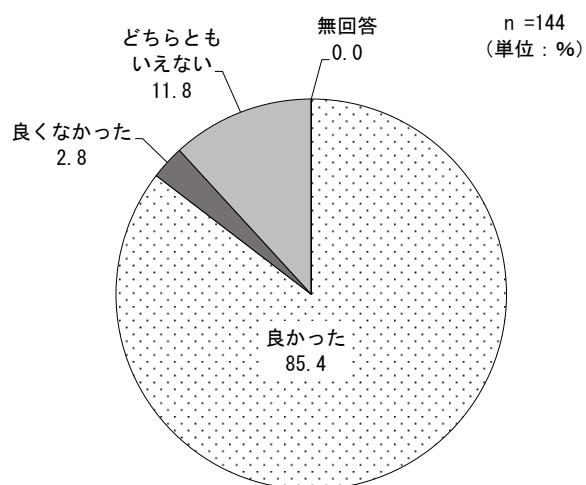
	n 数	受けた ことがある	受ける 予定がある	受けた ことがない	無 回答
全体	908	144	4	715	45
	100.0	15.9	0.4	78.7	5.0

問 19 セカンドオピニオンの満足度

問 19 問 18 で「1. 受けたことがある」と回答された方にお伺いします。
セカンドオピニオンを受けて良かったと思いますか。【〇はひとつだけ】

セカンドオピニオンを受けたことのある方の満足度については、「良かった」が85.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が11.8%、「良くなかった」が2.8%の順となっている。

■セカンドオピニオンの満足度（単数回答/全体）



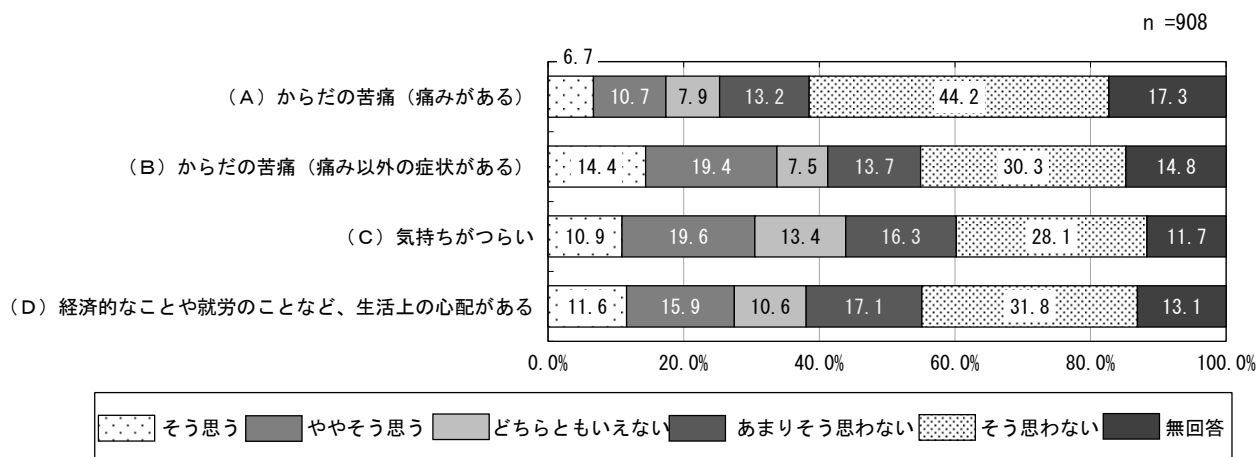
	n 数	良 か つ た	良 く な か つ た	ど ち ら と も い え な い	無 回 答
全体	144	123	4	17	0
	100.0	85.4	2.8	11.8	0.0

問 20 現在の心身の状態

問 20 現在の心身の状態についてお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

- (A) からだの苦痛（痛みがある）については、「そう思わない」が 44.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が 13.2%、「ややそう思う」が 10.7%の順となっている。
“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）は、17.4%、一方“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は 57.4%となっており、後者は前者の約 3.3 倍となっている。
- (B) からだの苦痛（痛み以外の症状がある）については、「そう思わない」が 30.3%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 19.4%、「そう思う」が 14.4%の順となっている。
“思う”は 33.8%、一方“思わない”は 44.0%となっており、後者は前者の約 1.3 倍となっている。
- (C) 気持ちがつらいについては、「そう思わない」が 28.1%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 19.6%、「あまりそう思わない」が 16.3%の順となっている。
“思う”は 30.5%、一方“思わない”は 44.4%となっており、後者は前者の約 1.5 倍となっている。
- (D) 経済的なことや就労のことなど、生活上の心配があるについては、「そう思わない」が 31.8%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が 17.1%、「ややそう思う」が 15.9%の順となっている。
“思う”は 27.5%、一方“思わない”は 48.9%となっており、後者は前者の約 1.8 倍となっている。

■現在の心身の状態（単数回答/全体）

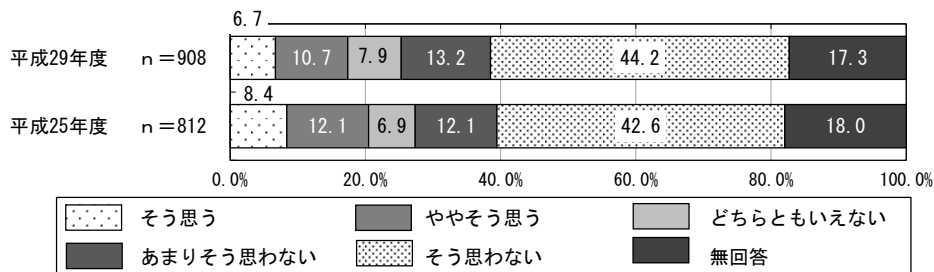


	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
か ら だ の 苦 痛 が あ る	908	61	97	72	120	401	157
(A) 痛みがある	100.0	6.7	10.7	7.9	13.2	44.2	17.3
(B) 痛み以外の症状がある	908	131	176	68	124	275	134
100.0	14.4	19.4	7.5	13.7	30.3	14.8	
(C) 気持ちがつらい	908	99	178	122	148	255	106
100.0	10.9	19.6	13.4	16.3	28.1	11.7	
(D) 経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある	908	105	144	96	155	289	119
100.0	11.6	15.9	10.6	17.1	31.8	13.1	

(A) からだの苦痛 (痛みがある)

年度間比較をしてみると、『平成25年度』とほぼ同じ傾向となっている。『平成29年度』では“思う”(「思う」+「やや思う」)が3.1ポイント(17.4%→20.5%)下回り、一方“思わない”(「そう思わない」+「あまり思わない」)が2.7ポイント(57.4%→54.7%)上回っている。

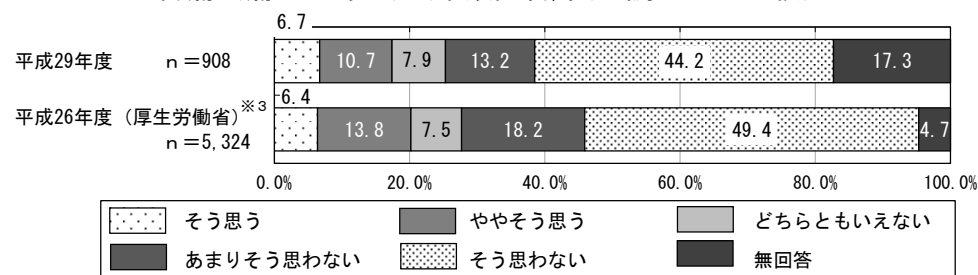
■ からだの苦痛 (痛みがある) (単数回答/年度間比較)



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない	無回答
平成29年度	908	61	97	72	120	401	157
	100.0	6.7	10.7	7.9	13.2	44.2	17.3
平成25年度	812	68	98	56	98	346	146
	100.0	8.4	12.1	6.9	12.1	42.6	18.0

国の調査(厚生労働省※3)と比較すると、『平成26年度(厚生労働省)』とほぼ同じ傾向になっている。『平成29年度』では“思う”が2.8ポイント(17.4%→20.2%)、また“思わない”も10.2ポイント(57.4%→67.6%)下回っている。

■ からだの苦痛 (痛みがある) (単数回答/国の調査との比較)



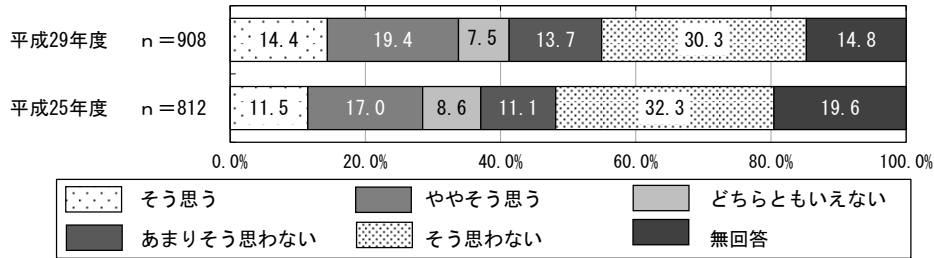
	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない	無回答
平成29年度	908	61	97	72	120	401	157
	100.0	6.7	10.7	7.9	13.2	44.2	17.3
平成26年度※3(厚生労働省)	5,324	337	721	390	954	2,585	247
	100.0	6.4	13.8	7.5	18.2	49.4	4.7

※3 患者体験調査(平成26年度) 厚生労働省

(B) からだの苦痛（痛み以外の症状がある）

年度間比較をしてみると、『平成25年度』とほぼ同じ傾向となっている。『平成29年度』では“思う”（「思う」＋「やや思う」）が5.3ポイント（33.8%－28.5%）、また“思わない”（「思わない」＋「あまり思わない」）も0.6ポイント（44.0%－43.4%）上回っている。

■ からだの苦痛（痛み以外の症状がある）（単数回答/年度間比較）

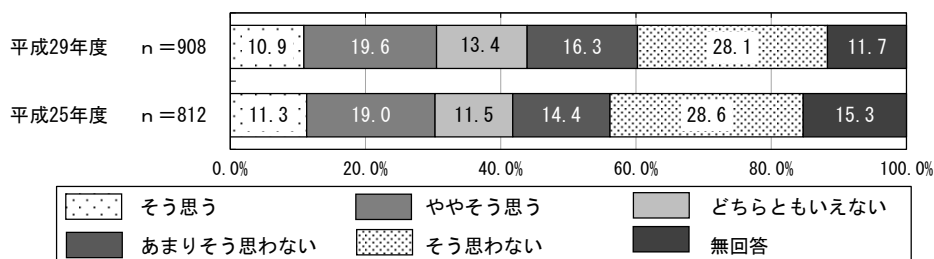


	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	無回答
平成29年度	908	131	176	68	124	275	134
	100.0	14.4	19.4	7.5	13.7	30.3	14.8
平成25年度	812	93	138	70	90	262	159
	100.0	11.5	17.0	8.6	11.1	32.3	19.6

(C) 気持ちがつらい

年度間比較をしてみると、『平成25年度』とほぼ同じ傾向となっている。『平成29年度』では“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が0.2ポイント（30.5%－30.3%）、また“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）も1.4ポイント（44.4%－43.0%）上回っている。

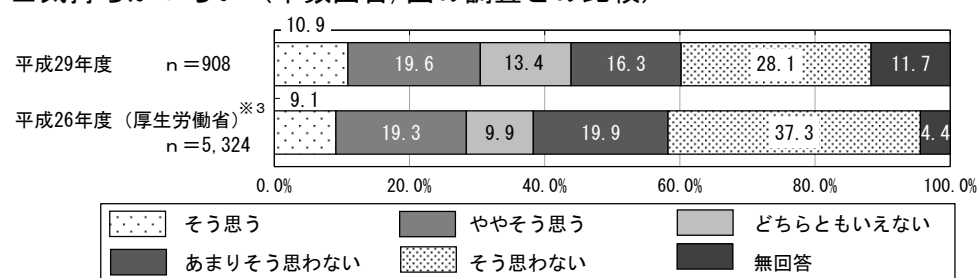
■気持ちがつらい（単数回答/年度間比較）



	n	思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
平成29年度	908	99	178	122	148	255	106
平成25年度	812	92	154	93	117	232	124

国の調査（厚生労働省^{※3}）と比較すると、『平成29年度』では“思う”が2.1ポイント（30.5%－28.4%）上回り、一方“思わない”が12.8ポイント（44.4%－57.2%）下回っている。

■気持ちがつらい（単数回答/国の調査との比較）



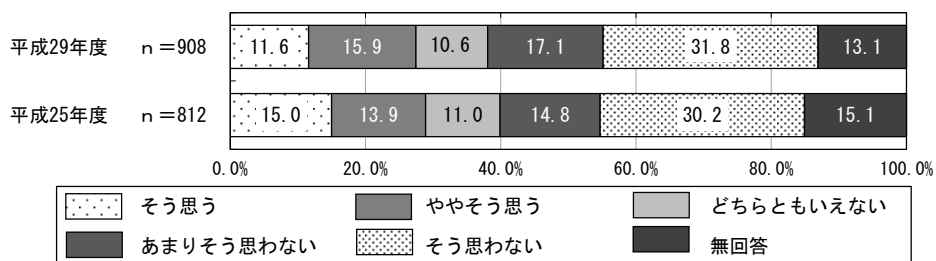
	n	思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
平成29年度	908	99	178	122	148	255	106
平成26年度 ^{※3} （厚生労働省）	5,324	477	1,011	520	1,044	1,953	229

※3 患者体験調査（平成26年度） 厚生労働省

(D) 経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある

年度間比較をしてみると、『平成25年度』とほぼ同じ傾向となっている。『平成29年度』では“思う”（「思う」＋「やや思う」）が1.4ポイント（27.5%－28.9%）下回り、一方“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が3.9ポイント（48.9%－45.0%）上回っている。

■経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
平成29年度	908	105	144	96	155	289	119
平成25年度	812	122	113	89	120	245	123

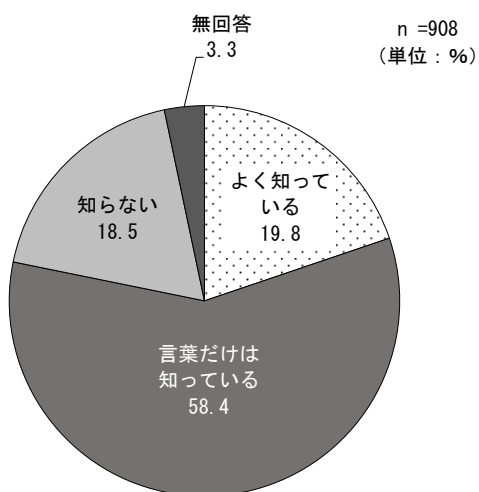
問 21 緩和ケアの認知度

問 21 「がん医療における緩和ケア（以下「緩和ケア」）」とは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさを和らげるとともに、がんになったことによる様々な不安に対し、それを解消することですが、あなたは、がん医療における「緩和ケア」について知っていますか。
【〇はひとつだけ】

緩和ケアの認知度については、「言葉だけは知っている」が 58.4%と最も高く、次いで「よく知っている」が 19.8%、「知らない」が 18.5%の順となっている。

また“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）は 78.2%と約8割を占めている。

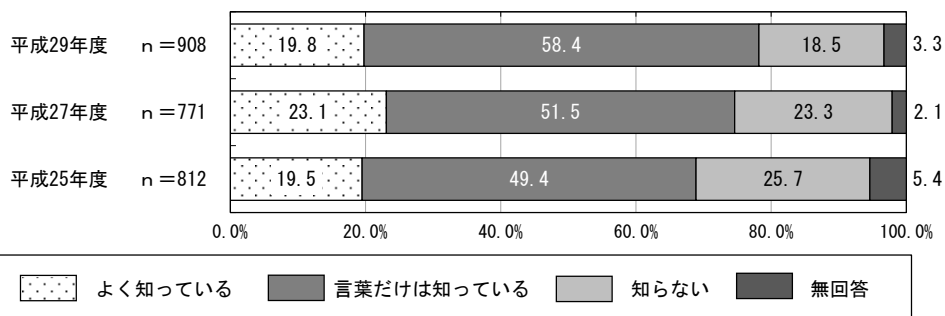
■緩和ケアの認知度（単数回答/全体）



	n 数	よく 知っ ている	言葉 だけ は知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
全体	908	180	530	168	30
	100.0	19.8	58.4	18.5	3.3

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）が 68.9%であったものが、調査年毎に増加し『平成 29 年度』では同 78.2%となっており、9.3 ポイント（78.2%－68.9%）上回っている。

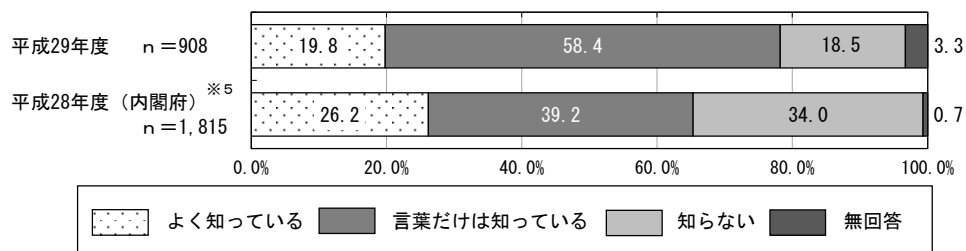
■緩和ケアの認知度（単数回答/年度間比較）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
平成29年度	908 100.0	180 19.8	530 58.4	168 18.5	30 3.3
平成27年度	771 100.0	178 23.1	397 51.5	180 23.3	16 2.1
平成25年度	812 100.0	158 19.5	401 49.4	209 25.7	44 5.4

国の調査（内閣府^{※5}）と比較すると、『平成 28 年度（内閣府）』では“知っている”が 65.4%であるのに対し、『平成 29 年度』では同 78.2%と 12.8 ポイント（78.2%－65.4%）上回っている。

■緩和ケアの認知度（単数回答/国の調査との比較）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	わからない
平成29年度	908 100.0	180 19.8	530 58.4	168 18.5	30 3.3
平成28年度 ^{※5} （内閣府）	1,815 100.0	—	—	—	—

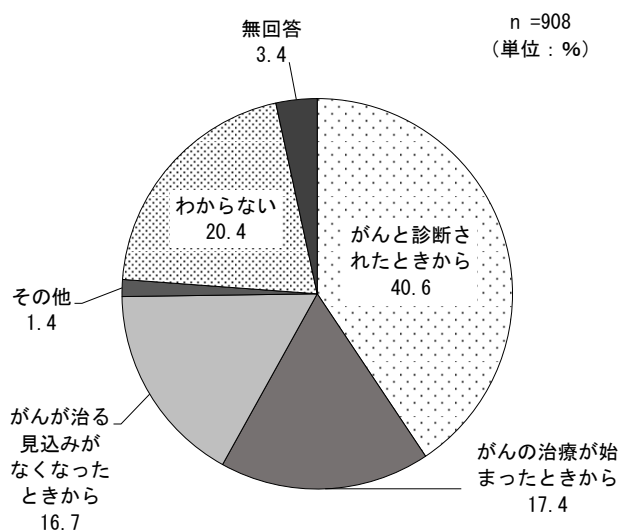
※5 がん対策に関する世論調査（平成 28 年 11 月） 内閣府
内閣府の調査データで選択肢「わからない」は本報告書では無回答としている

問 22 緩和ケアを開始すべき時期の認識

問 22 「緩和ケア」はいつから実施されるべきものと思っていますか。【○はひとつだけ】

緩和ケアを開始すべき時期の認識については、「がんと診断されたときから」が 40.6%と最も高く、次いで「わからない」が 20.4%、「がんの治療が始まったときから」が 17.4%の順となっている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/全体）



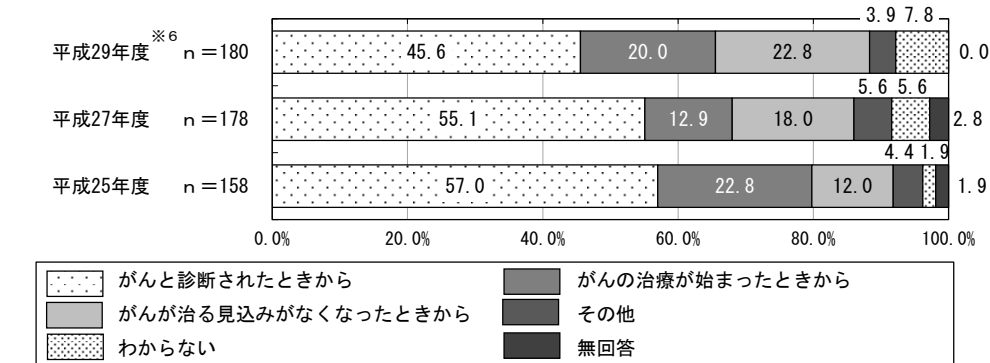
	n	ら	が	な	そ	わ	無
	数	が	が	が	他	か	回
		ん	ん	ん		ら	答
		と	の	が		な	
		診	治	ん		い	
		断	療	が		わ	
		さ	が	治		ら	
		れ	始	る		な	
		た	ま	見		い	
		と	っ	込		わ	
		き	ま	み		ら	
		か	っ	が		な	
			た	が		い	
			と	な		わ	
			き	く		ら	
			か	く		な	
						い	
全体	908	369	158	152	13	185	31
	100.0	40.6	17.4	16.7	1.4	20.4	3.4

【その他】

- ・本人が必要と感じたとき（4件）
- ・人によって違う（3件）
- ・苦痛が酷くなったとき（2件）

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「がんが治る見込みがなくなったときから」が 12.0%であったものが、『平成 29 年度^{※6}』では同 22.8%となっており、10.8 ポイント (22.8%－12.0%) 上回っている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/年度間比較）

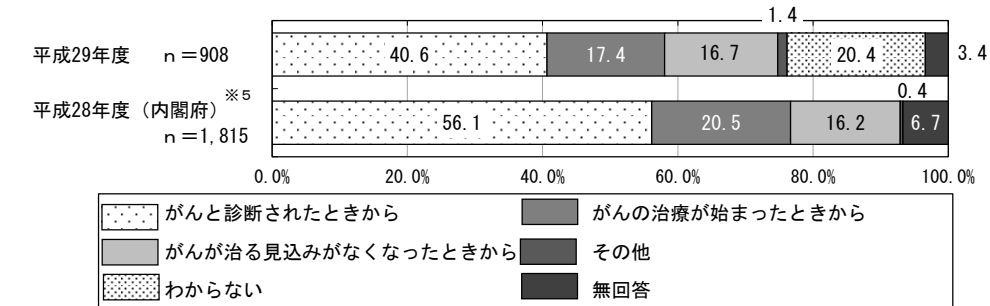


	n	らがん	きが	なが	そ	わ	無
	数	んと	からの	なが	の	から	回
		診断	治療	が	他	な	答
		され	が始	つ		ら	
		た	ま	た		な	
		とき	つ	が		い	
		か	た	ら		い	
			と	見			
				込			
				み			
				が			
				な			
				く			
平成29年度 ^{※6}	180	82	36	41	7	14	0
	100.0	45.6	20.0	22.8	3.9	7.8	0.0
平成27年度	178	98	23	32	10	10	5
	100.0	55.1	12.9	18.0	5.6	5.6	2.8
平成25年度	158	90	36	19	7	3	3
	100.0	57.0	22.8	12.0	4.4	1.9	1.9

※6 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

国の調査（内閣府^{※5}）と比較すると、『平成 28 年度（内閣府）』では「がんが診断されたときから」が 56.1%であるのに対し、『平成 29 年度』では同 40.6%と 15.5 ポイント (40.6%－56.1%) 下回っている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/国の調査との比較）



	n	らがん	きが	なが	そ	わ	無
	数	んと	からの	なが	の	から	回
		診断	治療	が	他	な	答
		され	が始	つ		ら	
		た	ま	た		な	
		とき	つ	が		い	
		か	た	ら			
			と	見			
				込			
				み			
				が			
				な			
				く			
平成29年度	908	369	158	152	13	185	31
	100.0	40.6	17.4	16.7	1.4	20.4	3.4
平成28年度 ^{※5} （内閣府）	1,815	-	-	-	-	-	-
	100.0	56.1	20.5	16.2	0.4	-	6.7

※5 がん対策に関する世論調査（平成 28 年 11 月）内閣府
内閣府の調査データで選択肢「わからない」は本報告書では無回答としている

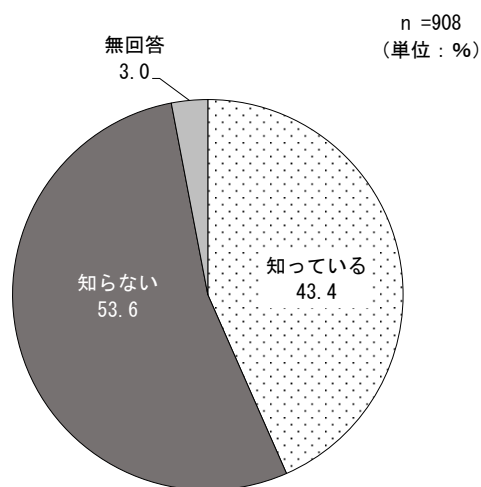
問 23 緩和ケア外来の認知度

問 23 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「緩和ケア外来」（注参照）を知っていますか。
【〇はひとつだけ】

（注）緩和ケア外来：一定の要件を満たす医療機関として国や県が指定した「がん診療連携拠点病院」等には、通院中の患者さんが緩和ケアを受けられる「緩和ケア外来」が設置されている。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、南奈良総合医療センターに設置。

緩和ケア外来の認知度については、「知らない」が 53.6%、「知っている」が 43.4%、となっている。

■緩和ケア外来の認知度（単数回答/全体）



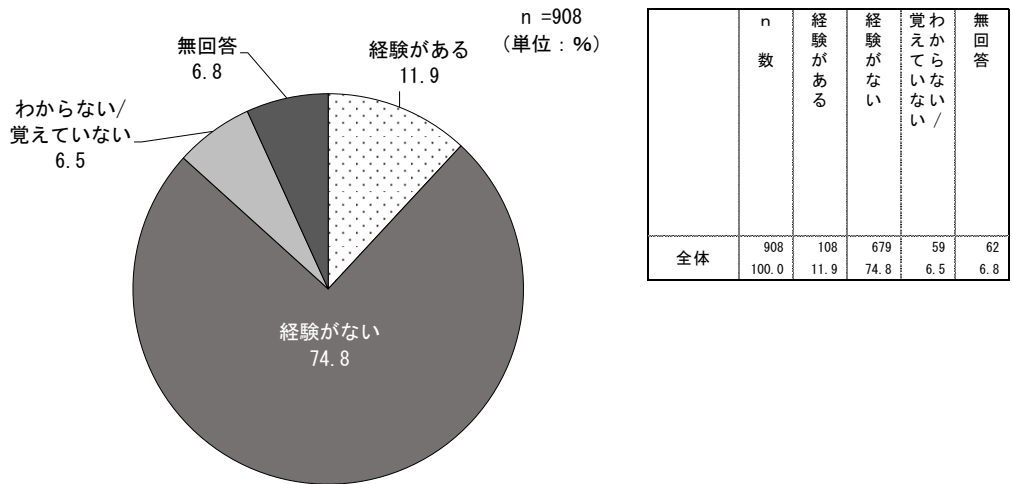
	n 数	知 つ て い る	知 ら な い	無 回 答
全体	908	394	487	27
	100.0	43.4	53.6	3.0

問 24-1 からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無

(問 24 現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。)
 問 24-1 「からだの苦痛」について、(主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで) 緩和ケアを受けた経験はありますか。【〇はひとつだけ】

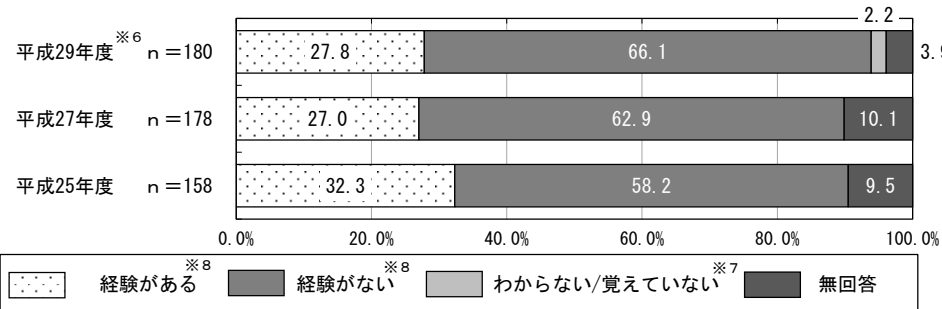
からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無については、「経験がない」が 74.8%と最も高く、次いで「経験がある」が 11.9%、「わからない/覚えていない」が 6.5%の順となっている。

■からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無 (単数回答/全体)



年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「経験がない」が 58.2%であったものが、『平成 29 年度^{※6}』では同 66.1%となっており、7.9 ポイント (66.1% - 58.2%) 上回っている。

■からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無 (単数回答/年度間比較)



	n	経験がある	経験がない	覚えていない/わからない	無回答
平成29年度 ^{※6}	180	50	119	4	7
	100.0	27.8	66.1	2.2	3.9
平成27年度	178	48	112	-	18
	100.0	27.0	62.9	-	10.1
平成25年度	158	51	92	-	15
	100.0	32.3	58.2	-	9.5

※6 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の問 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している
 ※7 選択肢「わからない/覚えていない」は平成 29 年度より調査
 ※8 選択肢「経験がある」「経験がない」は『平成 25 年度』『平成 27 年度』では、「ある」「ない」となっている

問 24-2 からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善

(問 24 現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。)

問 24-2 問24-1で「からだの苦痛」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。

「からだの苦痛」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

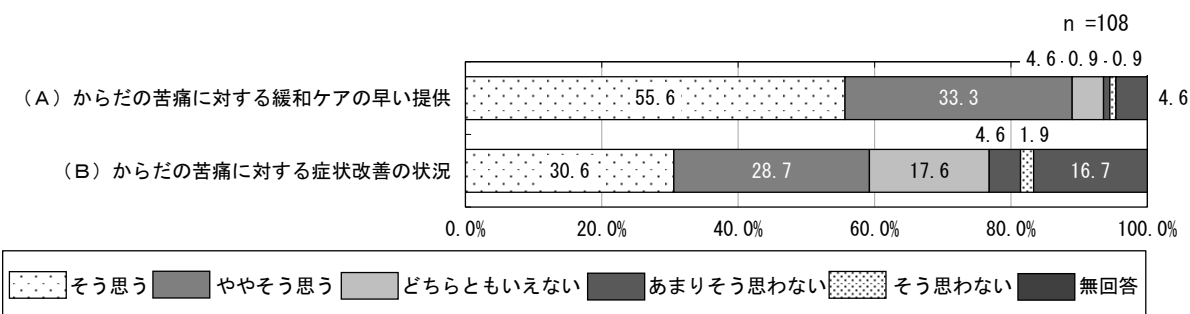
(A) からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供については、「そう思う」が 55.6%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 33.3%、「どちらともいえない」が 4.6%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 88.9%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 1.8%となっており、“思う”が8割を越えている。

(B) からだの苦痛に対する症状改善の状況については、「そう思う」が 30.6%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 28.7%、「どちらともいえない」が 17.6%の順となっている。

“思う”が 59.3%、一方“思わない”が 6.5%となっており、“思う”が約6割を占めている。

■からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善（単数回答/全体）

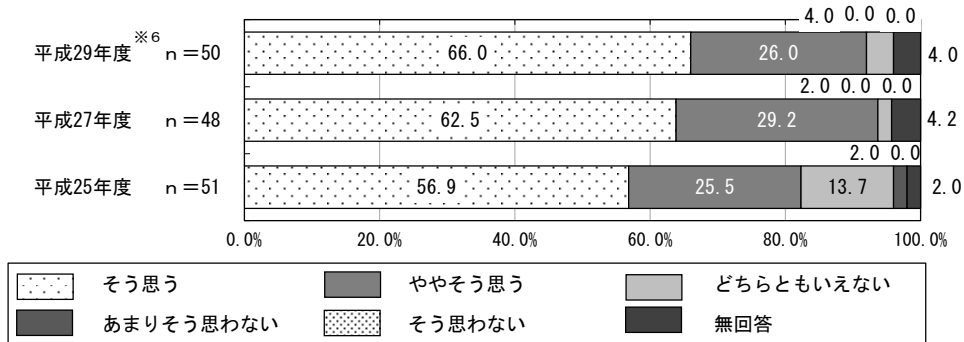


	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(A) からだの苦痛に対する 緩和ケアの早い提供	108 100.0	60 55.6	36 33.3	5 4.6	1 0.9	1 0.9	5 4.6
(B) からだの苦痛に対する 症状改善の状況	108 100.0	33 30.6	31 28.7	19 17.6	5 4.6	2 1.9	18 16.7

(A) からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 82.4%であったものが『平成 29 年度※6』では同 92.0%となっており、9.6 ポイント（92.0%－82.4%）上回っている。

■からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供（単数回答/年度間比較）



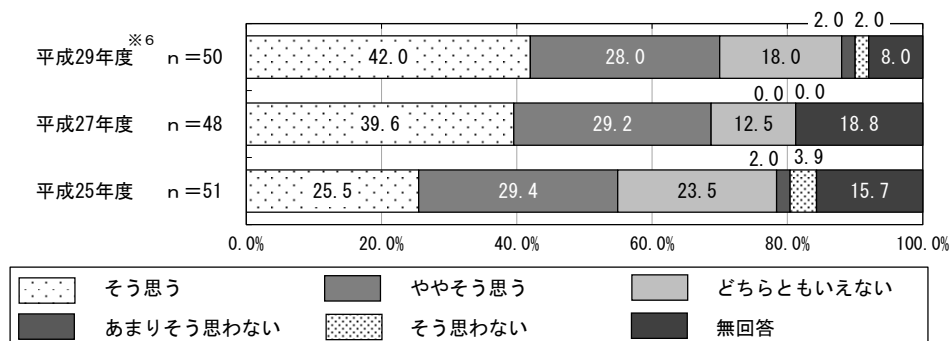
	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
平成29年度※6	50	33	13	2	0	0	2
	100.0	66.0	26.0	4.0	0.0	0.0	4.0
平成27年度	48	30	14	2	0	0	2
	100.0	62.5	29.2	2.0	0.0	0.0	4.2
平成25年度	51	29	13	7	1	0	1
	100.0	56.9	25.5	13.7	2.0	0.0	2.0

※6 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

(B) からだの苦痛に対する症状改善の状況

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 54.9%であったものが『平成 29 年度※6』では同 70.0%となっており、15.1 ポイント（70.0%－54.9%）上回っている。

■からだの苦痛に対する症状改善の状況（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
平成29年度※6	50	21	14	9	1	1	4
	100.0	42.0	28.0	18.0	2.0	2.0	8.0
平成27年度	48	19	14	6	0	0	9
	100.0	39.6	29.2	12.5	0.0	0.0	18.8
平成25年度	51	13	15	12	1	2	8
	100.0	25.5	29.4	23.5	2.0	3.9	15.7

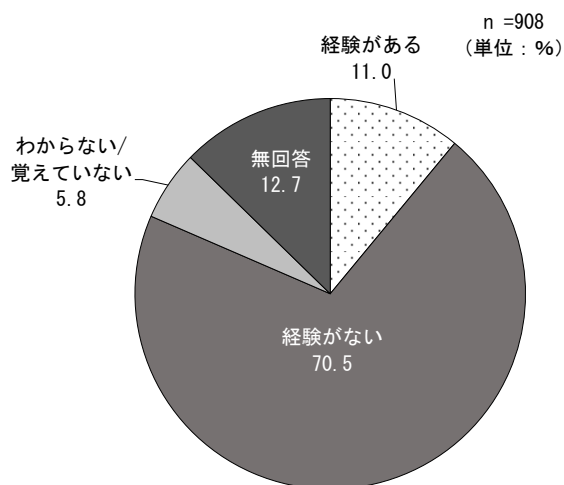
※6 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

問 24-3 気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無

(問 24 **現在かかっている病院**で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。)
 問 24-3 「**気持ちのつらさ**」について、(主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで) 緩和ケアを受けた経験はありますか。【○はひとつだけ】

気持ちのつらさについては、「経験がない」が 70.5%と最も高く、次いで「経験がある」が 11.0%、「わからない/覚えていない」が 5.8%の順となっている。

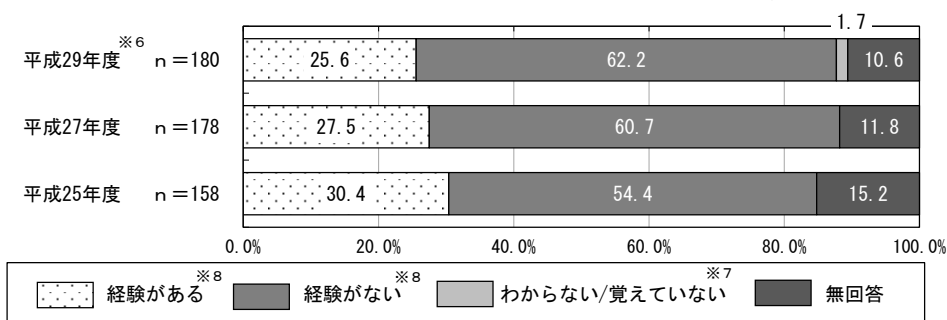
■気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無 (単数回答/全体)



	n	経験がある	経験がない	わからない/覚えていない/	無回答
全体	908	100	640	53	115
	100.0	11.0	70.5	5.8	12.7

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「経験がない」が 54.4%であったものが、『平成 29 年度^{※6}』では同 62.2%となっており、7.8 ポイント (62.2% - 54.4%) 上回っている。

■気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無 (単数回答/年度間比較)



	n	経験がある	経験がない	わからない/覚えていない/	無回答
平成29年度 ^{※6}	180	46	112	3	19
	100.0	25.6	62.2	1.7	10.6
平成27年度	178	49	108	-	21
	100.0	27.5	60.7	-	11.8
平成25年度	158	48	86	-	24
	100.0	30.4	54.4	-	15.2

※6 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の問 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

※7 選択肢「わからない/覚えていない」は平成 29 年度より調査

※8 選択肢「経験がある」「経験がない」は『平成 25 年度』『平成 27 年度』では、「ある」「ない」となっている

問 24-4 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善

(問 24 現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。)

問 24-4 問 24-3 で「気持ちのつらさ」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。

「気持ちのつらさ」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。

また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

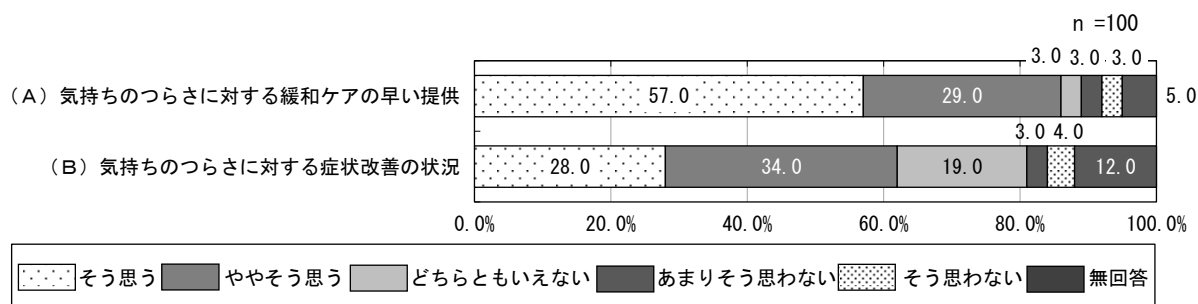
(A) 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供については、「そう思う」が 57.0%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 29.0%、「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」が同率 3.0%の順となっている。

“思う”(「そう思う」+「ややそう思う」)が 86.0%、一方“思わない”(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)が 6.0%となっており、“思う”が 8割を越えている。

(B) 気持ちのつらさに対する症状改善の状況については、「ややそう思う」が 34.0%と最も高く、次いで「そう思う」が 28.0%、「どちらともいえない」が 19.0%の順となっている。

“思う”が 62.0%、一方“思わない”が 7.0%となっており、“思う”が約 6割を占めている。

■気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善（単数回答/全体）

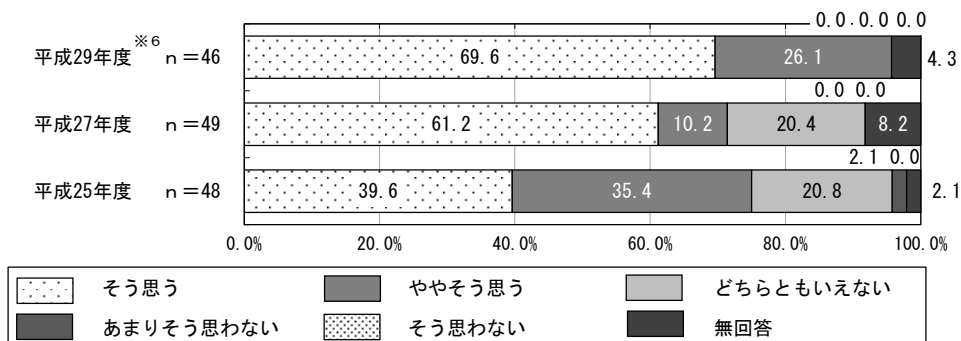


	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(A) 気持ちのつらさに対する 緩和ケアの早い提供	100 100.0	57 57.0	29 29.0	3 3.0	3 3.0	3 3.0	5 5.0
(B) 気持ちのつらさに対する 症状改善の状況	100 100.0	28 28.0	34 34.0	19 19.0	3 3.0	4 4.0	12 12.0

(A) 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 75.0%であったものが、『平成 29 年度※6』では同 95.7%となっており、20.7 ポイント（95.7%－75.0%）上回っている。

■気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供（単数回答/年度間比較）



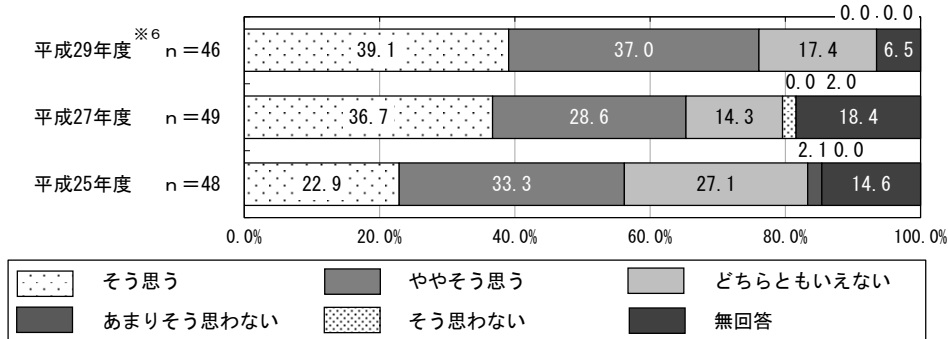
	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
平成29年度※6	46	32	12	0	0	0	2
	100.0	69.6	26.1	0.0	0.0	0.0	4.3
平成27年度	49	30	5	5	0	0	4
	100.0	61.2	10.2	20.4	0.0	0.0	8.2
平成25年度	48	19	17	10	1	0	1
	100.0	39.6	35.4	20.8	2.1	0.0	2.1

※6 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

(B) 気持ちのつらさに対する症状改善の状況

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 56.2%であったものが、『平成 29 年度※6』では同 76.1%となっており、19.9 ポイント（76.1%－56.2%）上回っている。

■気持ちのつらさに対する症状改善の状況（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
平成29年度※6	46	18	17	8	0	0	3
	100.0	39.1	37.0	17.4	0.0	0.0	6.5
平成27年度	49	18	14	7	0	1	9
	100.0	36.7	28.6	14.3	0.0	2.0	18.4
平成25年度	48	11	16	13	1	0	7
	100.0	22.9	33.3	27.1	2.1	0.0	14.6

※6 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の間 21 で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

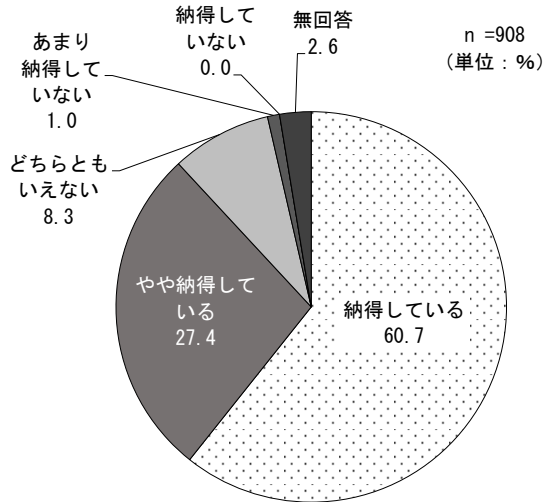
問 25 受けた治療の納得感

問 25 あなたはこれまで受けた治療に納得していますか。【○はひとつだけ】

受けた治療の納得感については、「納得している」が 60.7%と最も高く、次いで「やや納得している」が 27.4%、「どちらともいえない」が 8.3%の順となっている。

“納得している”（「納得している」＋「やや納得している」）が 88.1%、一方“納得していない”（「あまり納得していない」＋「納得していない」）が 1.0%となっており、“納得している”が約 8 割を占めている。

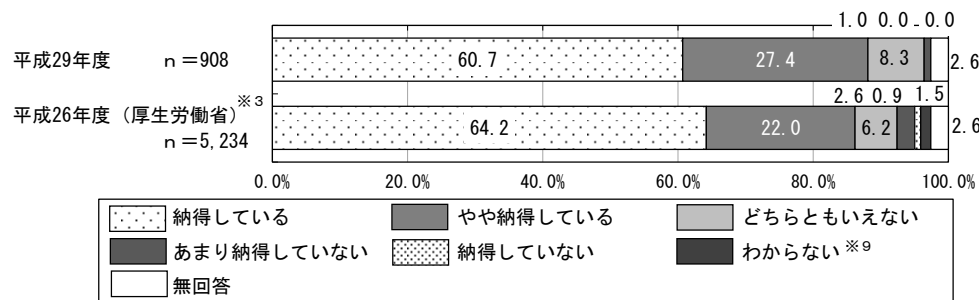
■受けた治療の納得感（単数回答/全体）



	n 数	納得している	やや納得している	どちらともいえない	あまり納得していない	納得していない	無回答
全体	908	551	249	75	9	0	24
	100.0	60.7	27.4	8.3	1.0	0.0	2.6

国の調査（厚生労働省^{※3}）と比較すると、『平成 26 年度（厚生労働省）』では“納得している”が 86.2%であるのに対し、『平成 29 年度』では同 88.1%と 1.9 ポイント (88.1%－86.2%) 上回っている。

■受けた治療の納得感（単数回答/国の調査との比較）



	n 数	納得している	やや納得している	どちらともいえない	あまり納得していない	納得していない	わからない ^{※9}	無回答
平成 29 年度	908	551	249	75	9	0	-	24
平成 26 年度 ^{※3} (厚生労働省)	5,234	3,360	1,150	326	137	47	77	137
	100.0	64.2	22.0	6.2	2.6	0.9	1.5	2.6

※3 患者体験調査（平成 26 年） 厚生労働省
 ※9 選択肢「わからない」は『平成 26 年度（厚生労働省）』だけ調査

2-2. 地域連携について

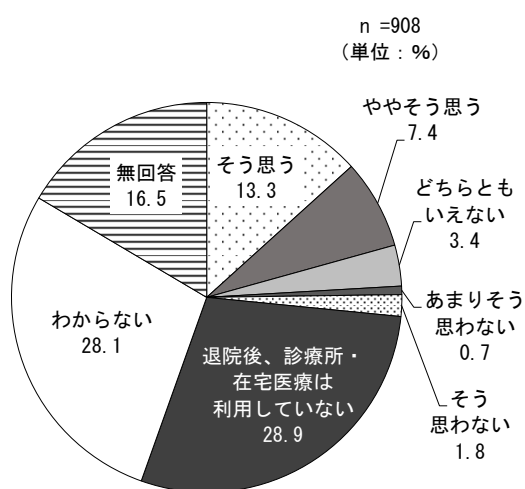
問 26 在宅医療・移行時の情報伝達について

問 26 病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での情報（診療方針）が診療所・訪問看護ステーションに円滑に伝わったと思いますか。【〇はひとつだけ】

在宅医療・移行時の情報伝達については、「退院後、診療所・在宅医療は利用していない」が28.9%と最も高く、次いで「わからない」が28.1%、「そう思う」が13.3%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が20.7%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が2.5%となっており、“思う”が約2割を占めている。

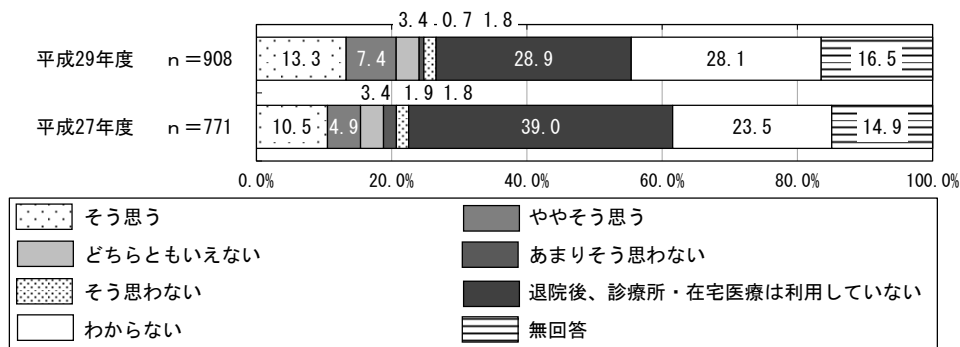
■在宅医療・移行時の情報伝達について（単数回答/全体）



	n 数	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	退 院 後 、 診 療 所 ・ 在 宅 医 療 は 利 用 し て い な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	908	121	67	31	6	16	262	255	150
	100.0	13.3	7.4	3.4	0.7	1.8	28.9	28.1	16.5

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 15.4%であったものが、『平成 29 年度』では同 20.7%となっており、5.3 ポイント（20.7%－15.4%）上回っている。

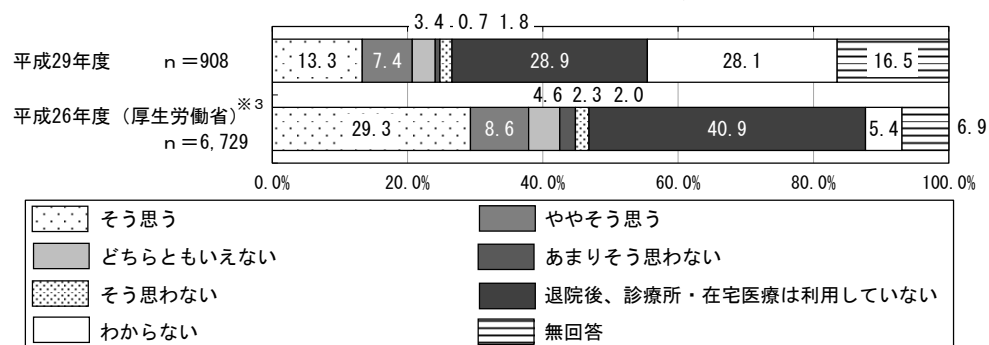
■在宅医療・移行時の情報伝達について（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	退院後、診療所・在宅医療は利用していない	わからない	無回答
平成29年度	908	121	67	31	6	16	262	255	150
平成27年度	771	81	38	26	15	14	301	181	115

国の調査（厚生労働省※³）と比較すると、『平成 26 年度（厚生労働省）』では“思う”が 37.9%であるのに対し、『平成 29 年度』では同 20.7%と 17.2 ポイント（20.7%－37.9%）下回っている。

■在宅医療・移行時の情報伝達について（単数回答/国の調査との比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	退院後、診療所・在宅医療は利用していない	わからない	無回答
平成29年度	908	121	67	31	6	16	262	255	150
平成26年度※ ³ （厚生労働省）	6,729	1,969	580	312	154	134	2,752	364	464

※³ 患者体験調査（平成 26 年） 厚生労働省

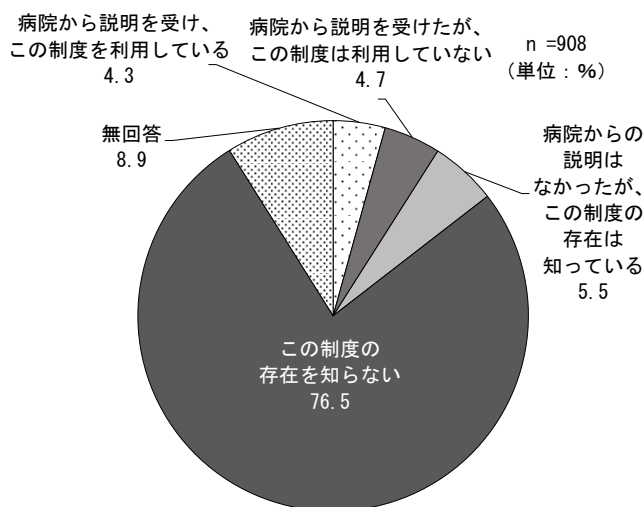
問 27 がん地域連携クリティカルパス等の認知度

問 27 がんの治療中や経過観察中に、病院のがんの専門医（または主治医）とかかりつけ医が二人で連携して患者さんを診療していく制度（「がん地域連携クリティカルパス（注参照）」または「私のカルテ」等）を知っていますか。【○はひとつだけ】

（注）がん地域連携クリティカルパス：がん診療連携拠点病院等のがんの専門医（または主治医）とかかりつけ医が二人で連携して、計画的に患者を診療していく制度。奈良県では、県統一版「私のカルテ」、院内独自で作成された「がん地域連携クリティカルパス」などのツールが利用されている。

がん地域連携クリティカルパス等の認知度については、「この制度の存在を知らない」が76.5%と約7割を占めている。一方「病院から説明を受け、この制度を利用している」が4.3%と1割以下となっている。

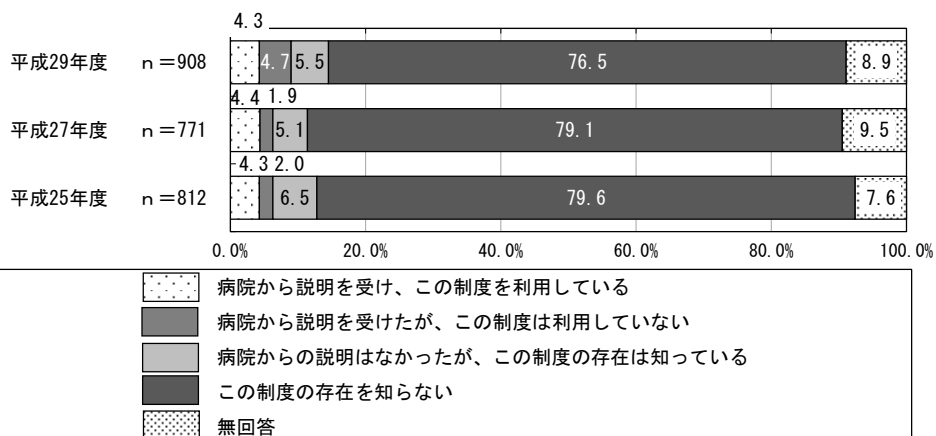
■がん地域連携クリティカルパス等の認知度（単数回答/全体）



	n	の病院から説明を受けていない	が、病院からの説明を受けたが、この制度は利用していない	知ったが、病院からの説明はなかった	いこの制度の存在を知らない	無回答
全体	908	39	43	50	695	81
	100.0	4.3	4.7	5.5	76.5	8.9

年度間比較をしてみると、いずれの調査年度も「この制度の存在を知らない」が7割を越えている。

■がん地域連携クリティカルパス等の認知度（単数回答/年度間比較）



	n	の病院から説明を受けて、この制度を利用している	がいない、この制度は利用して	知たが、この制度の存在は	病院からの説明は存在は	この制度の存在を知らない	無回答
平成29年度	908	39	43	50	695	81	
	100.0	4.3	4.7	5.5	76.5	8.9	
平成27年度	771	34	15	39	610	73	
	100.0	4.4	1.9	5.1	79.1	9.5	
平成25年度	812	35	16	53	646	62	
	100.0	4.3	2.0	6.5	79.6	7.6	

2-3. 今後の療養について

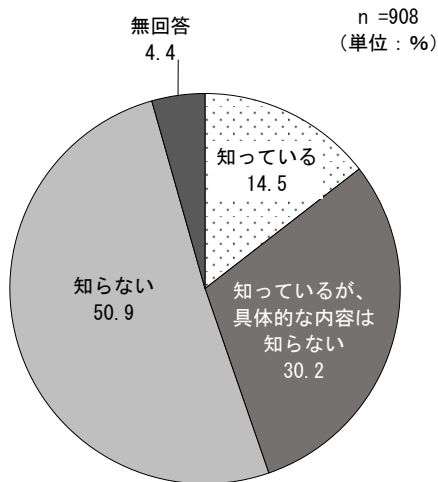
問 28 在宅緩和ケアの認知度

問 28 在宅で緩和ケアを受けられること（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）在宅での緩和ケア：在宅医やかかりつけ医による訪問診療や往診により、在宅での緩和ケアを受けること。

在宅緩和ケアの認知度については、「知らない」が 50.9%と最も高く、次いで「知っているが、具体的な内容は知らない」が 30.2%、「知っている」が 14.5%の順となっている。

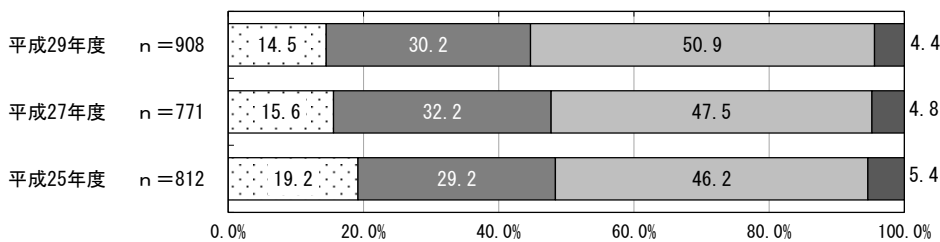
■在宅緩和ケアの認知度（単数回答/全体）



	n	知っている	知っているが、具体的な内容は知らない	知らない	無回答
全体	908	132	274	462	40
	100.0	14.5	30.2	50.9	4.4

年度間比較をしてみると、いずれの調査年度も同じ傾向となっている。『平成 25 年度』で「知らない」が 46.2%であったものが、『平成 29 年度』では同 50.9%となっており、4.7 ポイント (50.9% - 46.2%) 上回っている。

■在宅緩和ケアの認知度（単数回答/年度間比較）



知っている
 知っているが、具体的な内容は知らない
 知らない
 無回答

	n	知っている	知っているが、具体的な内容は知らない	知らない	無回答
平成29年度	908	132	274	462	40
	100.0	14.5	30.2	50.9	4.4
平成27年度	771	120	248	366	37
	100.0	15.6	32.2	47.5	4.8
平成25年度	812	156	237	375	44
	100.0	19.2	29.2	46.2	5.4

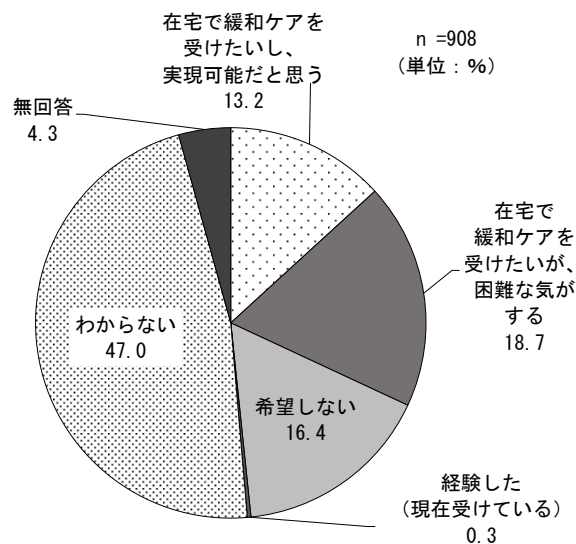
問 29 在宅緩和ケアへの考え

問 29 在宅での緩和ケアについて、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

在宅緩和ケアへの考えについては、「わからない」が 47.0%と最も高く、次いで「在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする」が 18.7%、「希望しない」が 16.4%の順となっている。

一方「経験した(現在受けている)」が 0.3%と 1 割以下となっており、17.1 ポイント(40.2% - 23.1%) 上回っている。

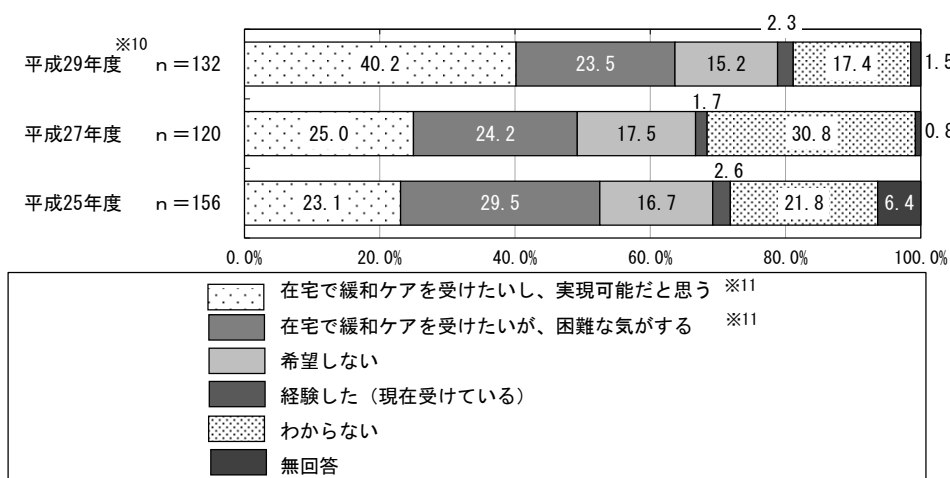
■在宅緩和ケアへの考え（単数回答/全体）



	n	在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う	在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする	希望しない	経験した(現在受けている)	わからない	無回答
全体	908	120	170	149	3	427	39
	100.0	13.2	18.7	16.4	0.3	47.0	4.3

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う」が 23.1%であったものが、『平成 29 年度』では同 40.2%となっており、17.1 ポイント (40.2%－23.1%) 上回っている。

■在宅緩和ケアへの考え（単数回答/年度間比較）



	n	在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う ※11	在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする ※11	希望しない	経験した（現在受けている）	わからない	無回答
平成29年度 ※10	132	53	31	20	3	23	2
	100.0	40.2	23.5	15.2	2.3	17.4	1.5
平成27年度	120	30	29	21	2	37	1
	100.0	25.0	24.2	17.5	1.7	30.8	0.8
平成25年度	156	36	46	26	4	34	10
	100.0	23.1	29.5	16.7	2.6	21.8	6.4

※10 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の間 28 で「知ってる」と回答した人のデータを抽出し再集計している

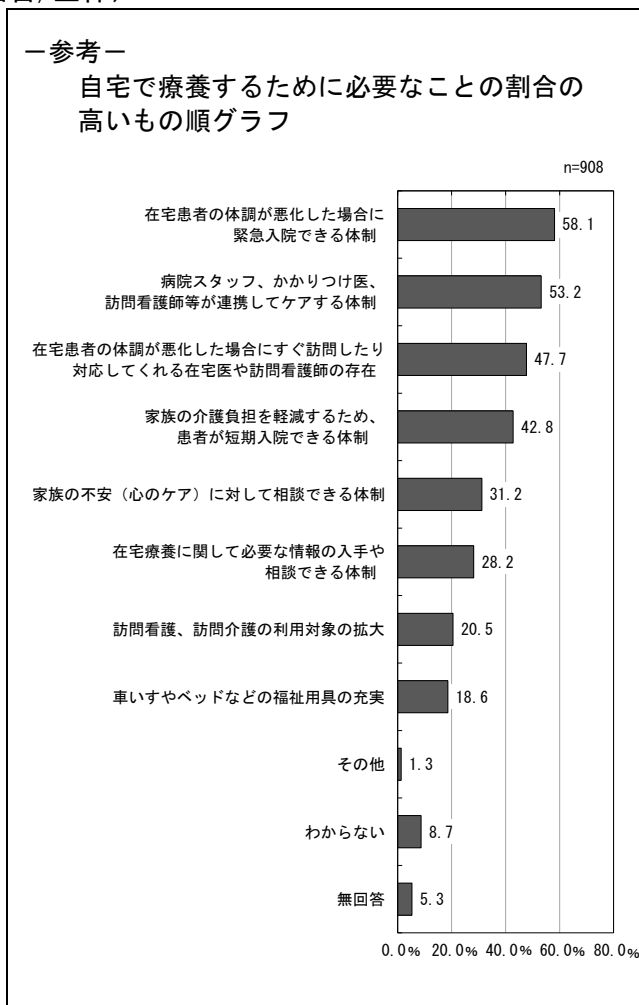
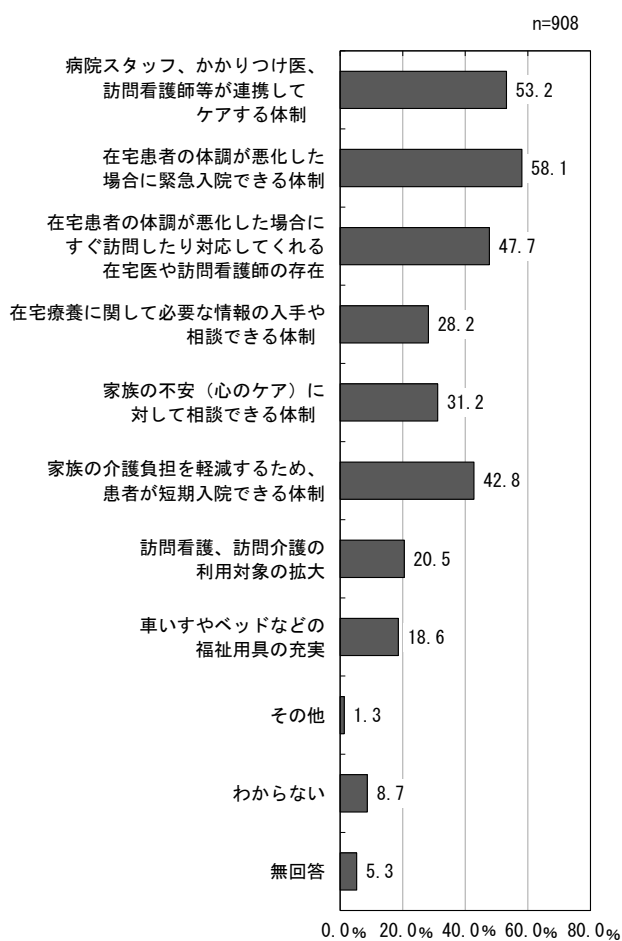
※11 選択肢「在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う」「在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする」は『平成 25 年度』『平成 27 年度』では「受けたいし、実現可能だと思う」「受けたいが、困難な気がする」となっている

問 30 自宅で療養するために必要なこと

問 30 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思えますか。【〇はいくつでも】

自宅で療養するために必要なことについては、「在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制」が 58.1%と最も高く、次いで「病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制」が 53.2%、「在宅患者の体調が悪化した場合にすぐ訪問したり対応してくれる在宅医や訪問看護師の存在」が 47.7%の順となっている。

■自宅で療養するために必要なこと（複数回答/全体）



	n	携 け 医 院 ス タ フ 、 か か り つ け 医 、 訪 問 看 護 師 等 が 連 携 し て ケ ア す る 体 制	病 院 ス タ フ 、 か か り つ け 医 、 訪 問 看 護 師 等 が 連 携 し て ケ ア す る 体 制	体 制	在 宅 患 者 の 体 調 が 悪 化 し た 場 合 に 緊 急 入 院 で き る 体 制	訪 問 看 護 師 の 存 在	在 宅 患 者 の 体 調 が 悪 化 し た 場 合 に 緊 急 入 院 で き る 体 制	在 宅 患 者 の 体 調 が 悪 化 し た 場 合 に 緊 急 入 院 で き る 体 制	情 報 の 入 手 や 相 談 で き る 体 制	在 宅 患 者 の 体 調 が 悪 化 し た 場 合 に 緊 急 入 院 で き る 体 制	に 家 族 の 介 護 負 担 を 軽 減 す る た め 、 患 者 が 短 期 入 院 で き る 体 制	訪 問 看 護 、 訪 問 介 護 の 利 用 対 象 の 拡 大	社 会 的 に 必 要 な 情 報 の 入 手 や 相 談 で き る 体 制	車 い す や ベ ッ ド な ど の 福 祉 用 具 の 充 実	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答							
全体	908	483	528	433	256	283	389	186	169	12	79	48	100.0	53.2	58.1	47.7	28.2	31.2	42.8	20.5	18.6	1.3	8.7	5.3

【その他】

- ・金銭的不安の解消（4件）
- ・医師・看護師等の親身な対応（2件）
- ・家族の負担の軽減（1件）
- ・知人・友人等のネットワーク（1件）

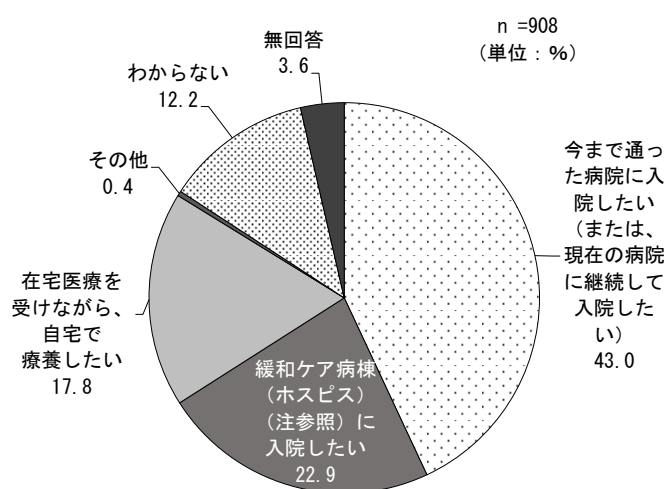
問 31 希望する療養場所

問 31 もし、がんが進行し、自宅や病院で療養中に、からだの苦痛や気持ちのつらさ等の症状の改善がみられない時、療養場所を選択することができるとすれば、どこで過ごしたいと思いますか。【○はひとつだけ】

（注）緩和ケア病棟：緩和ケアを専門に提供する病棟。「病気を治す」ことを目的とした治療はしないが、からだの苦痛や気持ちのつらさを和らげるための治療は積極的に行う。

希望する療養場所については、「今まで通った病院に入院したい（または、現在の病院に継続して入院したい）」が 43.0%と最も高く、次いで「緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい」が 22.9%、「在宅医療を受けながら、自宅で療養したい」が 17.8%の順となっている。

■希望する療養場所（単数回答/全体）



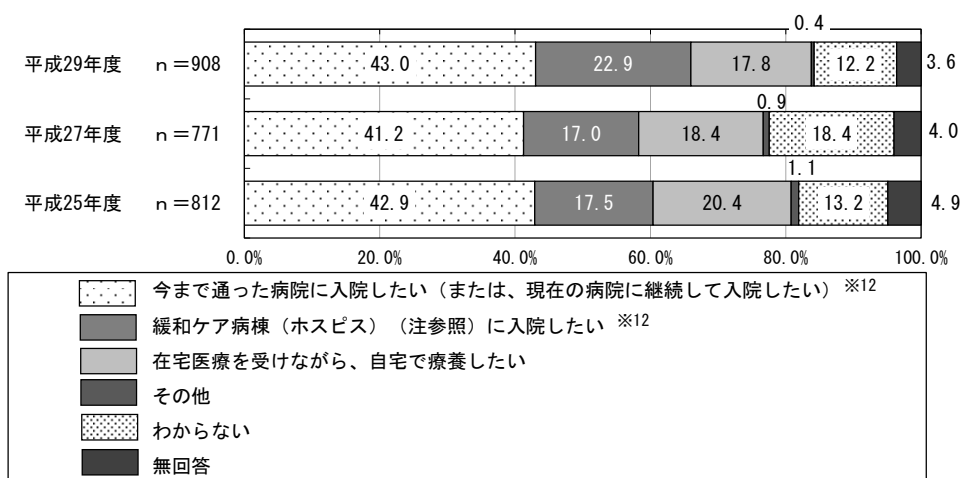
	n	い 病 今 た た 自 そ わ 無	病 今 た た 自 そ わ 無	今 ま ま ま ま ま ま ま ま	ま ま ま ま ま ま ま ま	ま ま ま ま ま ま ま ま	ま ま ま ま ま ま ま ま	ま ま ま ま ま ま ま ま
全体	908	390	208	162	4	111	33	
	100.0	43.0	22.9	17.8	0.4	12.2	3.6	

【その他】

- ・自宅の近くの病院（2件）

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で「緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい」が17.5%であったものが、『平成29年度』では同22.9%となっており、5.4ポイント（22.9%－17.5%）上回っている。

■希望する療養場所（単数回答/年度間比較）



	n	い病し今 院たまで にいい通 に続(まっ したた は病 院に 入現 院に し入 の院 ※12	た(注 参 照)に ホ ス ピ ス に 入 院 し ※12	自 宅 医 療 を 受 け な が ら 、 自 宅 で 療 養 し た い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
平成29年度	908	390	208	162	4	111	33
	100.0	43.0	22.9	17.8	0.4	12.2	3.6
平成27年度	771	318	131	142	7	142	31
	100.0	41.2	17.0	18.4	0.9	18.4	4.0
平成25年度	812	348	142	166	9	107	40
	100.0	42.9	17.5	20.4	1.1	13.2	4.9

※12 選択肢「今まで通った病院に入院したい (または、現在の病院に継続して入院したい)」「緩和ケア病棟 (ホスピス) (注参照) に入院したい」は『平成25年度』『平成27年度』では「なるべく早く今まで通った病院に入院したい (または、現在の病院に継続して入院したい)」「なるべく早く緩和ケア病棟 (ホスピス) (注参照) に入院したい」となっている

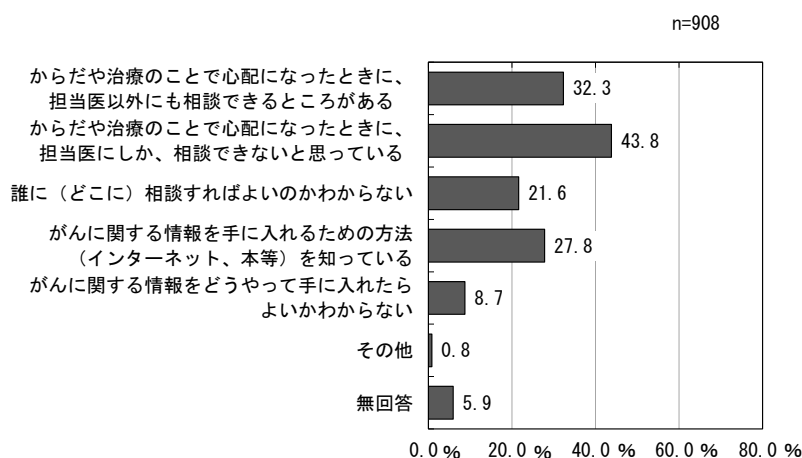
2-4. 相談支援・情報提供について

問 32 がん医療に関する相談支援及び情報提供

問 32 がん医療に関する相談支援及び情報提供についてあてはまるものをお答えください。
【〇はいくつでも】

がん医療に関する相談支援及び情報提供については、「からだや治療のことで心配になったときに、担当医にしか、相談できないと思っている」が43.8%と最も高く、次いで「からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある」が32.3%、「がんに関する情報を手に入れるための方法(インターネット、本等)を知っている」が27.8%の順となっている。

■がん医療に関する相談支援及び情報提供（複数回答/全体）



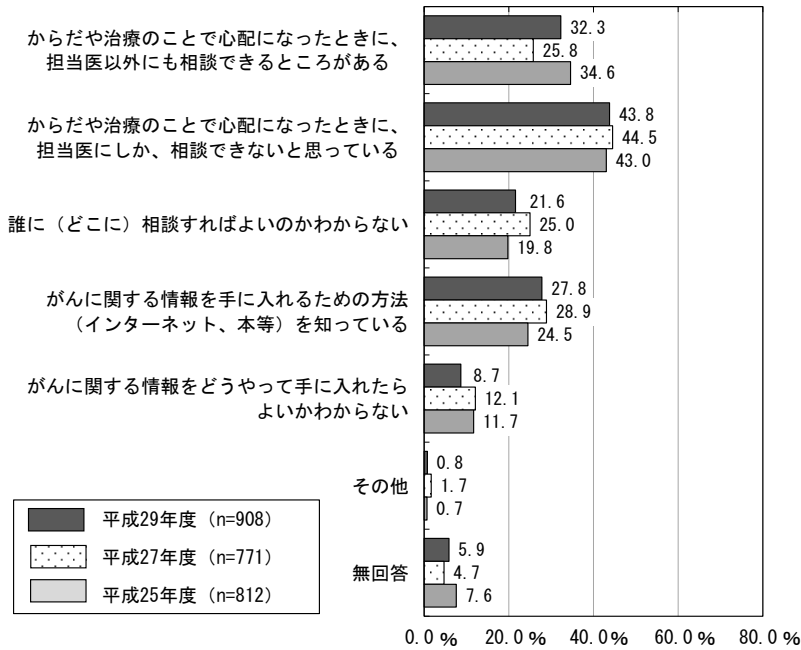
	n	こ ろ が 外 に あ る も た あ る も た あ る も た あ る	こ ろ が 外 に あ る も た あ る も た あ る も た あ る	こ ろ が 外 に あ る も た あ る も た あ る も た あ る	こ ろ が 外 に あ る も た あ る も た あ る も た あ る	こ ろ が 外 に あ る も た あ る も た あ る も た あ る	こ ろ が 外 に あ る も た あ る も た あ る も た あ る	こ ろ が 外 に あ る も た あ る も た あ る も た あ る	無 回 答
全体	908	293	398	196	252	79	7	54	
	100.0	32.3	43.8	21.6	27.8	8.7	0.8	5.9	

【その他】

- ・ 患者会（2件）

年度間比較をしてみると、『平成25年度』『平成29年度』で「からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある」が2番目に高くなっているが、『平成27年度』では25.8%と3番目に高くなっている。

■がん医療に関する相談支援及び情報提供（複数回答/年度間比較）



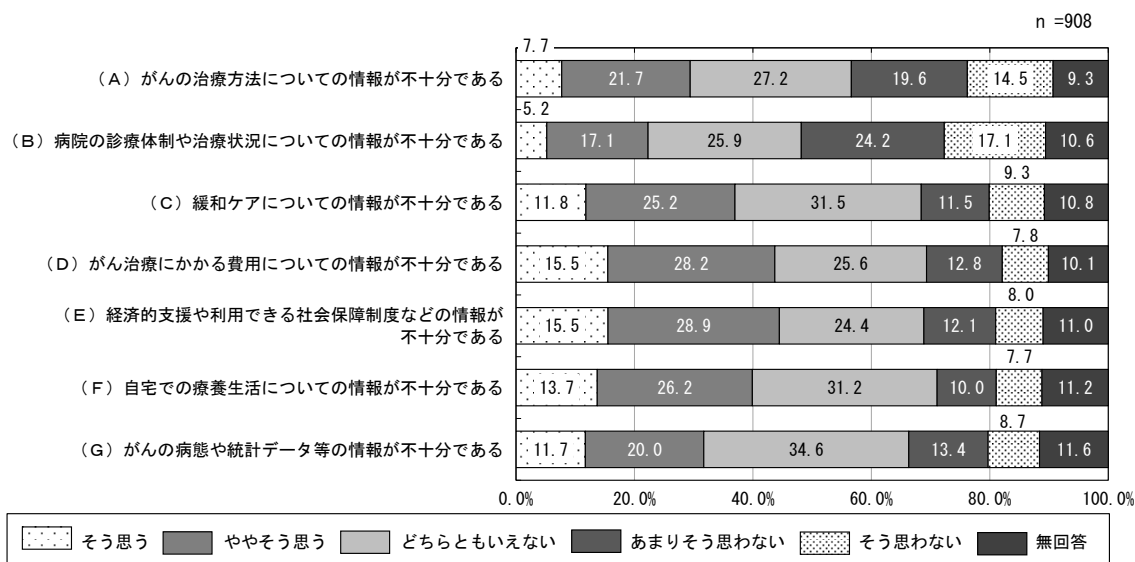
	n	ご心配が外にもあつた相談できる担当	からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある	からだや治療のことで心配になったときに、担当医にしか、相談できないと思っている	誰に（どこに）相談すればよいかわからない	がんに関する情報を手に入れるための方法（インターネット、本等）を知っている	がんに関する情報をどうやって手に入れたらよいかわからない	その他	無回答
平成29年度	908	293	398	196	252	79	7	54	
平成27年度	771	199	343	193	223	93	13	36	
平成25年度	812	281	349	161	199	95	6	62	
	100.0	32.3	43.8	21.6	27.8	8.7	0.8	5.9	
	100.0	25.8	44.5	25.0	28.9	12.1	1.7	4.7	
	100.0	34.6	43.0	19.8	24.5	11.7	0.7	7.6	

問 33 がんに関する情報の充実度

問 33 あなたが知りたいがんに関する情報についてあてはまるものをお答えください。
【それぞれ○はひとつだけ】

- (A) がんの治療方法についての情報不足については、「どちらともいえない」が 27.2%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 21.7%、「あまりそう思わない」が 19.6%の順となっている。「思う」(「そう思う」+「ややそう思う」)が 29.4%、一方「思わない」(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)が 34.1%となっており、「思わない」が 4.7ポイント(34.1%－29.4%)上回っている。
- (B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足については、「どちらともいえない」が 25.9%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が 24.2%、「ややそう思う」「そう思わない」が同率 17.1%の順となっている。「思う」が 22.3%、一方「思わない」が 41.3%となっており、「思わない」が 19.0ポイント(41.3%－22.3%)上回っている。
- (C) 緩和ケアについての情報不足については、「どちらともいえない」が 31.5%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 25.2%、「そう思う」が 11.8%の順となっている。「思う」が 37.0%、一方「思わない」が 20.8%となっており、「思う」が 16.2ポイント(37.0%－20.8%)上回っている。
- (D) がん治療にかかる費用についての情報不足については、「ややそう思う」が 28.2%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 25.6%、「そう思う」が 15.5%の順となっている。「思う」が 43.7%、一方「思わない」が 20.6%となっており、「思う」が 23.1ポイント(43.7%－20.6%)上回っている。
- (E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足については、「ややそう思う」が 28.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 24.4%、「そう思う」が 15.5%の順となっている。「思う」が 44.4%、一方「思わない」が 20.1%となっており、「思う」が 24.3ポイント(44.4%－20.1%)上回っている。
- (F) 自宅での療養生活についての情報不足については、「どちらともいえない」が 31.2%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 26.2%、「そう思う」が 13.7%の順となっている。「思う」が 39.9%、一方「思わない」が 17.7%となっており、「思う」が 22.2ポイント(39.9%－17.7%)上回っている。
- (G) がんの病態や統計データ等の情報不足については、「どちらともいえない」が 34.6%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 20.0%、「あまりそう思わない」が 13.4%の順となっている。「思う」が 31.7%、一方「思わない」が 22.1%となっており、「思う」が 9.6ポイント(31.7%－22.1%)上回っている。

■がんに関する情報の充実度（単数回答/全体）



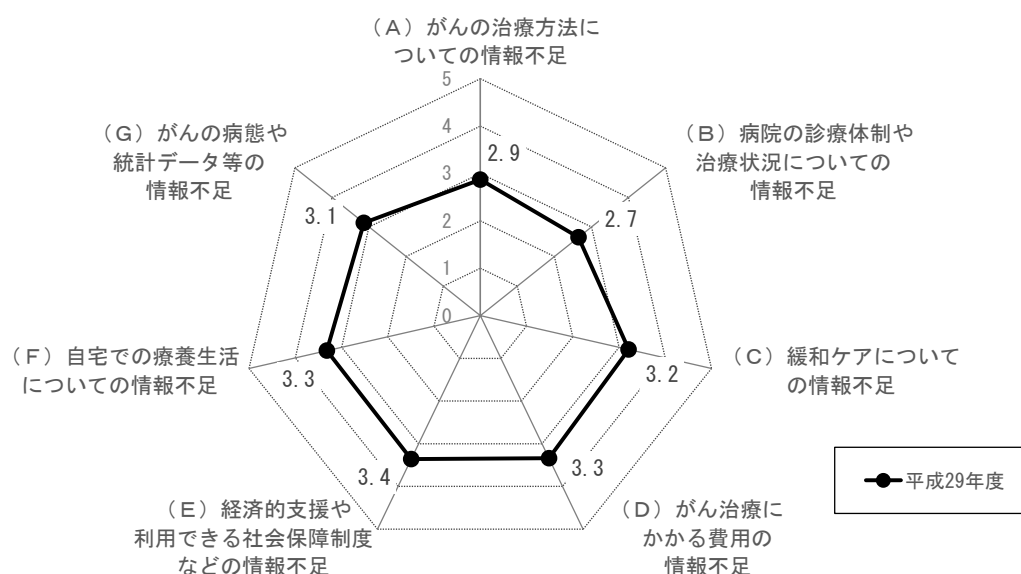
	n 数	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(A) がんの治療方法についての情報が不十分である	908 100.0	70 7.7	197 21.7	247 27.2	178 19.6	132 14.5	84 9.3
(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報が不十分である	908 100.0	47 5.2	155 17.1	235 25.9	220 24.2	155 17.1	96 10.6
(C) 緩和ケアについての情報が不十分である	908 100.0	107 11.8	229 25.2	286 31.5	104 11.5	84 9.3	98 10.8
(D) がん治療にかかる費用についての情報が不十分である	908 100.0	141 15.5	256 28.2	232 25.6	116 12.8	71 7.8	92 10.1
(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報が不十分である	908 100.0	141 15.5	262 28.9	222 24.4	110 12.1	73 8.0	100 11.0
(F) 自宅での療養生活についての情報が不十分である	908 100.0	124 13.7	238 26.2	283 31.2	91 10.0	70 7.7	102 11.2
(G) がんの病態やデータ等の情報が不十分である	908 100.0	106 11.7	182 20.0	314 34.6	122 13.4	79 8.7	105 11.6

情報不足について尋ねた7つの項目についてみると、『(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足』が3.4となっており、「そう思う」程度が最も高くなっている。

一方『(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足』が2.7となっており、「そう思わない」程度が最も高くなっている。

『平成25年度』『平成27年度』と比較すると、調査年度毎に「そう思う」程度が低くなっている。

■がんに関する情報の充実度比較（項目別）

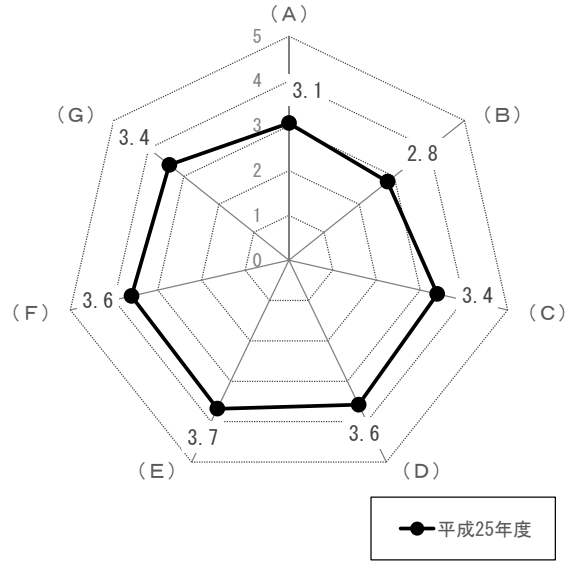
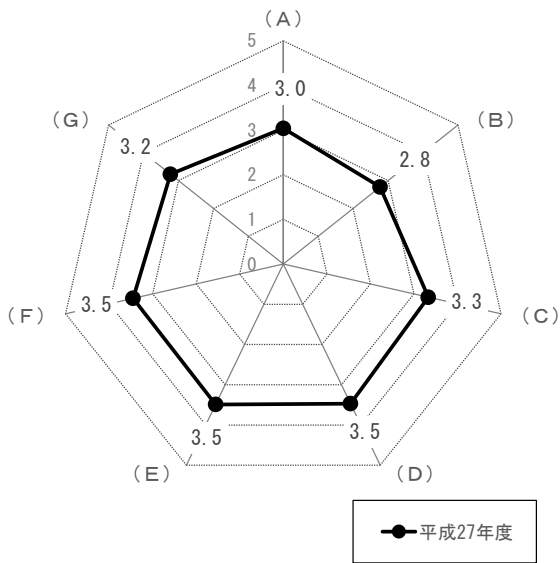


点数配点表

5：そう思う	4：ややそう思う	3：どちらともいえない
2：あまりそう思わない	1：そう思わない	

$$\text{がんに関する情報の必要度} = \frac{\sum \text{各回答} \times \text{点数}}{\text{無回答} \cdot \text{「特に知りたくない」を除いた有効回答数}}$$

(注) 「特に知りたくない」は『平成25年度』の選択肢となっている

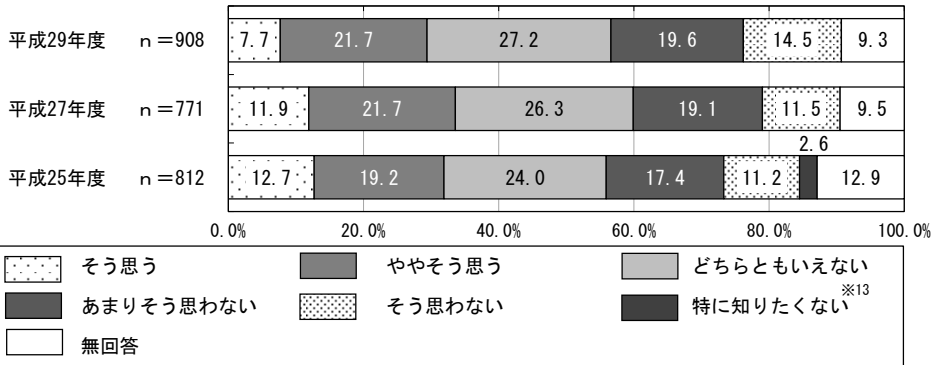


(A) がんの治療方法についての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』から『平成27年度』にかけて“思う”（「思う」＋「やや思う」）の割合は増加しているが、『平成27年度』から『平成29年度』にかけては減少している。

『平成29年度』では『平成27年度』と比べ“思う”が4.2ポイント（29.4%－33.6%）下回り、一方“思わない”（「あまり思わない」＋「そう思わない」）が3.5ポイント（34.1%－30.6%）上回っている。

■がんの治療方法についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	そう思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
平成29年度	908	70	197	247	178	132	-	84
平成27年度	771	92	167	203	147	89	-	73
平成25年度	812	103	156	195	141	91	21	105

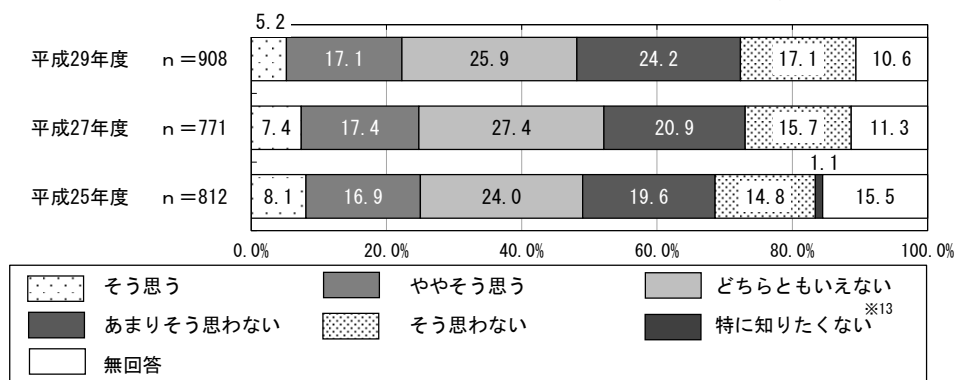
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が25.0%であったものが調査年度毎に減少し、『平成29年度』では22.3%となっている。

『平成29年度』では『平成27年度』と比べ“思う”が2.5ポイント（22.3%－24.8%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が4.7ポイント（41.3%－36.6%）上回っている。

■病院の診療体制や治療状況についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
平成29年度	908	47	155	235	220	155		96
平成27年度	771	57	134	211	161	121		87
平成25年度	812	66	137	195	159	120	9	126

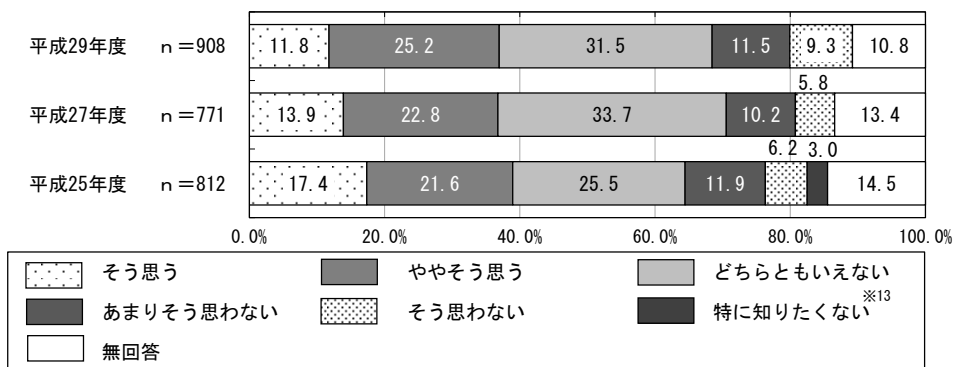
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(C) 緩和ケアについての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』から『平成27年度』にかけて“思う”（「思う」＋「やや思う」）の割合は減少しているが、『平成29年度』では増加している。

『平成29年度』では『平成27年度』と比べ“思う”が0.3ポイント（37.0%－36.7%）、また“思わない”（「あまり思わない」＋「そう思わない」）も4.8ポイント（20.8%－16.0%）上回っている。

■緩和ケアについての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
平成29年度	908	107	229	286	104	84	-	98
平成27年度	771	107	176	260	79	45	-	103
平成25年度	812	141	175	207	97	50	24	118

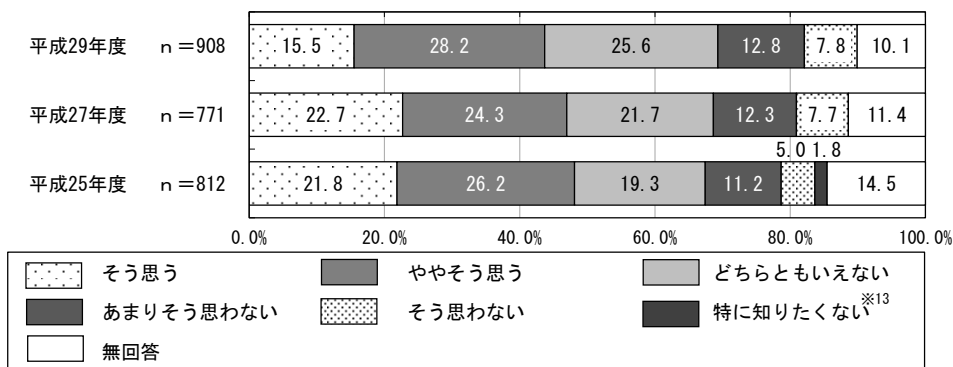
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(D) がん治療にかかる費用についての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が48.0%であったものが調査年度毎に減少し、『平成29年度』では43.7%となっている。

『平成29年度』では『平成27年度』と比べ“思う”が3.3ポイント（43.7%－47.0%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が0.6ポイント（20.6%－20.0%）上回っている。

■がん治療にかかる費用についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
平成29年度	908	141	256	232	116	71	-	92
平成27年度	771	175	187	167	95	59	-	88
平成25年度	812	177	213	157	91	41	15	118

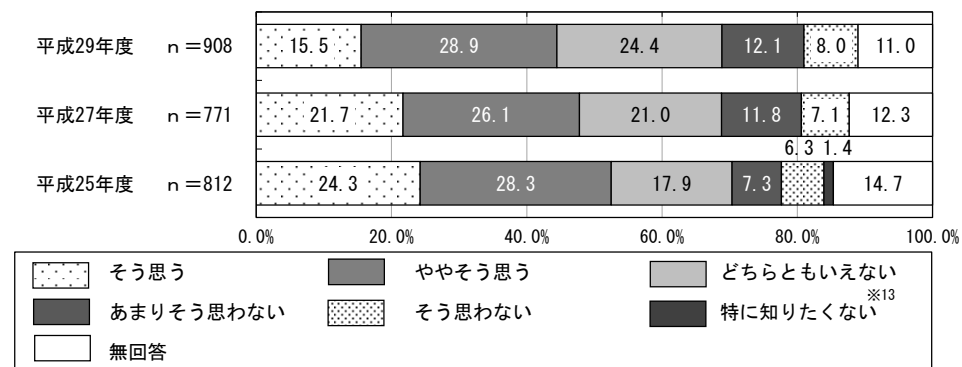
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が52.6%であったものが調査年度毎に減少し、『平成29年度』では44.4%となっている。

『平成29年度』では『平成27年度』と比べ“思う”が3.4ポイント（44.4%－47.8%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が1.2ポイント（20.1%－18.9%）上回っている。

■経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
平成29年度	908	141	262	222	110	73	100	0
	100.0	15.5	28.9	24.4	12.1	8.0	11.0	0.0
平成27年度	771	167	201	162	91	55	95	0
	100.0	21.7	26.1	21.0	11.8	7.1	12.3	0.0
平成25年度	812	197	230	145	59	51	11	119
	100.0	24.3	28.3	17.9	7.3	6.3	1.4	14.7

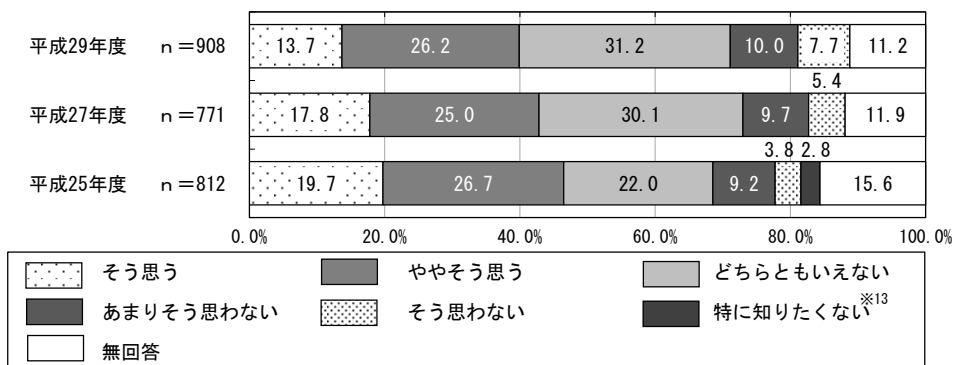
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(F) 自宅での療養生活についての情報不足

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が46.4%であったものが調査年度毎に減少し、『平成29年度』では39.9%となっている。

『平成29年度』では『平成27年度』と比べ“思う”が2.9ポイント（39.9%－42.8%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が2.6ポイント（17.7%－15.1%）上回っている。

■ 自宅での療養生活についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	特 に 知 り た く な い	無 回 答
平成29年度	908	124	238	283	91	70	-	102
平成27年度	771	137	193	232	75	42	-	92
平成25年度	812	160	217	179	75	31	23	127

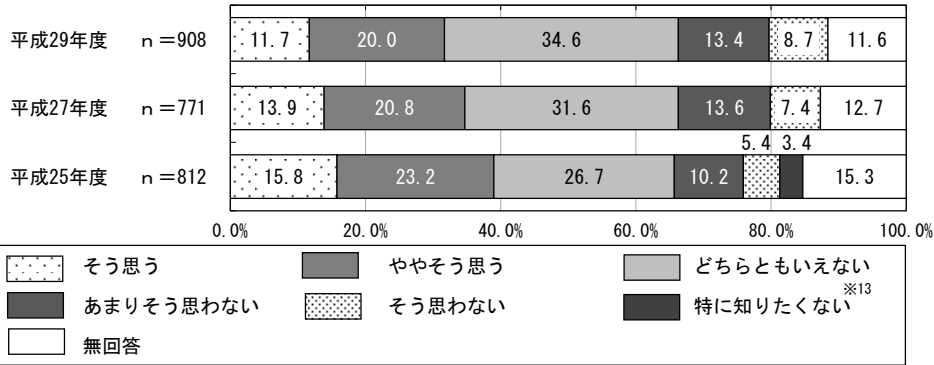
※13 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度だけ調査

(G) がんの病態や統計データ等の情報不足

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 39.0%であったものが調査年度毎に減少し、『平成 29 年度』では 31.7%となっている。

『平成 29 年度』では『平成 27 年度』と比べ“思う”が 3.0 ポイント（31.7%－34.7%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 1.1 ポイント（22.1%－21.0%）上回っている。

■がんの病態や統計データ等の情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
平成29年度	908	106	182	314	122	79	-	105
平成27年度	771	107	160	244	105	57	-	98
平成25年度	812	128	188	217	83	44	28	124

※13 選択肢「特に知りたくない」は平成 25 年度だけ調査

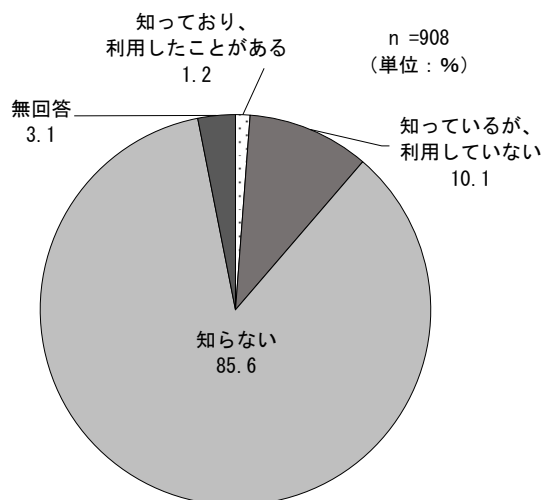
問 34 がんネットならの利用度

問 34 奈良県が、県内のがん情報を総合的に発信している「がんネットなら」（注参照）を利用したことがありますか。【〇はひとつだけ】

（注）がんネットなら：インターネットを利用して、奈良県にお住まいのがん患者さんやご家族の皆さんが療養生活を送る際に役立つ情報や、県内で開催されるがんに関するイベント・研修情報など幅広く発信している。

がんネットならの利用度については、「知らない」が 85.6%と最も高く、次いで「知っているが、利用していない」が 10.1%、「知っており、利用したことがある」が 1.2%の順となっている。

■がんネットならの利用度（単数回答/全体）



	n 数	と 知 つ て お り 、 利 用 し た こ と が あ る	知 つ て お り 、 利 用 し て い な い	知 ら な い	無 回 答
全体	908 100.0	11 1.2	92 10.1	777 85.6	28 3.1

問 35 がん相談支援センターの利用の有無

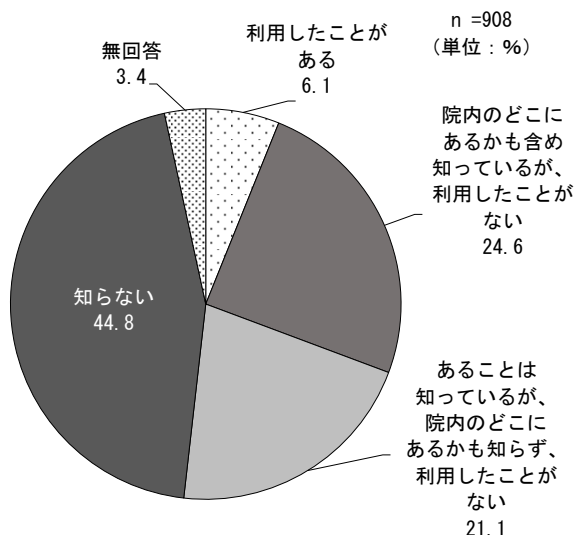
問 35 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「がん相談支援センター」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

（注）がん相談支援センター：がん診療連携拠点病院等には、がんに関する相談や情報提供を行う相談窓口として「がん相談支援センター」が設置されており、誰でも無料でがんに関する相談・情報提供を受けられる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、南奈良総合医療センターに設置している。

がん相談支援センターの利用の有無については、「知らない」が 44.8%と最も高く、次いで「院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない」が 24.6%、「あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない」が 21.1%の順となっている。

一方「利用したことがある」は 6.1%にとどまっている。

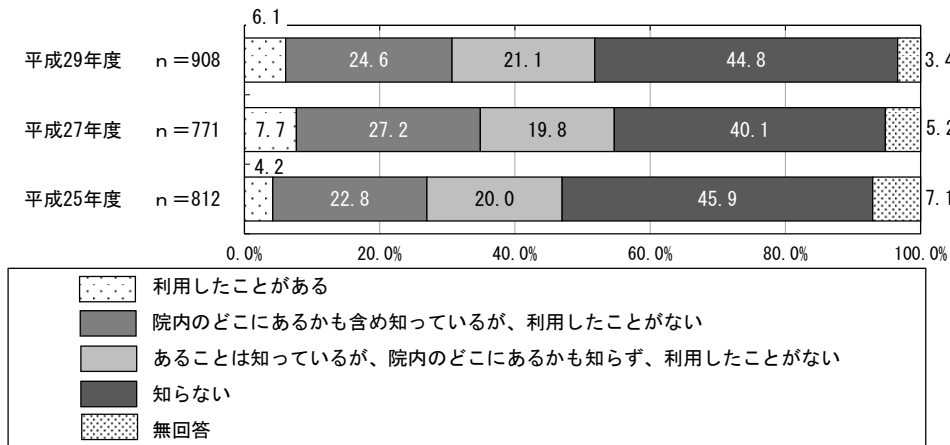
■がん相談支援センターの利用の有無（単数回答/全体）



	n	利用したことがある	院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない	あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない	知らない	無回答
全体	908	55	223	192	407	31
	100.0	6.1	24.6	21.1	44.8	3.4

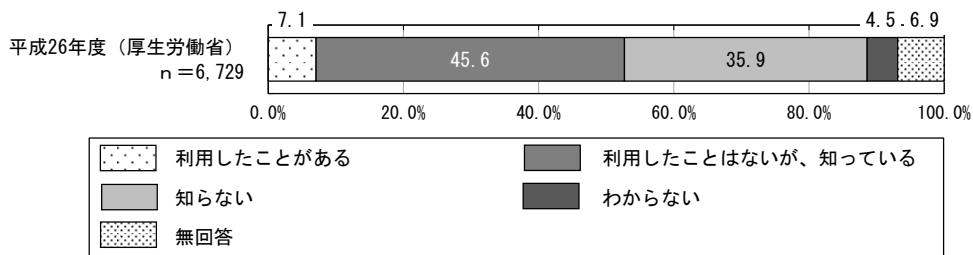
年度間比較をしてみると、『平成25年度』から『平成27年度』にかけて「利用したことがある」の割合が増加しているが、『平成29年度』では減少し、6.1%となっている。

■がん相談支援センターの利用の有無（単数回答/年度間比較）



	n	利用したことがある	院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない	あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない	知らない	無回答
平成29年度	908	55	223	192	407	31
平成27年度	771	59	210	153	309	40
平成25年度	812	34	185	162	373	58

一参考一 がん相談支援センターの利用の有無 患者体験調査（平成26年） 厚生労働省



	n	利用したことがある	知っていたことは知らないが、利用したことがある	知らない	わからない	無回答
平成26年度（厚生労働省）	6,729	480	3,067	2,414	306	462

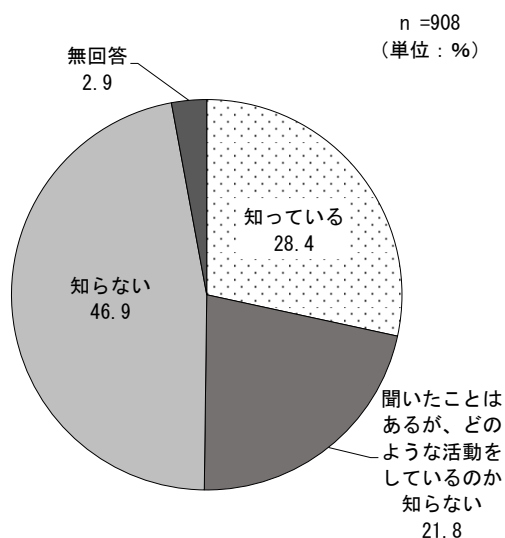
(注)厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄がやや異なるため、参考として記した。

問 36 患者サロンの認知度

問 36 「患者サロン」（がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）があることを知っていますか。【〇はひとつだけ】

患者サロンの認知度については、「知らない」が46.9%と最も高く、次いで「知っている」が28.4%、「聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない」が21.8%の順となっており、「知っている」は28.4%となっている。

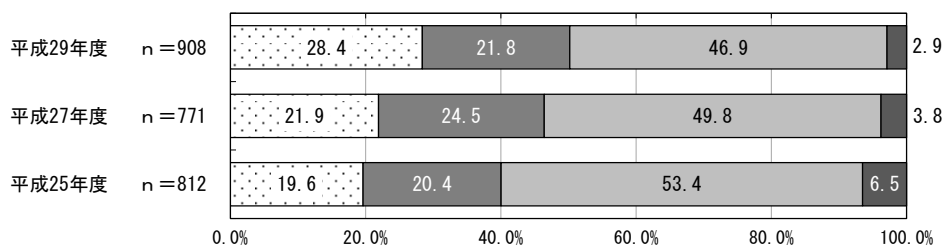
■患者サロンの認知度（単数回答/全体）



	n	知っている	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない	知らない	無回答
全体	908	258	198	426	26
	100.0	28.4	21.8	46.9	2.9

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で「知っている」が19.6%であったものが、『平成29年度』では同28.4%となっており、8.8ポイント（28.4%－19.6%）上回っている。

■患者サロンの認知度（単数回答/年度間比較）



	知っている
	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない
	知らない
	無回答

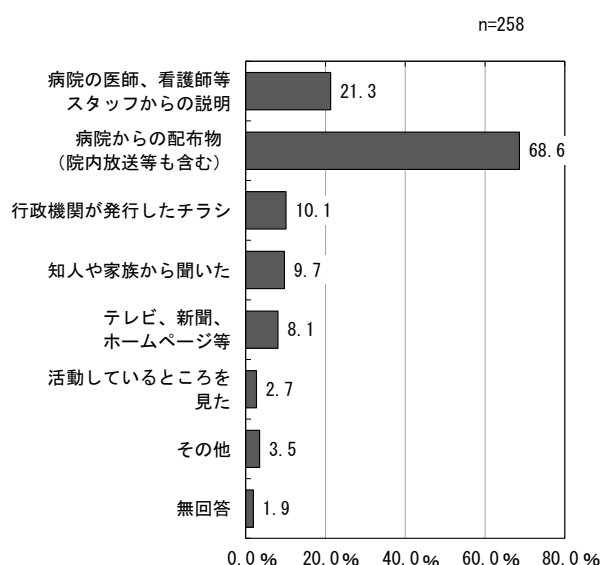
	n	知っている	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない	知らない	無回答
平成29年度	908	258	198	426	26
	100.0	28.4	21.8	46.9	2.9
平成27年度	771	169	189	384	29
	100.0	21.9	24.5	49.8	3.8
平成25年度	812	159	166	434	53
	100.0	19.6	20.4	53.4	6.5

問 37 患者サロンを知ったきっかけ

問 37 問 36 で「1. 知っている」と回答された方にお伺いします。
患者サロンについて、どこで知りましたか。【〇はいくつでも】

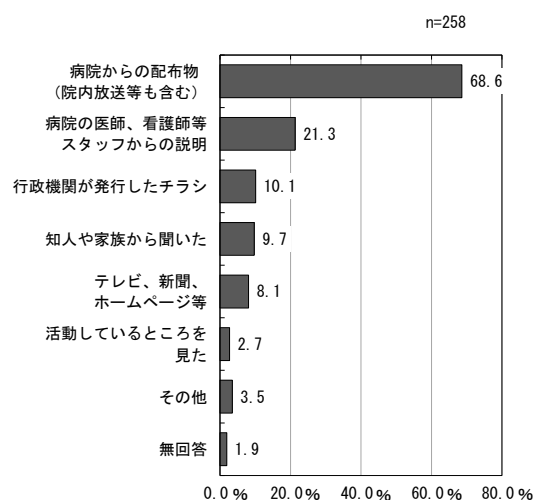
患者サロンを知っている方の患者サロンを知ったきっかけについては、「病院からの配布物（院内放送等も含む）」が 68.6%と最も高く、次いで「病院の医師、看護師等スタッフからの説明」が 21.3%、「行政機関が発行したチラシ」が 10.1%の順となっている。

■患者サロンを知ったきっかけ（複数回答/全体）



—参考—

患者サロンを知ったきっかけの割合の高いもの順グラフ



	n 数	病院の医師、看護師等スタッフからの説明	病院からの配布物（院内放送等も含む）	行政機関が発行したチラシ	知人や家族から聞いた	テレビ、新聞、ホームページ等	活動しているところを見た	その他	無回答
全体	258	55	177	26	25	21	7	9	5
	100.0	21.3	68.6	10.1	9.7	8.1	2.7	3.5	1.9

【その他】

- ・病院の掲示物（5件）
- ・病院内のがん支援センター（1件）
- ・患者会（1件）

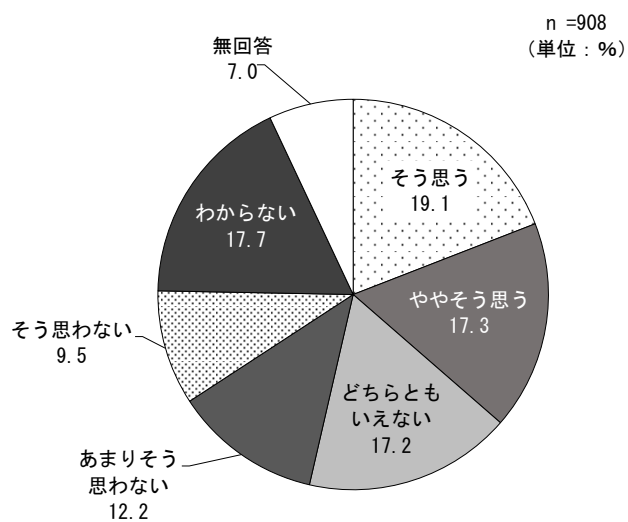
問 38 支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感

問 38 がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの支援によって現在は軽減されたと思いますか。【〇はひとつだけ】

支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感については、「そう思う」が 19.1%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 17.3%、「どちらともいえない」が 17.2%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 36.4%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 21.7%となっており、“思う”が 14.7ポイント（36.4%－21.7%）上回っている。

■支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感（単数回答/全体）



	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	908	173	157	156	111	86	161	64
	100.0	19.1	17.3	17.2	12.2	9.5	17.7	7.0

2-5. 治療と就労について

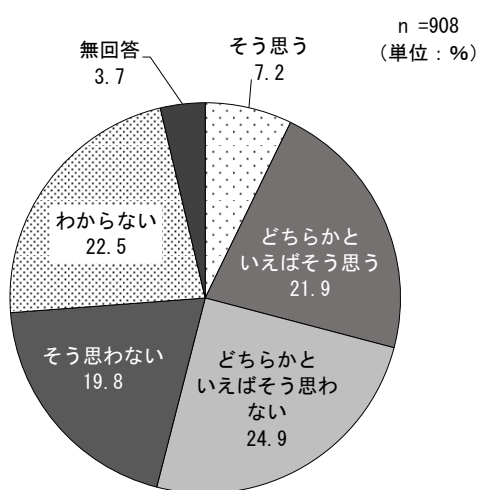
問 39 がん治療と継続就労についての認識

問 39 現在の日本は、がん治療を受けながら、働きつづけられる環境だと思いますか。
【〇はひとつだけ】

がん治療を受けながら働きつづけられる環境だと思うかについては、「どちらかといえばそう思わない」が 24.9%と最も高く、次いで「わからない」が 22.5%、「どちらかといえばそう思う」が 21.9%の順となっている。

“思わない”（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が 44.7%、一方“思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 29.1%となっており、“思わない”が約 4 割を占めている。

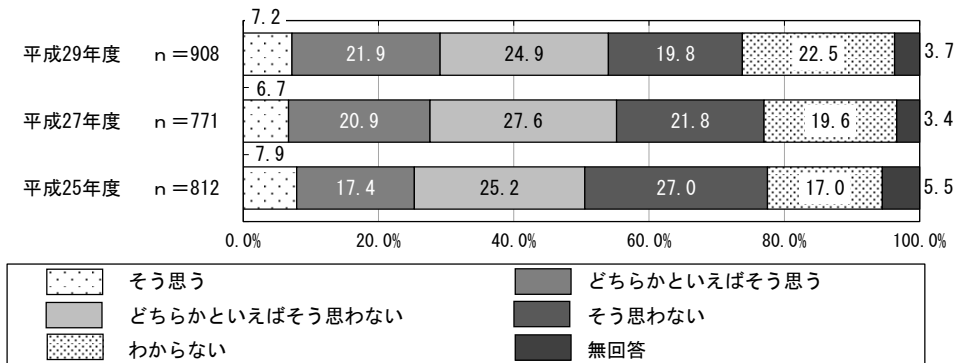
■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/全体）



	n	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全体	908	65	199	226	180	204	34
	100.0	7.2	21.9	24.9	19.8	22.5	3.7

年度間比較をしてみると、『平成25年度』で“思う”（「思う」＋「どちらかといえば思う」）が25.3%であったものが、『平成29年度』では同29.1%となっており、3.8ポイント（29.1%－25.3%）上回っている。

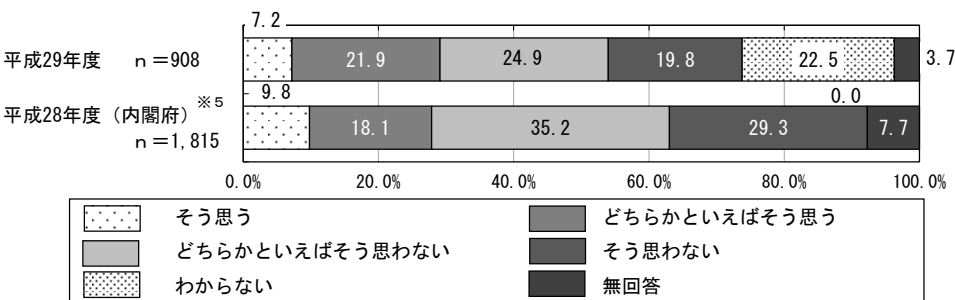
■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/年度間比較）



	n	思う	う どちらか かといえ ばそう思	わ ない どちらか かといえ ばそう思	そう 思わ ない	わ から ない	無 回 答
平成29年度	908	65	199	226	180	204	34
	100.0	7.2	21.9	24.9	19.8	22.5	3.7
平成27年度	771	52	161	213	168	151	26
	100.0	6.7	20.9	27.6	21.8	19.6	3.4
平成25年度	812	64	141	205	219	135	45
	100.0	7.9	17.4	25.2	27.0	17.0	5.5

国の調査（内閣府^{※5}）と比較すると、『平成28年度（内閣府）』では“思う”が27.9%であるのに対し、『平成29年度』では同29.1%と1.2ポイント（29.1%－27.9%）上回っている。

■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/国の調査との比較）



	n	思う	う どちらか かといえ ばそう思	わ ない どちらか かといえ ばそう思	そう 思わ ない	わ から ない	無 回 答
平成29年度	908	65	199	226	180	204	34
	100.0	7.2	21.9	24.9	19.8	22.5	3.7
平成28年度 ^{※5} （内閣府）	1,815	9.8	18.1	35.2	29.3	-	7.7

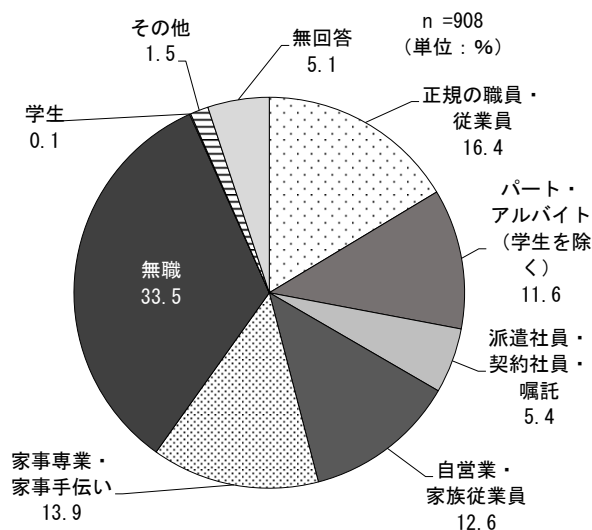
※5 がん対策に関する世論調査（平成28年11月） 内閣府
内閣府の調査データで選択肢「わからない」は本報告書では無回答としている

問 40 がん診断時の就労状況

問 40 がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況について教えてください。
【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断された時の就労状況については、「無職」が 33.5%と最も高く、次いで「正規の職員・従業員」が 16.4%、「家事専業・家事手伝い」が 13.9%の順となっている。

■がん診断時の就労状況（単数回答/全体）



	n 数	正規の職員・従業員	パート・アルバイト (学生を除く)	派遣社員・契約社員・嘱託	自営業・家族従業員	家事専業・家事手伝い	無職	学生	その他	無回答
全体	908	149	105	49	114	126	304	1	14	46
	100.0	16.4	11.6	5.4	12.6	13.9	33.5	0.1	1.5	5.1

【その他】

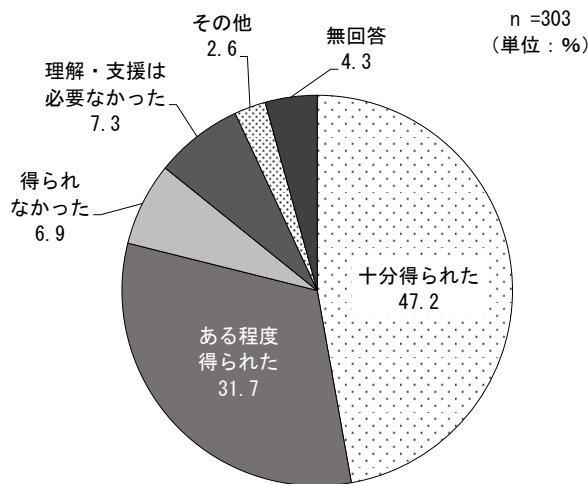
- ・定年退職、退職（4件）
- ・年金受給者（3件）
- ・会社代表（1件）

問 41 仕事の継続に関する事業主の理解・支援

問 41 問 40 で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。
 がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）であった方の仕事の継続に関する事業主の理解・支援については、「十分得られた」が47.2%と最も高く、次いで「ある程度得られた」が31.7%、「理解・支援は必要なかった」が7.3%の順となっている。

■仕事の継続に関する事業主の理解・支援（単数回答/全体）



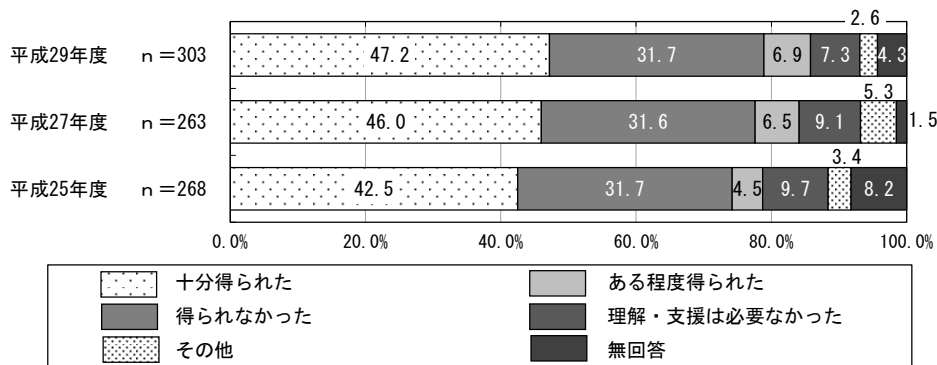
	n	十分得られた	ある程度得られた	得られなかった	理解・支援は必要なかった	その他	無回答
全体	303	143	96	21	22	8	13
	100.0	47.2	31.7	6.9	7.3	2.6	4.3

【その他】

- ・事業主と話し合っていない（4件）
- ・自ら退職した（3件）

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』で「十分得られた」が42.5%であったものが、『平成 29 年度』では同47.2%となっており、4.7ポイント(47.2%－42.5%)上回っている。

■仕事の継続に関する事業主の理解・支援（単数回答/年度間比較）



	n	十分得られた	ある程度得られた	得られなかった	理解・支援は必要なかった	その他	無回答
平成29年度	303	143	96	21	22	8	13
平成27年度	263	121	83	17	24	14	4
平成25年度	268	114	85	12	26	9	22
	100.0	47.2	31.7	6.9	7.3	2.6	4.3
	100.0	46.0	31.6	6.5	9.1	5.3	1.5
	100.0	42.5	31.7	4.5	9.7	3.4	8.2

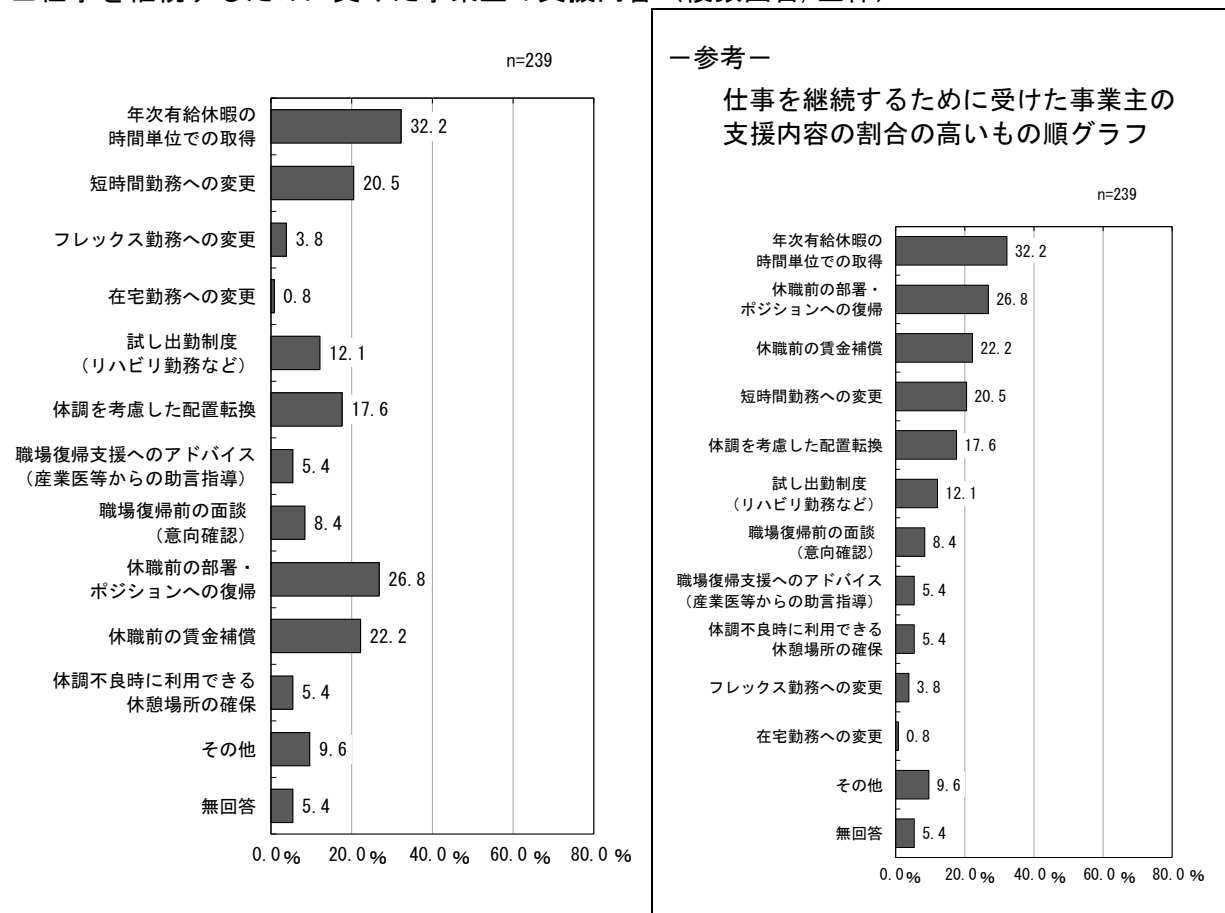
問 42 仕事を継続するために受けた事業主の支援内容

問 42 問 41 で 1, 2 と回答された方にお伺いします。

仕事の継続に対して、事業主からどのような支援を受けましたか。【〇はいくつでも】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）で事業主の理解・支援のあった方の仕事を継続するために受けた事業主の支援内容については、「年次有給休暇の時間単位での取得」が 32.2%と最も高く、次いで「休職前の部署・ポジションへの復帰」が 26.8%、「休職前の賃金補償」が 22.2%の順となっている。

■仕事を継続するために受けた事業主の支援内容（複数回答/全体）



	n	年次有給休暇の時間単位での取得	短時間勤務への変更	フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	試し出勤制度（リハビリ勤務など）	体調を考慮した配置転換	職場復帰支援へのアドバイス（産業医等からの助言指導）	職場復帰前の面談（意向確認）	休職前の部署・ポジションへの復帰	休職前の賃金補償	体調不良時に利用できる休憩場所の確保	その他	無回答
全体	239	77	49	9	2	29	42	13	20	64	53	13	23	13
	100.0	32.2	20.5	3.8	0.8	12.1	17.6	5.4	8.4	26.8	22.2	5.4	9.6	5.4

【その他】

- ・休職（5件）
- ・休暇、優先的な年休・公休の取得（4件）
- ・体調を考慮した出勤・復帰時期（3件）
- ・仕事の軽減（3件）
- ・今のところ支援は受けていない（3件）

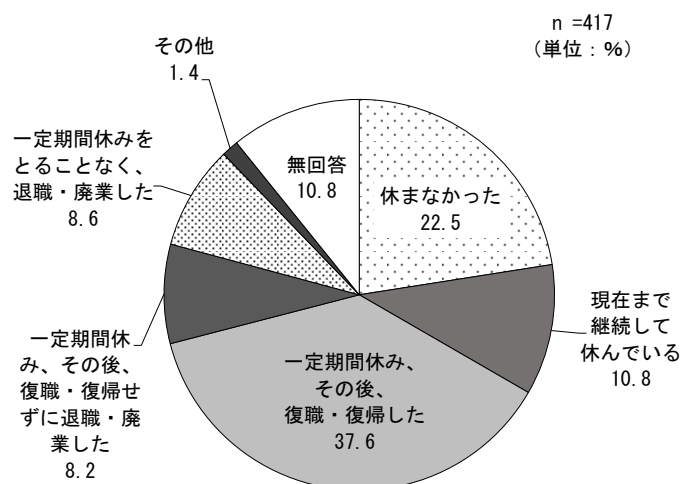
問 43 治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況

問 43 問 40 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

がんで初めて治療・療養した時、一定期間（連続して3か月以上）仕事を休みましたか。また、その後復職・復帰しましたか。【○はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）と自営業者・家族従業員の方の治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況については、「一定期間休み、その後、復職・復帰した」が 37.6%と最も高く、次いで「休まなかった」が 22.5%、「現在まで継続して休んでいる」が 10.8%の順となっている。

■治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況（単数回答/全体）



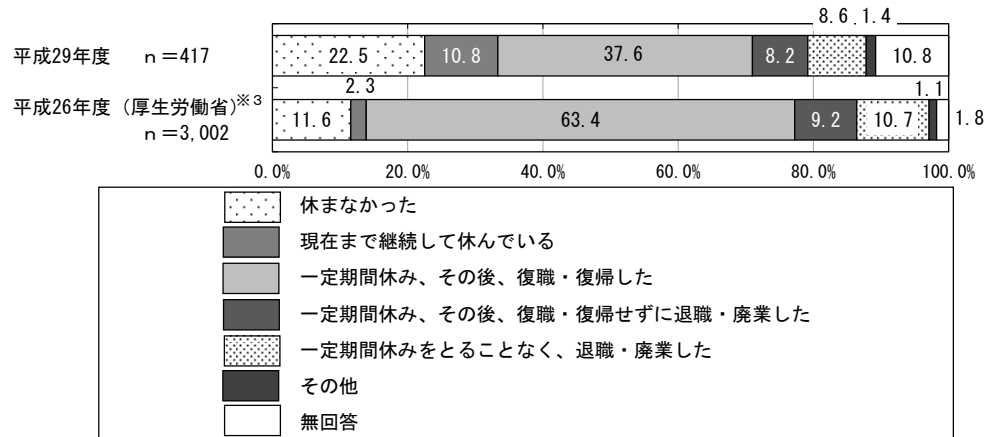
	n	休まなかった	現在まで継続して休んでいる	復職・復帰した、その後、一定期間休み、その後、復職・復帰した	復職・復帰せず退職・廃業した	一定期間休み、その後、復職・復帰せず退職・廃業した	一定期間休みをとることなく、退職・廃業した	その他	無回答
全体	417	94	45	157	34	36	6	45	
	100.0	22.5	10.8	37.6	8.2	8.6	1.4	10.8	

【その他】

- ・これから退職する予定（2件）
- ・一定期間（3ヶ月未満）休み、復帰した（2件）

国の調査（厚生労働省※3）と比較をしてみると、『平成26年度（厚生労働省）』で「一定期間休み、その後、復職・復帰した」で63.4%であるのに対し、『平成29年度』では同37.6%と約3割となっている。

■治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況
（単数回答/国の調査との比較）



	n	休まなかった	現在まで継続して休んでいる	復職・復帰した 一定期間休み、その後、	復職・復帰せずに退職・廃業した	一定期間休みをとることなく、退職・廃業した	その他	無回答
平成29年度	417	94	45	157	34	36	6	45
平成26年度※3 (厚生労働省)	3,002	348	68	1,904	276	320	32	54
	100.0	22.5	10.8	37.6	8.2	8.6	1.4	10.8
	100.0	11.6	2.3	63.4	9.2	10.7	1.1	1.8

※3 患者体験調査（平成26年度） 厚生労働省

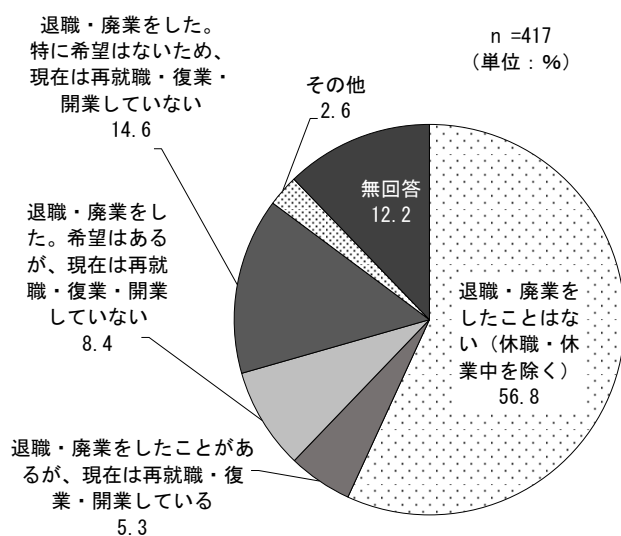
問 44 がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況

問 44 問 40 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

がん治療・療養のための退職・廃業の有無と、現在の仕事の状況について、教えてください。
【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）と自営業者・家族従業員の方ががん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況については、「退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）」が 56.8%と最も高く、次いで「退職・廃業をした。特に希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない」が 14.6%、「退職・廃業をした。希望はあるが、現在は再就職・復業・開業していない」が 8.4%の順となっている。

■がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況（単数回答/全体）



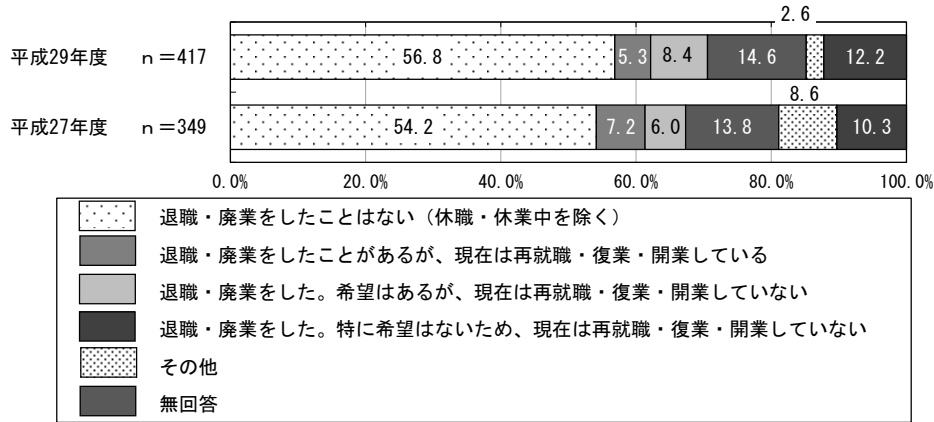
	n 数	退職・廃業をしたこと (休職・休業中を除く)	復業・開業している 再就職・復業・開業している	退職・廃業をしたこと 再就職・復業・開業している	退職・廃業をしたこと 再就職・復業・開業していない	退職・廃業をしたこと 再就職・復業・開業していない 希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない	その他	無回答
全体	417 100.0	237 56.8	22 5.3	35 8.4	61 14.6	11 2.6	51 12.2	

【その他】

- ・休職中（5件）
- ・定年退職（3件）

年度間比較をしてみると、『平成27年度』で「退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）」が54.2%であったものが、『平成29年度』では同56.8%となっており、2.6ポイント（56.8%－54.2%）上回っている。

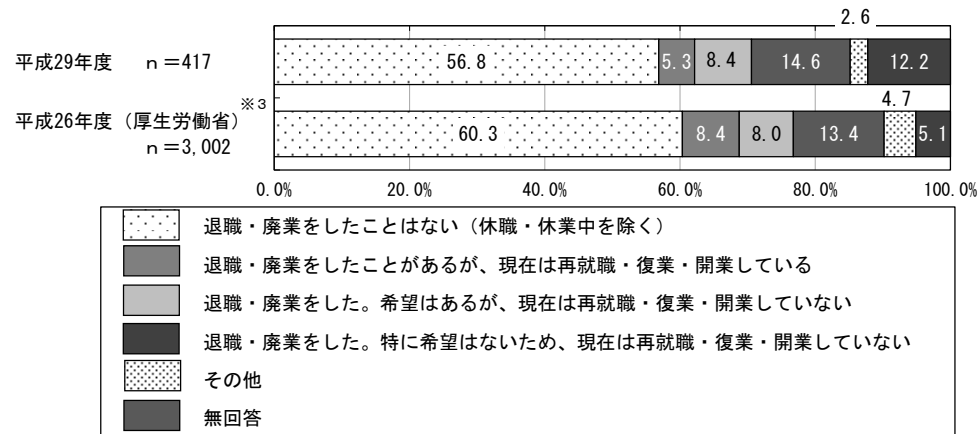
■がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況（単数回答/年度間比較）



	n	く な い （ 休 職 ・ 休 業 中 を 除 く ）	復 業 が ・ 開 業 現 在 し て は 再 就 職 ・ が	退 職 あ る が ・ 廃 業 現 在 し て は 再 就 職 ・ が	い 職 は ・ あ る が ・ 復 業 が ・ 開 業 現 在 し て は 再 就 職 希 望 な い	い 再 就 職 は ・ 希 望 は あ る が ・ 復 業 が ・ 開 業 現 在 し て は 再 就 職 希 望 な い	退 職 は ・ 希 望 は あ る が ・ 復 業 が ・ 開 業 現 在 し て は 再 就 職 希 望 な い	そ の 他	無 回 答
平成29年度	417 100.0	237 56.8	22 5.3	35 8.4	61 14.6	11 2.6	51 12.2		
平成27年度	349 100.0	189 54.2	25 7.2	21 6.0	48 13.8	30 8.6	36 10.3		

国の調査（厚生労働省※3）と比較をしてみると、『平成26年度（厚生労働省）』で「退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）」で60.3%であるのに対し、『平成29年度』では同56.8%と3.5ポイント（56.8%－60.3%）下回っている。

■がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況
（単数回答/国の調査との比較）



	n	く な 退 職 （ 休 職 ・ 廃 業 を し た こ と を 除 く ）	復 業 が ・ 開 業 し て い る 再 就 職 ・ が	退 職 が ・ 開 業 し て い る 再 就 職 ・ が	い 職 は ・ あ る が ・ 復 業 が ・ 開 業 し て い る 再 就 職 ・ が	退 職 は ・ あ る が ・ 復 業 が ・ 開 業 し て い る 再 就 職 ・ が	い 再 就 職 は ・ あ る が ・ 復 業 が ・ 開 業 し て い る 再 就 職 ・ が	退 職 は ・ あ る が ・ 復 業 が ・ 開 業 し て い る 再 就 職 ・ が	そ の 他	無 回 答
平成29年度	417	237	22	35	61	11	51			
平成26年度※3 （厚生労働省）	3,002	1,810	253	240	403	142	154			
	100.0	56.8	5.3	8.4	14.6	2.6	12.2			
	100.0	60.3	8.4	8.0	13.4	4.7	5.1			

※3 患者体験調査（平成26年度） 厚生労働省

問 45 仕事を継続するために必要な対応・制度

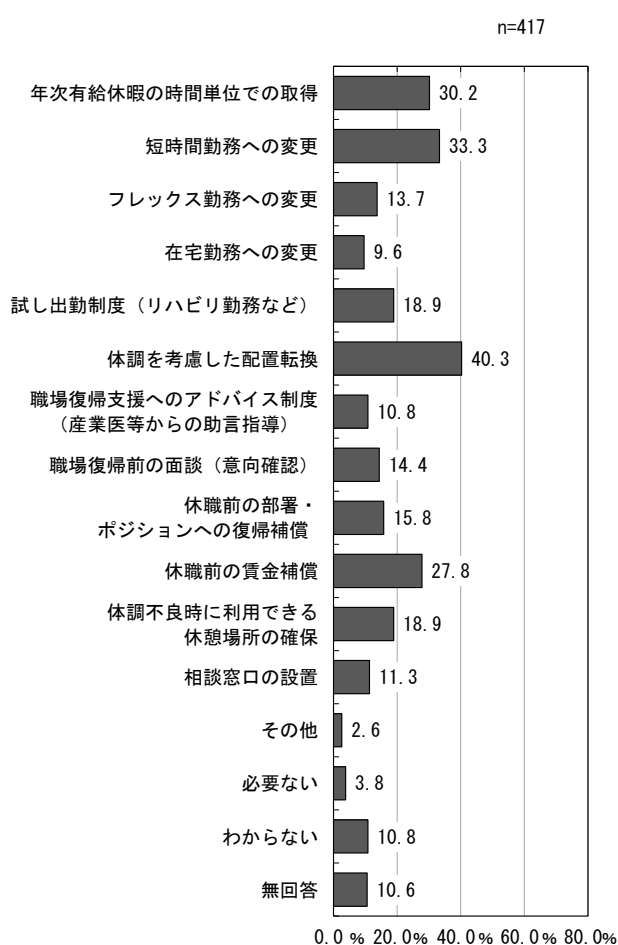
問 45 問40で1, 2, 3, 4と回答された方にお伺いします。

がんの治療と仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思いますか。

【〇はいくつでも】

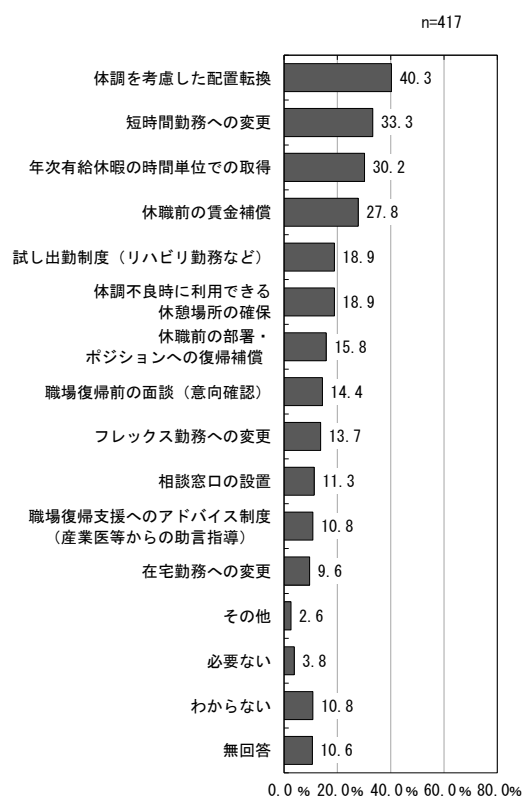
がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）と自営業者・家族従業員の方の仕事を継続するために必要な対応・制度については、「体調を考慮した配置転換」が40.3%と最も高く、次いで「短時間勤務への変更」が33.3%、「年次有給休暇の時間単位での取得」が30.2%の順となっている。

■仕事を継続するために必要な対応・制度（複数回答/全体）



—参考—

仕事を継続するために必要な対応・制度の割合の高いもの順グラフ



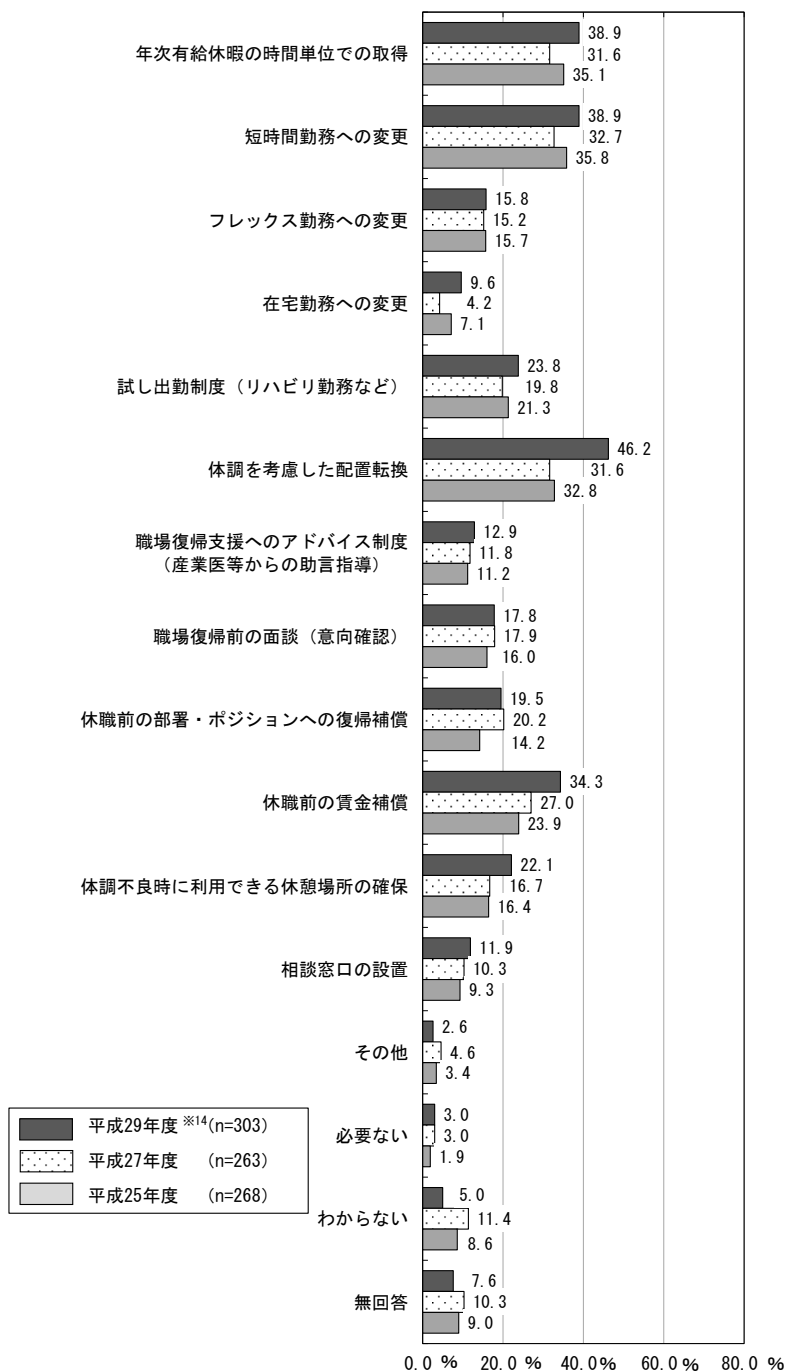
	n	年次有給休暇の時間単位での取得	短時間勤務への変更	フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	試し出勤制度（リハビリ勤務など）	体調を考慮した配置転換	職場復帰支援へのアドバイス制度（産業医等からの助言指導）	職場復帰前の面談（意向確認）	退職前の部署・ポジションへの復帰補償	退職前の賃金補償	体調不良時に利用できる休憩場所の確保	相談窓口の設置	その他	必要ない	わからない	無回答
全体	417	126	139	57	40	79	168	45	60	66	116	79	47	11	16	45	44
	100.0	30.2	33.3	13.7	9.6	18.9	40.3	10.8	14.4	15.8	27.8	18.9	11.3	2.6	3.8	10.8	10.6

【その他】

- ・ 退職期間の延長等（3件）
- ・ 気を使わずに休める体制（2件）
- ・ 自営業者で何の制度もなく、自らコントロールする（2件）

年度間比較をしてみると、『平成 25 年度』『平成 27 年度』で「短時間勤務への変更」が最も高かったものが、『平成 29 年度』では「体調を考慮した配置転換」となっている。

■仕事を継続するために必要な対応・制度（複数回答/年度間比較）



※14 『平成 25 年度』『平成 27 年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成 29 年度』の間 40 で「正規の職員・従業員」又は「パート・アルバイト（学生を除く）」又は「派遣社員・契約社員・嘱託」を回答した人のデータを抽出し再集計している

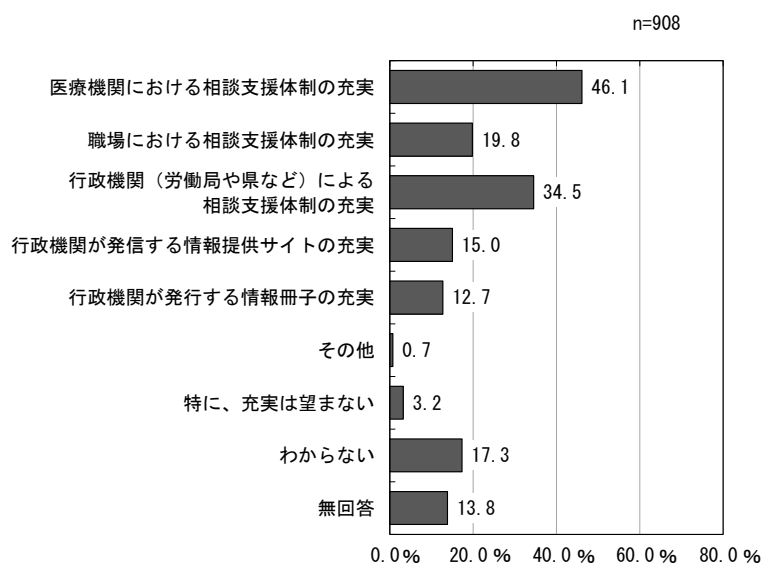
	n	年次有給休暇の時間単位での取得	短時間勤務への変更	フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	勤務し出勤制度（リハビリ）	体調を考慮した配置転換	の助言指導（産業医等からの）	職場復帰支援へのアドバイス（意向確認）	職場復帰前の面談（意向確認）	退職前の部署・ポジションへの復帰補償	退職前の賃金補償	体調不良時に利用できる休憩場所の確保	相談窓口の設置	その他	必要ない	わからない	無回答
平成29年度※14	303	118	118	48	29	72	140	39	54	59	104	67	36	8	9	15	23	
平成27年度	263	83	86	40	11	52	83	31	47	53	71	44	27	12	8	30	27	
平成25年度	268	94	96	42	19	57	88	30	43	38	64	44	25	9	5	23	24	
	100.0	31.6	35.8	15.7	7.1	21.3	31.6	11.2	16.0	14.2	23.9	16.4	9.3	3.4	1.9	8.6	9.0	

問 46 就労等の情報提供・相談支援に望むこと

問 46 生活上の困難（経済的なこと、就労のことなど）に関して情報提供や相談支援を受ける場合、どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】

就労等の情報提供・相談支援に望むことについては、「医療機関における相談支援体制の充実」が46.1%と最も高く、次いで「行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実」が34.5%、「職場における相談支援体制の充実」が19.8%の順となっている。

■就労等の情報提供・相談支援に望むこと（複数回答/全体）



	n	医療機関における相談支援体制の充実	職場における相談支援体制の充実	行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実	行政機関が発信する情報提供サイトの充実	行政機関が発行する情報冊子の充実	その他	特に、充実は望まない	わからない	無回答
全体	908	419	180	313	136	115	6	29	157	125
	100.0	46.1	19.8	34.5	15.0	12.7	0.7	3.2	17.3	13.8

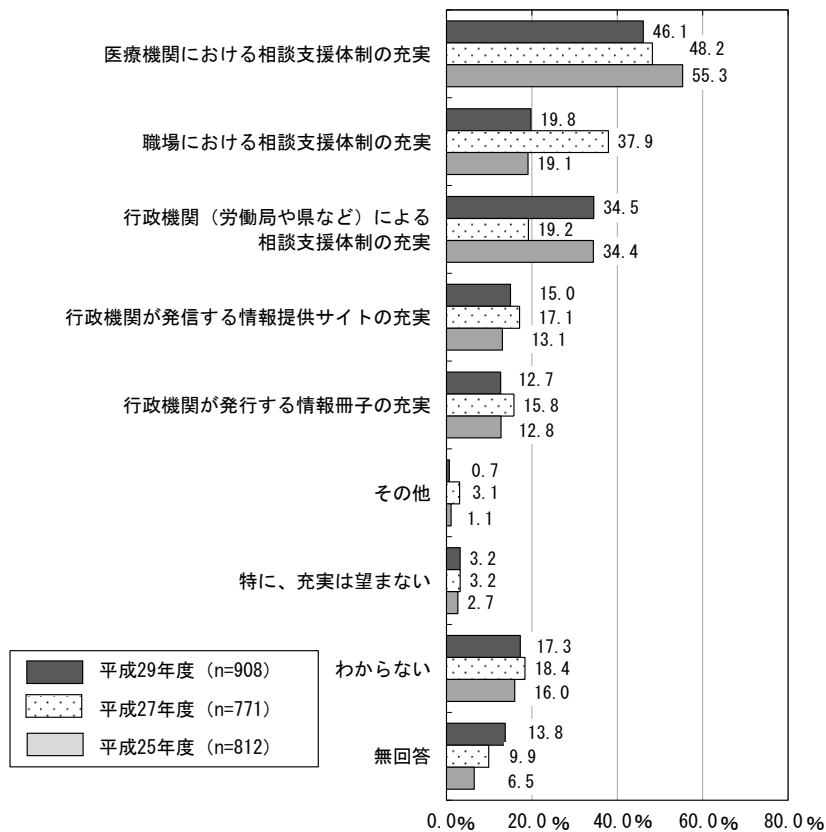
【その他】

- ・医療機関において患者の地域の情報を得られる案内（1件）

年度間比較をしてみると、いずれの調査年度も「医療機関における相談支援体制の充実」が最も高くなっている。

『平成 25 年度』で「医療機関における相談支援体制の充実」が 55.3%であったものが、調査年度毎に減少し、『平成 29 年度』では同 46.1%となっている。

■就労等の情報提供・相談支援に望むこと（複数回答/年度間比較）



	n	医療機関における相談支援体制の充実	職場における相談支援体制の充実	行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実	行政機関が発信する情報提供サイトの充実	行政機関が発行する情報冊子の充実	その他	特に、充実は望まない	わからない	無回答
平成29年度	908	419	180	313	136	115	6	29	157	125
	100.0	46.1	19.8	34.5	15.0	12.7	0.7	3.2	17.3	13.8
平成27年度	771	372	292	148	132	122	24	25	142	76
	100.0	48.2	37.9	19.2	17.1	15.8	3.1	3.2	18.4	9.9
平成25年度	812	449	155	279	106	104	9	22	130	53
	100.0	55.3	19.1	34.4	13.1	12.8	1.1	2.7	16.0	6.5

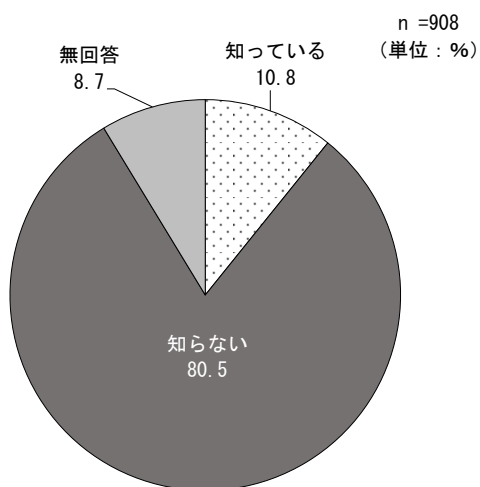
問 47 がん相談支援センターにおける就労相談の認知度

問 47 県内のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターで実施している、がん患者を対象とした社会保険労務士による就労相談（注参照）を知っていますか。【○はひとつだけ】

（注）がん相談支援センターにおける就労相談：がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」では、がんの治療と就労の両立支援に向けた取組として、社会保険労務士による就労相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院に設置している。

がん相談支援センターにおける就労相談の認知度については、「知らない」が 80.5%、一方「知っている」が 10.8%となっており、「知らない」が約 8 割を占めている。

■がん相談支援センターにおける就労相談の認知度（単数回答/全体）



	n	知っている	知らない	無回答
全体	908	98	731	79
	100.0	10.8	80.5	8.7

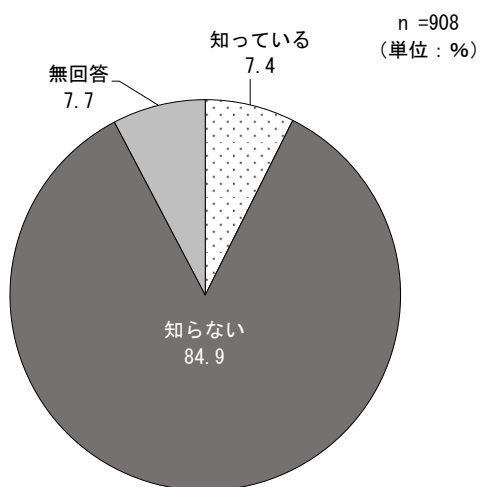
問 48 奈良県立医科大学附属病院における就職相談の認知度

問 48 奈良県立医科大学附属病院のがん相談支援センターがハローワークと連携して実施している、がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談（注参照）を知っていますか。
【〇はひとつだけ】

（注）奈良県立医科大学附属病院における就職相談：奈良県立医科大学附属病院では、ハローワーク大和高田と連携し、ハローワークから就職支援ナビゲーターを定期的に病院へ派遣し、がん患者等の長期療養者（糖尿病や肝炎等）に対する就職相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。

奈良県立医科大学附属病院における就職相談の認知度については、「知らない」が84.9%、一方「知っている」が7.4%となっており、「知らない」が約8割を占めている。

■奈良県立医科大学附属病院における就職相談の認知度（単数回答/全体）



	n	知っている	知らない	無回答
全体	908	67	771	70
	100.0	7.4	84.9	7.7

2-6. がん登録について

問 49 がん登録の認知度

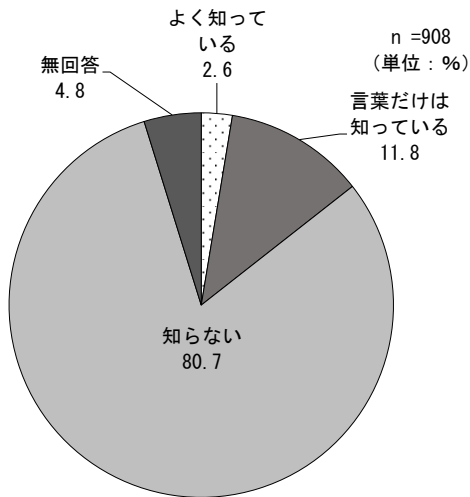
問 49 あなたは、「がん登録」（注参照）について知っていましたか。【〇はひとつだけ】

（注）がん登録：全国がん登録：今後のがん検診やがん医療の評価に役立てるため、がん患者ひとりひとりの診断データや、その後の経過、生存状況について収集することを「がん登録」という。これまで、各都道府県単体で「地域がん登録」を実施していたが、すべてのがん患者が登録されていないなどの課題があったため、平成 28 年から全国すべての病院等からがん患者の情報を正確に登録する「全国がん登録」が始まった。

がん登録の認知度については、「知らない」が 80.7%と最も高く、次いで「言葉だけは知っている」が 11.8%、「よく知っている」が 2.6%の順となっている。

“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）が 14.4%となっており、約 1 割を占めている。

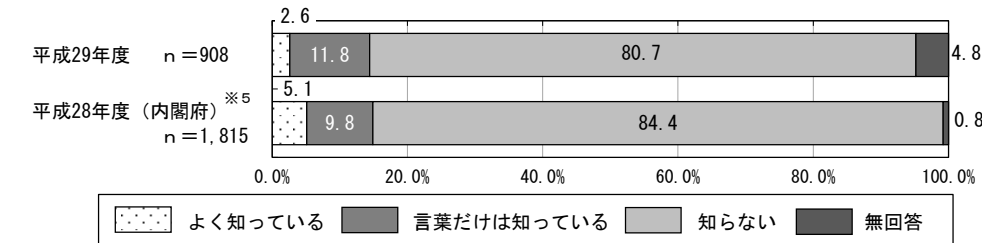
■がん登録の認知度（単数回答/全体）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
全体	908	24	107	733	44
	100.0	2.6	11.8	80.7	4.8

国の調査（内閣府^{※5}）と比較すると、いずれの調査年度も同じ傾向となっており、『平成 28 年度（内閣府）』では“知っている”が 14.9%であるのに対し、『平成 29 年度』では同 14.4%と 0.5 ポイント（14.4%－14.9%）下回っている。

■がん登録の認知度（単数回答/国の調査との比較）



	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
平成29年度	908	24	107	733	44
	100.0	2.6	11.8	80.7	4.8
平成28年度 ^{※5} （内閣府）	1,815	-	-	-	-
	100.0	5.1	9.8	84.4	0.8

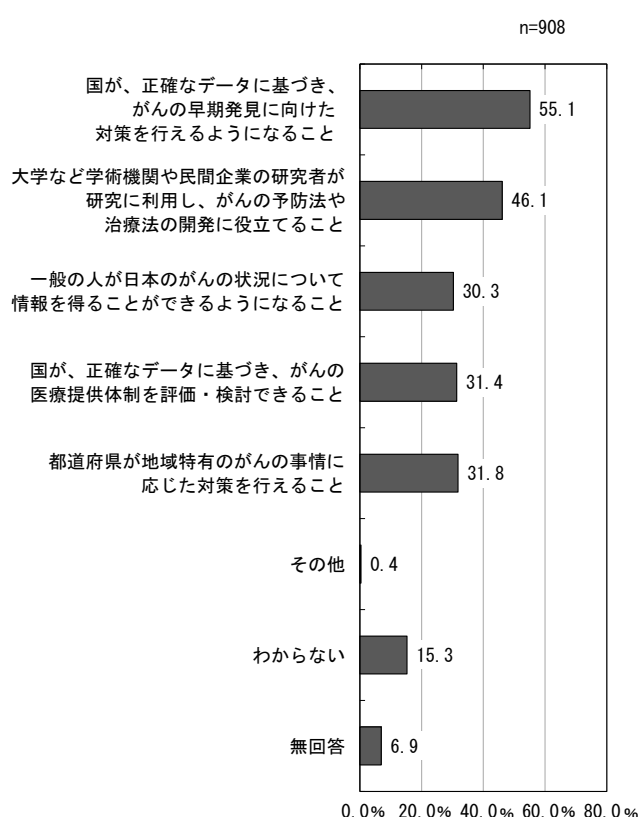
※5 がん対策に関する世論調査（平成 28 年 11 月） 内閣府
内閣府の調査データで選択肢「わからない」は本報告書では無回答としている

問 50 がん登録による期待するメリット

問 50 がん登録によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できます。あなたは何に期待しますか。【〇はいくつでも】

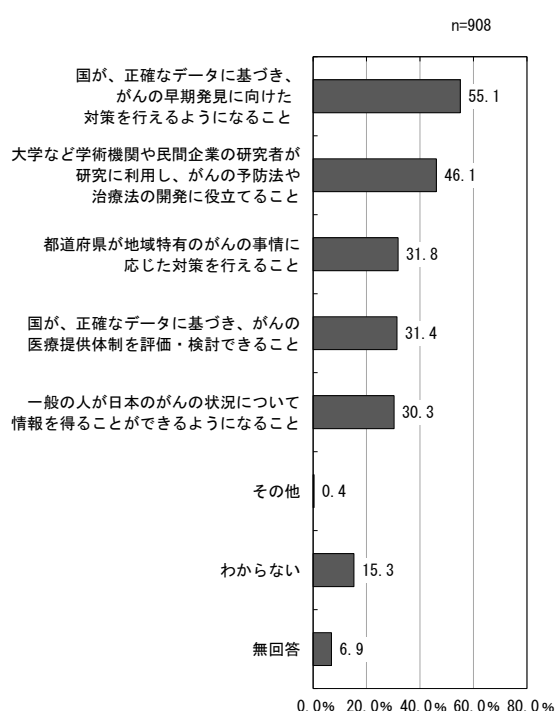
がん登録による期待するメリットについては、「国が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること」が 55.1%と最も高く、次いで「大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること」が 46.1%、「都道府県が地域特有のがんの事情に応じた対策を行えること」が 31.8%の順となっている。

■がん登録による期待するメリット（複数回答/全体）



—参考—

がん登録による期待するメリットの支援内容の割合の高いもの順グラフ



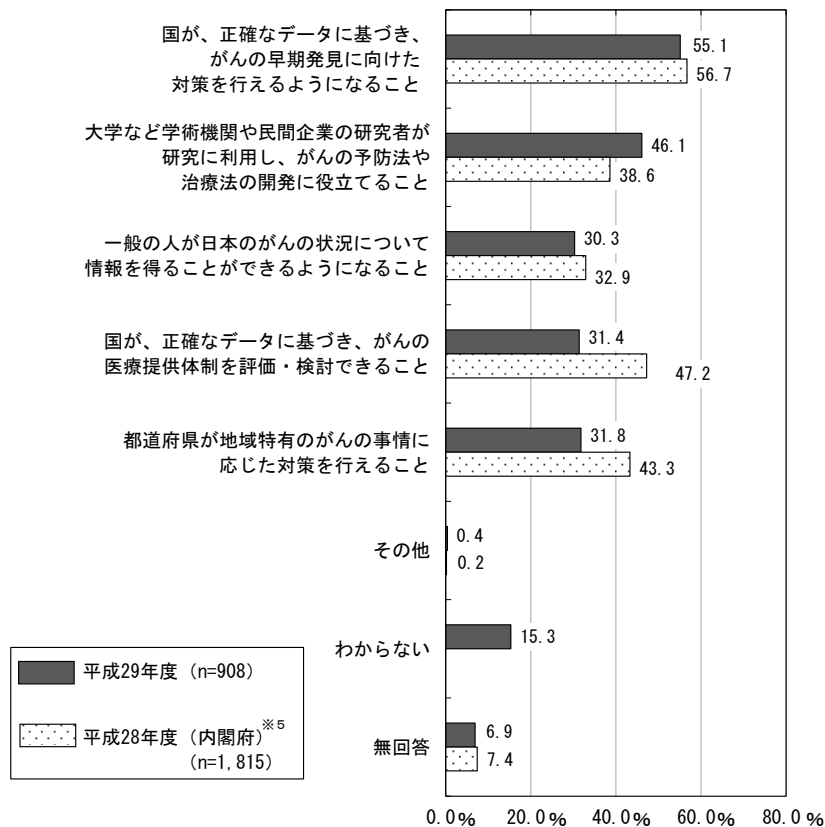
	n 数	国が、 正確な データ に基づ き、 がん の早期 発見に 向け た対策 を行 えるよ うに 基 づく	国が、 正確な データ に基づ き、 がん の医療 提供体 制を 評価・ 検討 でき るこ と	大学 など 学術 機関 や 民間 企業 の 研究 者 が 研 究 に 役 立 て る こ と	都 道 府 県 が 地 域 特 有 の が ん の 事 情 に 応 じ た 対 策 を 行 え る こ と	一 般 の 人 が 日 本 の が ん の 状 況 に 関 し て 情 報 を 得 る こ と が で き る よ う に な る こ と	国 が、 正 確 な デ ー タ に 基 づ き、 が ん の 医 療 提 供 体 制 を 評 価 ・ 検 討 で き る こ と	都 道 府 県 が 地 域 特 有 の が ん の 事 情 に 応 じ た 対 策 を 行 え る こ と	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	908 100.0	500 55.1	419 46.1	275 30.3	285 31.4	289 31.8	4 0.4	139 15.3	63 6.9		

【その他】

- ・薬の開発と医療費の助成（2件）
- ・他都道府県に転居した際の受け入れ（1件）
- ・就労環境の改善（1件）

国の調査（内閣府※5）と比較すると、「国が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること」が『平成29年度』『平成28年度（内閣府）の調査』の双方で最も高いのに対し、『平成29年度』では「大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること」、『平成28年度（内閣府）の調査』では「国が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること」が2番目に高くなっている。

■がん登録による期待するメリット（複数回答/国の調査との比較）



	n	国が、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること	大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること	一般の人が日本のがんの状況について情報を得ることができるようになること	国が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること	都道府県が地域特有のがんの事情に応じた対策を行えること	その他	わからない	無回答
平成29年度	908	55.1	46.1	30.3	31.4	31.8	0.4	15.3	6.9
平成28年度※5 (内閣府)	1,815	56.7	38.6	32.9	47.2	43.3	0.2	-	7.4

※5 がん対策に関する世論調査（平成28年11月） 内閣府
内閣府の調査データで選択肢「わからない」は本報告書では無回答としている

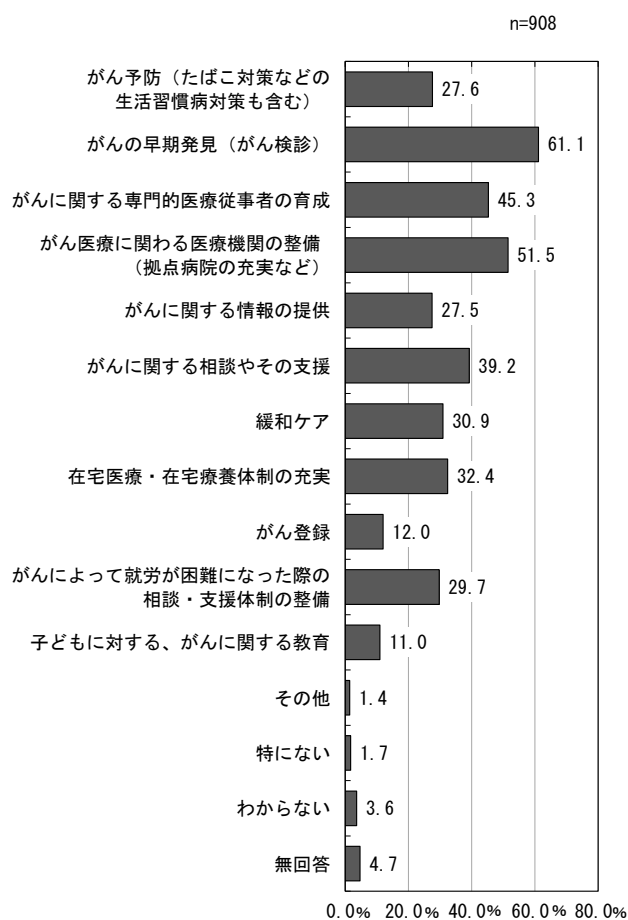
2-7. 全体的なことについて

問 51 がん対策で奈良県に望むこと

問 51 がん対策について、奈良県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。
【〇はいくつでも】

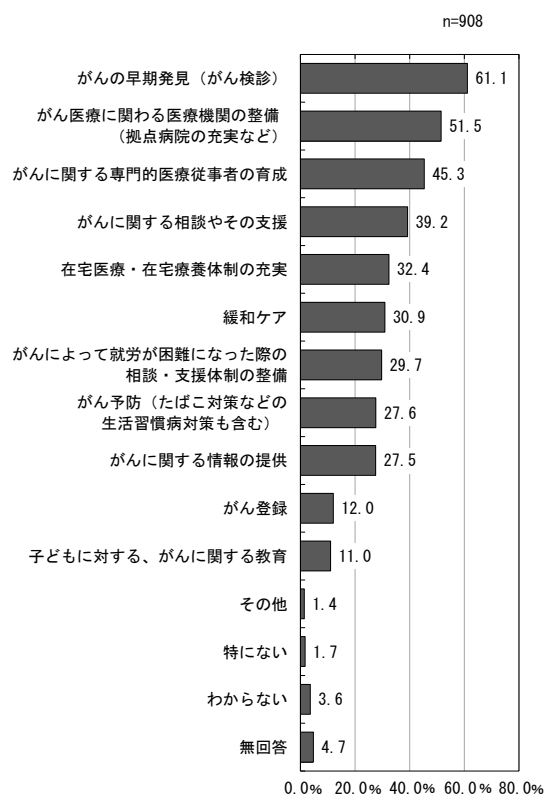
がん対策で奈良県に望むことについては、「がんの早期発見（がん検診）」が 61.1%と最も高く、次いで「がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）」が 51.5%、「がんに関する専門的医療従事者の育成」が 45.3%の順となっている。

■がん対策で奈良県に望むこと（複数回答/全体）



—参考—

がん対策で奈良県に望むことの割合の高いもの順グラフ



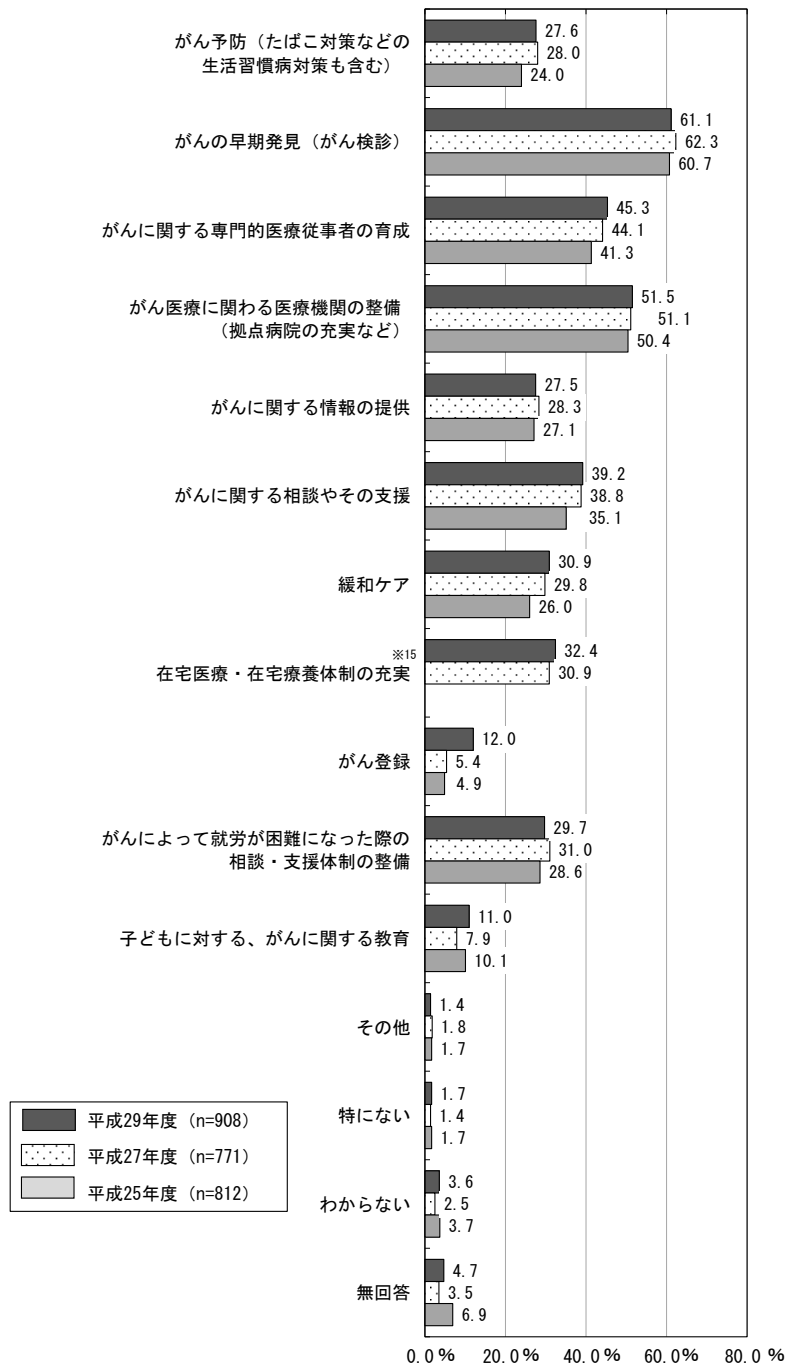
	n	がんの早期発見（がん検診）	がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）	がんに関する専門的医療従事者の育成	がんに関する相談やその支援	緩和ケア	在宅医療・在宅療養体制の充実	がん登録	がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備	子どもに対する、がんに関する教育	その他	特にない	わからない	無回答		
全体	908	251	555	411	468	250	356	281	294	109	270	100	13	15	33	43
	100.0	27.6	61.1	45.3	51.5	27.5	39.2	30.9	32.4	12.0	29.7	11.0	1.4	1.7	3.6	4.7

【その他】

- ・医療費の助成（5件）
- ・経済的な事についての相談・支援（1件）
- ・ボランティア等の支援経験者を育成し活躍する場の提供（1件）

年度間比較をしてみると、いずれの調査年度も「がんの早期発見（がん検診）」が最も高くなっている。

■がん対策で奈良県に望むこと（複数回答/年度間比較）



※15 選択肢「在宅医療・在宅療養体制の充実」は平成27年度より調査

	n	がん予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む）	がんの早期発見（がん検診）	がんに関する専門的医療従事者の育成	がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）	がんに関する情報の提供	がんに関する相談やその支援	緩和ケア	在宅医療・在宅療養体制の充実 ※15	がん登録	がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備	子どもに対する、がんに関する教育	その他	特にない	わからない	無回答
平成29年度	908 100.0	251 27.6	555 61.1	411 45.3	468 51.5	250 27.5	356 39.2	281 30.9	294 32.4	109 12.0	270 29.7	100 11.0	13 1.4	15 1.7	33 3.6	43 4.7
平成27年度	771 100.0	216 28.0	480 62.3	340 44.1	394 51.1	218 28.3	299 38.8	230 29.8	238 30.9	42 5.4	239 31.0	60 7.9	14 1.8	11 1.4	19 2.5	27 3.5
平成25年度	812 100.0	195 24.0	493 60.7	335 41.3	409 50.4	220 27.1	285 35.1	211 26.0	-	40 4.9	232 28.6	82 10.1	14 1.7	14 1.7	30 3.7	56 6.9

問 52 療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと（自由記述）

問 52 療養生活を送る中で、よかったと感じたこと、また、不満や疑問に感じたことがあれば、自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見を上位最大5件まで抽出している。

A. 療養生活を送る中でよかったと感じたこと

□家族、友人、知人の支え（25件）

- ・家族のありがたさが確認出来た。（16件）
- ・友人に恵まれ、色々な点で力になってもらっている。前向きになり治療を受ける事が出来る。（3件）
- ・思いもよらない病気になって不安でいっぱいだったが、家族の絆は深まったと思う。（2件）
- ・病院内のサロンに行って同病の方と話して元気になれた。サロンで家族にも話せない辛さなどを話せ、分かってくれる仲間が多く嬉しかった。（2件）

□医師の対応（32件）

- ・手術担当医が、手術内容を詳細に説明してもらえた事や、術後の抗がん剤治療の説明も含めて安心が出来た。（12件）
- ・主治医が誠実に一生懸命治療にあたって下さるのが何よりも生きる希望となっている。（8件）
- ・担当医が毎朝巡回して元気づけてもらいました。心の気持ちが楽になった。（6件）
- ・良いお医者さまに会えて良かった。治療中も明るくいられておかげで元気に過ごせた。（3件）

□看護師や病院関係者の対応（68件）

- ・看護師さん、薬剤師さんの笑顔と励ましの声かけに何度か救われた。忙しい中、時間をさいて受診等によりそってもらえた事が嬉しかった。（31件）
- ・丁寧な対応（スタッフ全体）に感謝している。（17件）
- ・担当医や看護師等、スタッフに入院、手術時、そして現在の経過観察等々でも充分お世話になり、誠にありがたく思い、現在は手術前同様の健康時の生活に戻り、大変うれしく思っている。（4件）
- ・気に関してあきらめはある。緩和ケアで心の苦しさをゆっくり聞いてもらえた事は幸いであった。（2件）

□治療の進め方（25件）

- ・治療計画がスタート時にほぼ明確にされていたのが良かった（約半年の治療計画）。（8件）
- ・検診から治療まで迅速に対応してもらい、特別に不満はない。（6件）
- ・乳がんであったため、抗がん剤の効果を実感出来た事。比較的副作用が軽く、いつもの生活を送る事が出来たため楽であった。（4件）

□病院の体制・設備（13件）

- ・病院内が明るくて清潔感があったので気分的に救われました。（6件）
- ・入院中の医療体制が充実しており、良かったと思う。（6件）
- ・治療を受けている病院の専門医と看護師がボランティアで乳がん患者の会を開いてくれます（年2回）。病気や治療方針の勉強が出来て、同じ病気の人との体験談など勇気と元気をもらえます。

□生きていることや健康のありがたさの再確認（19件）

- ・母として妻として当たり前、家事をこなして当たり前とまるで空気のように思われていたのですが発病後、皆が私の存在に大きな価値を与えてくれた。（12件）
- ・命があり、生活する事が出来る事に喜びを感じます。（6件）

□健康診断や早期発見の大切さ（15件）

- ・早期発見が第一と思いました。退院後もふつうに暮らしていますので嬉しく思っています。（10件）
- ・職場の健康保険組合の健診を受け、早期発見出来た事。（3件）

- ・初期がんで放射線治療だけで済んだ事です。毎日通院は大変でしたが、家の事も出来て良かった。(2件)
- ・市の助成による「健康診断」で早期発見出来た。やはり毎年「健康診断」を受けないとダメだ。結構受けていない人が多い。

□医療制度 (5件)

- ・外来治療で仕事が続けられ国民健康保険を支払う事ができ、費用も自己負担限度額証を使ったので良かった。
- ・がん保険に入っていた事(2社)に安心感あり。健康保険限度額適用認定証があった事。社会保険に入っていた事などが良い点でした。

□会社支援のありがたさ (5件)

- ・会社が病気を理解し、現状の就業規則の中で最適な対応をしてくれた事で安心して休む事が出来た。
- ・職場の協力もあり、本当に恵まれていると思います。

B. 療養生活を送る中で不満や疑問に感じたこと

□家族の問題 (7件)

- ・家族への精神的・経済的負担を思うと心も辛い。ずっと暗闇の中にいるようです。(3件)
- ・1人で生活しているが、不安な事が多い。(2件)
- ・認知症の親の介護があり、その事が精神的にしんどかった。

□医師の対応 (18件)

- ・医療用語でなく分かりやすく説明してほしい。(9件)
- ・医師からセカンドオピニオンについて一言も言及がなかったのは残念。患者からはなかなか言い出しにくい事なので。(3件)
- ・やはり医師との会話の時間が少ない、患者が納得出来るまで話し合える制度を整えてほしい。(2件)
- ・患者がより専門医に自分の今後や症状について十分に相談出来るように医師の”確保”や”余裕”、”充実”を公の機関が努めて働いて動いてほしい。流れ作業でその人の人生、局部だけの施術で終わらせる事がないように願います。

□医師以外の病院スタッフの対応 (2件)

- ・療養中に他の医療機関を受診した時、受付で他の患者さんがいるにもかかわらず、病名を言われた事があり、精神的なダメージを受けました。できれば配慮してもらえたらと思います。

□治療の進め方 (17件)

- ・病気になった事を悔いる毎日、抗がん剤の副反応がいつまでも身体に残っていて痛みを何とかごまかしながら過ごす毎日、良かったと感じる事などありません。(6件)
- ・手術以後苦しかったのは放射線による照射で口咽中が大変痛かった。これはもっと軽くする方法を研究開発してほしい。(5件)
- ・病院で治療の時に、栄養士による指導等もしてほしい。
- ・胃以外に腸炎、膀胱炎他になり、がん治療が出来ない事。

□病院の体制・設備 (20件)

- ・がんと分かってから治療、OPまでの時間が長く感じた。その間色々変な事を考えてしまって嫌だった。(3件)
- ・完全看護体制の入院を可能にしてほしい。単身者であり何かと大変であった。
- ・検診の時、異常が明らかな場合は至急に再検査していただけるようにしてもらいたい。
- ・主治医の対応が非常に良かったが転勤によって、以前のような治療が受けられなくなり不安が募った。
- ・食事をもう少し良くしてほしい。

□自分の健康、再発等への精神的不安 (11件)

- ・がんが寛解しなかった時、その後については不安ばかりが大きくなるので色々な療法について教えてほしい。(2件)

- ・80歳を過ぎて手術をしてもらったが、あと抗がん剤治療を続けているが、老いた体にダメージが大きいので、生活していく中で不安はいっぱいある。
- ・切除（全摘）した事で転移が少しでも少なく出来るものと期待。なるべく予防せねばならぬが精神的にがんは死に至り易いという認識を拭えず辛い。

□仕事や社会生活への復帰（6件）

- ・療養中は働きたくても働けない。
- ・体調を考慮しながら内職や在宅ワークなどがあれば気分も助かるのに働けず、治療費だけを払い続けていると、まるでごくつぶしのように感じる。
- ・がん患者に同世代の働き盛りの方が多く、体調が悪く働けなくなった場合の生活はどうなるのか…自分も含め収入面での不安もあり、辛い治療との両立の仕方は今後の課題だと思う。
- ・がんを期に仕事を辞めたので自宅でゆっくり時間を過ごせた事は良かったと思う。契約社員だったのであっさり仕事を切られてしまったのは不満である。

□医療費等経済的不安・不満（9件）

- ・乳がん患者に対してもオプジーボを保険適用で使用出来るようにしてほしい。経済的負担の軽減（今もしてもらっているが毎月高額な医療費ですので、もっと軽くしてほしいです）。
- ・医師が治療費についての意識がなく、検査等にかかる費用負担は大きい。
- ・副作用による脱毛期間は必ずあるとの事。行政による免税とか助成金とかの制度などあると良い。ウィッグ代やその他のケア製品は専門的な事なので必要経費だと思います。
- ・年金生活なので経済的負担が大きい。特に公的保険の自己負担額も制度が改正され、1人で最大月々8万円弱の負担になり、病院、科毎に、また家族毎に21,000円を超えない限り負担は増え続け、生活に影響している。経済的に安心して治療できるシステムを望む。

問 53 医療機関や行政に対するがん医療に関する意見（自由記述）

問 53 医療機関や行政に対し、がん医療に関して何かご意見があれば、自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見を上位最大5件まで抽出している。

A. 医療機関に対しての自由意見

□医師について（48件）

- ・優秀な名医が多い医師・スタッフが多い病院が増える事を望みます。（14件）
- ・担当医が患者の立場になって説明してほしい。分かりやすい言葉と少しでも安心と自信をもてるよう、励ましの言葉や患者の心によりそってもらえるよう配慮してほしい。（8件）
- ・患者の希望に理性的に対応して患者の疑問、不安を縮小する使命感を持ってほしい。（7件）
- ・私は幸い先生達に恵まれました。自分で診療せず先生達に全てを任す。（4件）
- ・病気の事ではかかりつけの先生に相談しております。（3件）

□看護師等病院スタッフについて（28件）

- ・大変良かった。医師と看護師の連携がよく、特に看護師はどの人もよく教育され、みな親切でよく出来た人達でした。（12件）
- ・主治医、看護師、手術関係の医・看など病院全体で支えて頂いた事が現在の健康状態に繋がっていると思うと感謝以外にない！！（3件）
- ・1人の人間として扱ってほしいと思う事（時）がある。（3件）
- ・がんだけではなくすべての患者に対して事務的対応でなく、わが家族と思って接して頂きたいです。（2件）
- ・もう少しがん専門スタッフがいればいいなと思います。（2件）

□専門病院・医療機器の充実について（17件）

- ・抗がん治療をしている人が増加しているようなので治療設備の増設をしてもらいたい。（3件）
- ・地域格差をなくす先端医療の導入、確立。先端医療機関を連携しネット医療の確立。（3件）
- ・医療技術、入院時の対応を含めて非常に充実していた。（2件）
- ・拠点病院等の増加促進。

□病院の体制・設備について（28件）

- ・がんと分かればすぐに手術出来る体制になれば良いと思う。待つ日数が多い程病状が進むし、気持ちがゆらぐ。（12件）
- ・国の最先端医療動向が同じ病院の中で知っている医師と知らない医師がある。横断的な知る場があるのか不思議。（4件）
- ・副作用、合併症、転移の確認を同じ医療機関で総合的に診てほしい。
- ・病院により治療機器が旧型で治療されたり新型で治療されたり統一されていない。

□緩和ケアについて（10件）

- ・同室のがん患者同士の話、情報などを得られるメリットもあるが恐くて聞きたくない人への配慮はない。若い看護師も多く、思いが至らない事も仕方ないが、それがとても心理的負担になる事を知ってほしい。
- ・再発の心配をいつまでも対応、ケアしてくれる体制を望む。（6件）
- ・夜勤の方は体力的に大変なので、もう少し人員を増やし看護する側の人達の負担が軽くなると良いのでは…と思った。メンタル的に不安定になったりしたので、心のケアが出来る人を増やしてほしい。

□医療費について（9件）

- ・がんは年がたってから多いと思うので療養生活と医療費を安く出来るようにしてほしい。
- ・早期発見でがんの治療の時間、期間が変わるため人間ドック等の推進と保険利用でもう少し価格を安くしてもらえたら沢山の人が定期的に利用出来るのでは。
- ・治療方針、投薬等の説明はあるが費用の説明はなかった。（3件）
- ・治療代検査、薬代などにお金がかかり過ぎる。お金がないと検査代、薬代が…どうしたらいいのか分からない。

□診療・治療について（30件）

- ・がんの治療薬（抗がん剤等）の充実を望みます（副作用のなるべく少ないもの）。（3件）
- ・がんと言っても初期に発見できれば後々の生活には何の問題もない。年1回ドック受診で良かったと思う。ドック受診率をUPする事が有効。（8件）
- ・私がお世話になった治療で十分に満足で、ありがたく思っております。（3件）
- ・なるべく辛い治療をしてほしい。

□情報提供について（13件）

- ・がん自体の情報、治療に関する情報をインターネットに提供し、検索しやすくしてほしい。（2件）
- ・病院にがんについての本、資料等など置いてほしい。（2件）
- ・治療について一方的に決めずに色々なやり方を示した上で、患者に選択出来るようにしてほしい。治療のガイドラインに沿った治療方法だけではなく、色々な情報も患者に知らせしてほしい。

□その他（12件）

- ・個人的には満足しています。（5件）
- ・期待したい事は多いがまだまだ不治の病か。

B. 行政に対しての自由意見

□医療体制の充実について（30件）

- ・がんに対する専門医を増やし、教育をしてほしいと思います。そのためには教育費の支援等々。（7件）
- ・医療機関だけでは限界があり、行政（国）の強いバックアップが不可欠。（4件）
- ・医師、看護師不足が深刻だ。人員の増員と諸手当のアップを考えるべき。（2件）
- ・専門医が情報を他の病院と共有して新しい治療に役立てる事を行政も後押しして有効な治療やサポート体制を確立してほしい。（2件）
- ・治療方法、薬の認可に関して積極的に検討して治療の選択肢が増えるようにしてもらいたい。（2件）
- ・行政に対してがんに係る教育機関や研究者（日本の他、欧米の）の知見を大いに生かして先端的な医療で臨んで下さい。

□相談支援・情報提供について（26件）

- ・県民に更なるPR活動が必要。（10件）
- ・治療にかかる費用の補助等など、全ての患者に分かるようにお知らせいただきたい。（2件）
- ・がんに対する予防について、もっと市民に知らせて下さい。（2件）
- ・医療機関と患者の両面に情報サービスの充実を図ってほしい。
- ・相談窓口（情報提供等の）を周知してほしい。

□がん予防・がん検診について（22件）

- ・無料あるいは費用があまりかからない検診で早期発見出来るがんは限られている。現在の人間ドックでのエコー検査くらいまで、行政で「検診」として支援してほしい。
- ・早期発見の体制強化。（7件）
- ・定期検診のPR実施の回数を増やすなど予防に力点を置く事が肝要。
- ・なぜ日本は他国に比べ検診率が低いのか。なぜ検診に対する意識が低いのか。検診率上昇、意識の向上に向けた取り組みをしてほしい。（7件）

□社会復帰・社会支援について（7件）

- ・がん患者などがマイペースで出来るような在宅ワークやお手伝いなど、孤立しないように、また社会の役に少しでも立っていると思えるような仕事を提供してほしい。
- ・パートので仕事ができ、ありがたいと思えました。でも若い人は正社員などフルタイムで大変だと思います。先に希望が持てるように色々考えて下さい。
- ・安心して暮らせる良い社会を実現する制度の普及を加速させて頂きたい。格差社会の是正を実現して頂きたい。同様に、やむも無くがん治療により退職した長期療養者で再就職を望む者への同じ制度上で支援を推進して頂きたい。
- ・就労の支援体制の整備等。

□医療費や経済的なことについて（64件）

- ・治療が長期に渡り、経済的に大変。医療助成の充実をお願いします。（43件）
- ・治療薬が全て保険適用が受けられるように補助。（7件）
- ・医療用帽子、医療用ウィッグを医療費控除や健康保険の対象にしてほしいです。（5件）
- ・がん患者に対する生活支援（経済的）の充実化。（5件）
- ・高額医療制度に感謝しています。（4件）

□その他（25件）

- ・何も言う事はありません。ありがたく思っております。（4件）
- ・普段あまり知らなかったのですが、関心を持って色々勉強していきたい。
- ・このアンケートを無駄にしないでほしい。がん医療に関しては奈良県が一番考えている県になって頂き各県に発信して頂きたい。
- ・全国のがん患者の不安を解消する施策を1つでも多く早期に取り入れて下さい。

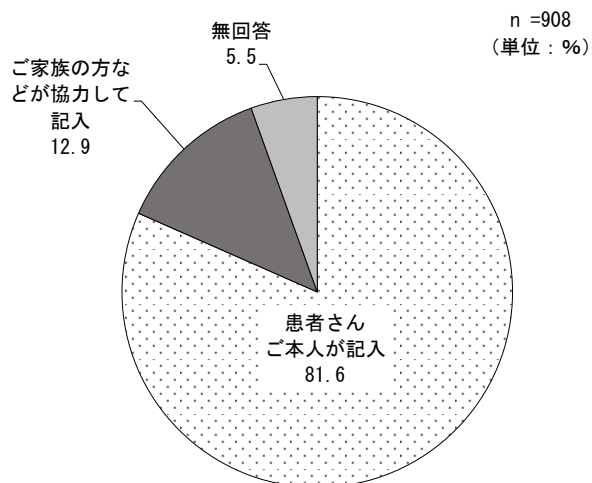
2-8. 患者本人について

問 54 記入者

問 54 このアンケートの記入者はどなたですか。【〇はひとつだけ】

このアンケートの記入者については、「患者さんご本人が記入」が 81.6%、「ご家族の方などが協力して記入」が 12.9%と、約 8 割が本人記入となっている。

■記入者（単数回答/全体）



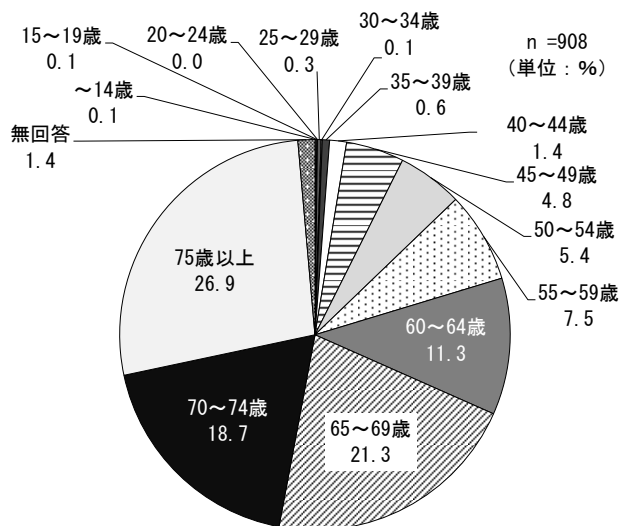
	n 数	患者さんご本人が記入	ご家族の方などが協力して記入	無回答
全体	908 100.0	741 81.6	117 12.9	50 5.5

問 55 年齢

問 55 患者さんご本人の現在の年齢は、何歳ですか。

患者の年齢については、「75歳以上」が26.9%と最も高く、「65～69歳」が21.3%、「70～74歳」が18.7%の順となっている。60歳以上が全体の78.2%と約7割を占めている。

■年齢（単数回答/全体）



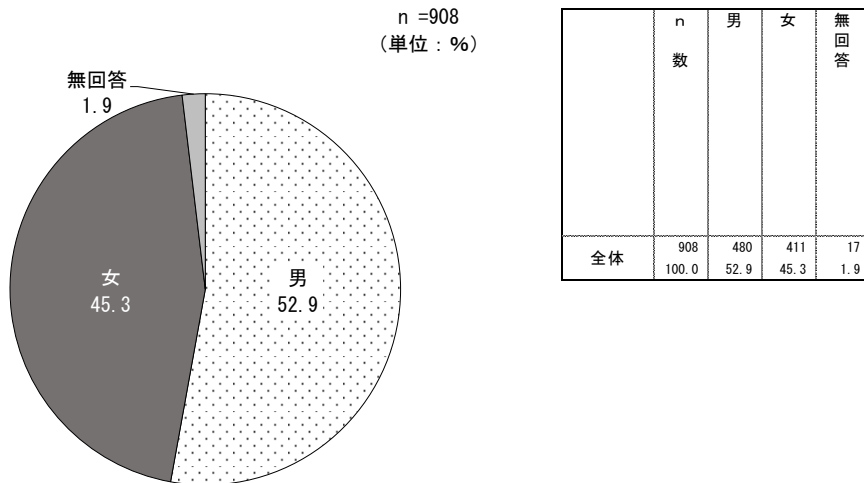
	n	1 4 歳	1 5 1 9 歳	2 0 2 4 歳	2 5 2 9 歳	3 0 3 4 歳	3 5 3 9 歳	4 0 4 4 歳	4 5 4 9 歳	5 0 5 4 歳	5 5 5 9 歳	6 0 6 4 歳	6 5 6 9 歳	7 0 7 4 歳	7 5 歳 以上	無 回 答
全体	908	1	1	0	3	1	5	13	44	49	68	103	193	170	244	13
	100.0	0.1	0.1	0.0	0.3	0.1	0.6	1.4	4.8	5.4	7.5	11.3	21.3	18.7	26.9	1.4

問 56 性別

問 56 患者さんご本人の性別を教えてください。【〇はひとつだけ】

患者の性別については、「男」が 52.9%、「女」が 45.3%で「男」:「女」= 5 : 4 となっており、「男」のほうが多くなっている。

■性別（単数回答/全体）

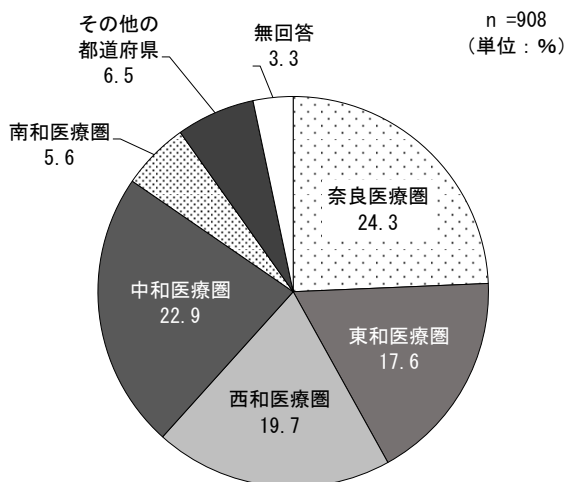


問 57 居住する医療圏

問 57 患者さんご本人が現在お住まいの市町村はどちらですか。

患者の居住する医療圏については、「奈良医療圏」が 24.3%と最も高く、次いで「中和医療圏」が 22.9%、「西和医療圏」が 19.7%となっている。

■居住する医療圏（単数回答/全体）



	n	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏	その他の都道府県	無回答
全体	908	221	160	179	208	51	59	30
	100.0	24.3	17.6	19.7	22.9	5.6	6.5	3.3

医療圏	市町村名
奈良	奈良市
東和	天理市、桜井市、宇陀市、(山辺郡)山添村、(磯城郡)川西町、三宅町、田原本町、(宇陀郡)曾爾村、御杖村
西和	大和郡山市、生駒市、(生駒郡)平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、(北葛城郡)上牧町、王寺町、河合町
中和	大和高田市、橿原市、御所市、香芝市、葛城市、(高市郡)高取町、明日香村、(北葛城郡)広陵町
南和	五條市、(吉野郡)吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村

【その他の都道府県】

- ・三重県 (27 件)
- ・京都府 (18 件)
- ・大阪府 (10 件)
- ・和歌山県 (2 件)

(参考) アンケート調査票

ならのがんに関する患者意識調査 ご協力をお願い

みなさまには、日頃から、県政にご協力をいただきありがとうございます。

さて、県では平成25年3月に第2期奈良県がん対策推進計画を策定し、「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」を基本理念にがん医療や患者支援など様々な取組を医療関係者と連携し進めています。今年度は計画の最終年度となるため、これまでの取組の評価をもとに第3期計画を策定する予定です。

そこで、患者のみなさまのニーズを把握し、また以前の意識調査（平成25年度・27年度実施）と比較することで、これまでの取組を評価するとともに今後の取組に活かすため、県内の病院で治療を受けておられるみなさまを対象に意識調査を実施することといたしました。

お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

なお、ご回答は個人が特定されないよう無記名でお願いするとともに、回答いただいた内容は統計目的以外には用いることはありませんので率直な意見をお聞かせください。

平成29年6月 奈良県

ご記入について

- 当調査は20分程度で回答できる分量となっております。
- 記入が困難な方は、ご家族の方などのご協力をお願いします。
- それぞれの間で、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
- 「その他」に○印をつけられた場合や、記述式の問の場合には、() 内に内容をご記入ください。
- ご記入は、黒や青のボールペンまたは鉛筆ではっきりとわかりやすくお願いします。
- ご回答が済みましたら、一緒にお渡しした返信用封筒に調査票を入れて密封の上、平成29年7月14日(金)までに、お近くの郵便ポストに投函してください。
(切手は不要です。)

本調査についてご不明な点などがございましたら、下記へお問い合わせください。

奈良県医療政策部保健予防課 がん対策係
電話 0742-27-8928 (直通)

ならのがんに関する患者意識調査 調査票

■ 以下の質問は、がん患者さんご本人についてご記入ください。

医療機関で受けた診断や治療について

問1 がんと最初に診断されたのは、いつ頃ですか。

昭和 ・ 平成 _____ 年 _____ 月頃

問2 最初がんと診断された部位はどこですか。【○はひとつだけ】

- | | | |
|-------|-----------|-------------------|
| 1. 肺 | 5. すい臓 | 9. 乳房 |
| 2. 食道 | 6. 大腸 | 10. 子宮 |
| 3. 胃 | 7. 血液・リンパ | 11. 卵巣 |
| 4. 肝臓 | 8. 前立腺 | 12. その他 (_____) |

問3 現在がんの治療（または経過観察）のためにかかっている病院はどこですか。【○はひとつだけ】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 奈良県立医科大学附属病院 | 6. 国保中央病院 |
| 2. 奈良県総合医療センター | 7. 済生会中和病院 |
| 3. 天理よろづ相談所病院 | 8. 大和高田市立病院 |
| 4. 近畿大学医学部奈良病院 | 9. 南奈良総合医療センター |
| 5. 市立奈良病院 | 10. その他 (_____) |

問3-1 問3で1.～9.の病院にかかっている方で、地域の病院や診療所のかかりつけ医（注参照）をお持ちですか。【○はひとつだけ】

（注）かかりつけ医：地域の病院や診療所の医師。身近な地域で日常的な医療を受けたり、あるいは健康の相談等ができる医師のこと。

1. 持っている（現在、かかりつけ医での通院なしも含む）
2. 持っていない

問4 現在のがんの治療（緩和ケアも含む）状況を教えてください。【○はひとつだけ】

1. 治療の開始前
2. 治療を継続中
3. 治療が終わり経過観察や定期検査中
4. 治療後、5年程度を経て、がんの再発が見られず、特に治療はしていない状態
5. その他 (_____)

問5 がんと診断されてからこれまで受けたがん治療を教えてください。【○はいくつでも】

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 手術 | 5. 放射線治療 |
| 2. 内視鏡治療 | 6. 治療をしていない |
| 3. 化学療法（抗がん剤/分子標的薬） | 7. その他 (_____) |
| 4. ホルモン療法 | 8. わからない |

裏面（次ページ）にも記入してください

問6 現在かかっている病院を選んだ理由は何ですか。【○は3つまで】

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 医師による紹介 | 11. 技術のすぐれた医師がいる |
| 2. 家族・友人・知人からのすすめ | 12. 専門性が高い医療を提供している |
| 3. 薬局や他の医療関係者からの紹介 | 13. 様々な症状に対応できる医療を提供している |
| 4. 自宅や職場・学校に近い | 14. 受たい検査や治療をおこなっている |
| 5. 交通機関の便がよい | 15. 生存率、合併症発生率などの治療成績が良い |
| 6. 以前に来たことがある | 16. 入院にかかる経済的負担が少ない |
| 7. 以前に受診した医療機関に満足できなかった | 17. 連携している医療機関・福祉施設が充実 |
| 8. 大きな病院で安心そう | 18. その他 (_____) |
| 9. 病室などがきれいな病院だから | 19. 特に理由はない |
| 10. 医師や看護師が親切 | |

問7 現在かかっている病院を選ぶにあたり、どこから情報を入手しましたか。【○はいくつでも】

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 医療機関の相談窓口 | 8. 新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組 |
| 2. 病院が発信するインターネットの情報 | 9. 医師（かかりつけ医）からの情報 |
| 3. 病院の看板やパンフレットなどの広告 | 10. 知人や家族からの情報 |
| 4. 行政機関の相談窓口 | 11. その他 (_____) |
| 5. 行政機関が発信するインターネットの情報 | 12. 特に情報は入手していない |
| 6. 行政機関が発行する広報誌やパンフレット | |
| 7. 病院・行政機関以外が発信するインターネットの情報 | |

問8 現在、かかっている病院についての感想をお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

内 容	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	非常に不満である	その他
医師による診療・治療内容に満足していますか。	5	4	3	2	1	0
医師との対話に満足していますか。	5	4	3	2	1	0
医師以外の病院のスタッフの対応に満足していますか。	5	4	3	2	1	0
全体として病院に満足していますか。	5	4	3	2	1	0

問9 問8のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。
 不満な点は具体的にどのような点ですか。また、それに対して、どのような対応を望みますか。
 ご自由にご記入ください。

不満な点は、具体的にどのような点ですか。	
不満な点について、どのような対応を望みますか。	

次のページにも記入してください

問 10 がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、ご自身が納得いく治療を選択することができましたか。【○はひとつだけ】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. そう思う | 4. あまりそう思わない |
| 2. ややそう思う | 5. そう思わない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問 11 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師から受けた説明はよくわかりましたか。【○はひとつだけ】

1. よくわかった
2. だいたいわかった
3. あまりわからなかった
4. まったくわからなかった
5. 説明を受けていない → 【問 13 へおすすみください】

問 12 問 11 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

医師から受けた診断や治療方針の説明に対して、あなたの疑問や意見を医師に十分に伝えられましたか。【○はひとつだけ】

1. 十分に伝えられた
2. 質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった
3. 的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった
4. その他の理由で、十分には伝えられなかった
5. 疑問や意見は特になかった

※問 13、問 14→男性も女性もお答えください。

問 13 最初のがん治療が開始される前に、その治療による不妊への影響について、医師から説明を受けましたか。【○はひとつだけ】

- | | | | |
|------------------------|---|------------------|------------------|
| 1. 不妊への影響がある、という説明を受けた | → | 【問 14 へおすすみください】 | |
| 2. 不妊への影響がない、という説明を受けた | } | → | |
| 3. 説明はなかった | | | 【問 15 へおすすみください】 |
| 4. わからない | | | |

問 14 がん治療により不妊になる可能性があることについて、それを予防する、あるいは妊娠する能力を温存するための具体的方法を医師から説明されましたか。【○はひとつだけ】

1. 予防・温存の具体的方法を説明された
2. 予防・温存の具体的方法はないと説明された
3. 予防・温存の具体的方法について説明を受けなかった
4. わからない

問 15 あなたが治療を受けている病院では、診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフはあなたから見て十分に連携していると思いますか。【○はひとつだけ】

1. よく連携している
2. ある程度連携している
3. あまり連携していない
4. まったく連携していない
5. どちらともいえない
6. わからない

裏面（次ページ）にも記入してください

問 16 「がん治療」を決めるまでの間、医師、看護師、他のスタッフは、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか。（「がん治療」には治療しないという方針も含まれます。）
【○はひとつだけ】

1. 十分提供してくれた
2. ある程度得られた
3. あまり得られなかった
4. 全く得られなかった
5. どちらともいえない
6. 覚えていない／わからない

問 17 がん治療が始まる前にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を受けられることについて担当医から説明はありましたか。【○はひとつだけ】

1. 説明があった
2. 説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した
3. 説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった
4. わからない／覚えていない

問 18 セカンドオピニオンを受けたことがありますか。【○はひとつだけ】

1. 受けたことがある → 【問 19 へおすすみください】
2. 受ける予定がある → 【問 20 へおすすみください】
3. 受けたことがない

問 19 問 18 で「1. 受けたことがある」と回答された方にお伺いします。
セカンドオピニオンを受けて良かったと思えますか。【○はひとつだけ】

1. 良かった
2. 良くなかった
3. どちらともいえない

問 20 現在の心身の状態についてお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

内 容		そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
からだの苦痛	痛みがある	5	4	3	2	1
	痛み以外の症状がある	5	4	3	2	1
気持ちがづらい		5	4	3	2	1
経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある		5	4	3	2	1

問 21 「がん医療における緩和ケア（以下「緩和ケア」）」とは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさを和らげるとともに、がんになったことによる様々な不安に対し、それを解消することですが、あなたは、がん医療における「緩和ケア」について知っていますか。【○はひとつだけ】

1. よく知っている
2. 言葉だけは知っている
3. 知らない

次のページにも記入してください

問 22 「緩和ケア」はいつから実施されるべきものと思っていますか。【○はひとつだけ】

1. がんと診断されたときから
2. がんの治療が始まったときから
3. がんが治る見込みがなくなったときから
4. その他 (_____)
5. わからない

問 23 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「緩和ケア外来」(注参照)を知っていますか。【○はひとつだけ】

(注) 緩和ケア外来：一定の要件を満たす医療機関として国や県が指定した「がん診療連携拠点病院」等には、通院中の患者さんが緩和ケアを受けられる「緩和ケア外来」が設置されている。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、南奈良総合医療センターに設置。

1. 知っている
2. 知らない

問 24 現在かかっている病院で緩和ケアを受けた経験等についてお伺いします。

問 24-1 「**からだの苦痛**」について、(主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで) 緩和ケアを受けた経験はありますか。【○はひとつだけ】

1. 経験がある _____ → 【問 24-2 へおすすみください】
2. 経験がない _____
3. わからない/覚えていない _____ → 【問 24-3 へおすすみください】

問 24-2 問 24-1 で「からだの苦痛」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。
「からだの苦痛」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
また、症状は改善しましたか。【それぞれ○はひとつだけ】

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
すぐに対応してくれた	5	4	3	2	1
症状が改善した	5	4	3	2	1

問 24-3 「**気持ちのつらさ**」について、(主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで) 緩和ケアを受けた経験はありますか。【○はひとつだけ】

1. 経験がある _____ → 【問 24-4 へおすすみください】
2. 経験がない _____
3. わからない/覚えていない _____ → 【問 25 へおすすみください】

問 24-4 問 24-3 で「気持ちのつらさ」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。
「気持ちのつらさ」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
また、症状は改善しましたか。【それぞれ○はひとつだけ】

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
すぐに対応してくれた	5	4	3	2	1
症状が改善した	5	4	3	2	1

裏面(次ページ)にも記入してください

問 25 あなたはこれまで受けた治療に納得していますか。【○はひとつだけ】

1. 納得している
2. やや納得している
3. どちらともいえない
4. あまり納得していない
5. 納得していない

地域連携について

問 26 病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での情報（診療方針）が診療所・訪問看護ステーションに円滑に伝わったと思いますか。【○はひとつだけ】

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない
6. 退院後、診療所・在宅医療は利用していない
7. わからない

問 27 がんの治療中や経過観察中に、病院のがんの専門医（または主治医）とかかりつけ医が二人で連携して患者さんを診療していく制度（「がん地域連携クリティカルパス（注参照）」または「私のカルテ」等）を知っていますか。【○はひとつだけ】

（注）がん地域連携クリティカルパス：がん診療連携拠点病院等のがんの専門医（または主治医）とかかりつけ医が二人で連携して、計画的に患者を診療していく制度。奈良県では、県統一版「私のカルテ」、院内独自で作成された「がん地域連携クリティカルパス」などのツールが利用されている。

1. 病院から説明を受け、この制度を利用している
2. 病院から説明を受けたが、この制度は利用していない
3. 病院からの説明はなかったが、この制度の存在は知っている
4. この制度の存在を知らない

今後の療養について

問 28 在宅で緩和ケアを受けられること（注参照）を知っていますか。【○はひとつだけ】

（注）在宅での緩和ケア：在宅医やかかりつけ医による訪問診療や往診により、在宅での緩和ケアを受けること

1. 知っている
2. 知っているが、具体的な内容は知らない
3. 知らない

問 29 在宅での緩和ケアについて、どのようにお考えですか。【○はひとつだけ】

1. 在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う
2. 在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする
3. 希望しない
4. 経験した（現在受けている）
5. わからない

次のページにも記入してください

問 30 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思いますか。【〇はいくつでも】

1. 病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制
2. 在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制
3. 在宅患者の体調が悪化した場合にすぐ訪問したり対応してくれる在宅医や訪問看護師の存在
4. 在宅療養に関して必要な情報の入手や相談できる体制
5. 家族の不安（心のケア）に対して相談できる体制
6. 家族の介護負担を軽減するため、患者が短期入院できる体制
7. 訪問看護、訪問介護の利用対象の拡大
8. 車いすやベッドなどの福祉用具の充実
9. その他（_____）
10. わからない

問 31 もし、がんが進行し、自宅や病院で療養中に、からだの苦痛や気持ちのつらさ等の症状の改善がみられない時、療養場所を選択することができるとすれば、どこで過ごしたいと思いますか。【〇はひとつだけ】

（注）緩和ケア病棟：緩和ケアを専門に提供する病棟。「病気を治す」ことを目的とした治療はしないが、からだの苦痛や気持ちのつらさを和らげるための治療は積極的に行う。

1. 今まで通った病院に入院したい（または、現在の病院に継続して入院したい）
2. 緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい
3. 在宅医療を受けながら、自宅で療養したい
4. その他（_____）
5. わからない

相談支援・情報提供について

問 32 がん医療に関する相談支援及び情報提供についてあてはまるものをお答えください。【〇はいくつでも】

1. からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある
2. からだや治療のことで心配になったときに、担当医にしか、相談できないと思っている
3. 誰に（どこに）相談すればよいのかわからない
4. がんに関する情報を手に入れるための方法（インターネット、本等）を知っている
5. がんに関する情報をどうやって手に入れたらよいかわからない
6. その他（_____）

問 33 あなたが知りたいがんに関する情報についてあてはまるものをお答えください。【それぞれ〇はひとつだけ】

内 容	そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
がんの治療方法についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
病院の診療体制や治療状況についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
緩和ケアについての情報が不十分である	5	4	3	2	1
がん治療にかかる費用についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報が不十分である	5	4	3	2	1
自宅での療養生活についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
がんの病態や統計データ等の情報が不十分である	5	4	3	2	1

裏面（次ページ）にも記入してください

問 34 奈良県が、県内のがん情報を総合的に発信している「がんネットなら」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

（注）がんネットなら：インターネットを利用して、奈良県にお住まいのがん患者さんやご家族の皆さんが療養生活を送る際に役立つ情報や、県内で開催されるがんに関するイベント・研修情報など幅広く発信している。

1. 知っており、利用したことがある
2. 知っているが、利用していない
3. 知らない

問 35 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「がん相談支援センター」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

（注）がん相談支援センター：がん診療連携拠点病院等には、がんに関する相談や情報提供を行う相談窓口として「がん相談支援センター」が設置されており、誰でも無料でがんに関する相談・情報提供を受けられる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、南奈良総合医療センターに設置している。

1. 利用したことがある
2. 院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない
3. あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない
4. 知らない

問 36 「患者サロン」（がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）があることを知っていますか。【○はひとつだけ】

1. 知っている →【問 37 へおすすみください】
2. 聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない →【問 38 へおすすみください】
3. 知らない

問 37 問 36 で「1. 知っている」と回答された方にお伺いします。
患者サロンについて、どこで知りましたか。【○はいくつでも】

1. 病院の医師、看護師等スタッフからの説明
2. 病院からの配布物（院内放送等も含む）
3. 行政機関が発行したチラシ
4. 知人や家族から聞いた
5. テレビ、新聞、ホームページ等
6. 活動しているところを見た
7. その他（_____）

問 38 がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの支援によって現在は軽減されたと思いますか。【○はひとつだけ】

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない
6. わからない

治療と就労について

問 39 現在の日本は、がん治療を受けながら、働きつづけられる環境だと思いますか。【○はひとつだけ】

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

次のページにも記入してください

問 40 がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況について教えてください。
【〇はひとつだけ】

1. 正規の職員・従業員 _____
2. パート・アルバイト（学生を除く） _____ →【問 41 へおすすみください】
3. 派遣社員・契約社員・嘱託 _____
4. 自営業・家族従業員 _____ →【問 43 へおすすみください】
5. 家事専業・家事手伝い _____
6. 無職 _____ →【問 46 へおすすみください】
7. 学生 _____
8. その他（ _____ ） _____

問 41 問 40 で 1, 2, 3 と回答された方にお伺いします。
がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。【〇はひとつだけ】

1. 十分得られた _____ →【問 42 へおすすみください】
2. ある程度得られた _____
3. 得られなかった _____
4. 理解・支援は必要なかった _____ →【問 43 へおすすみください】
5. その他（ _____ ） _____

問 42 問 41 で 1, 2 と回答された方にお伺いします。
仕事の継続に対して、事業主からどのような支援を受けましたか。【〇はいくつでも】

1. 年次有給休暇の時間単位での取得
2. 短時間勤務への変更
3. フレックス勤務への変更
4. 在宅勤務への変更
5. 試し出勤制度（リハビリ勤務など）
6. 体調を考慮した配置転換
7. 職場復帰支援へのアドバイス（産業医等からの助言指導）
8. 職場復帰前の面談（意向確認）
9. 休職前の部署・ポジションへの復帰
10. 休職前の賃金補償
11. 体調不良時に利用できる休憩場所の確保
12. その他（ _____ ）

問 43 問 40 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。
がんで初めて治療・療養した時、一定期間（連続して3か月以上）仕事を休みましたか。また、その後復職・復帰しましたか。【〇はひとつだけ】

2. 現在まで継続して休んでいる
3. 一定期間休み、その後、復職・復帰した
4. 一定期間休み、その後、復職・復帰せずに退職・廃業した
5. 一定期間休みをとることなく、退職・廃業した
6. その他（ _____ ）

裏面（次ページ）にも記入してください

問 44 問 40 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

がん治療・療養のための退職・廃業の有無と、現在の仕事の状況について、教えてください。
【〇はひとつだけ】

1. 退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）
2. 退職・廃業をしたことがあるが、現在は再就職・復業・開業している
3. 退職・廃業をした。希望はあるが、現在は再就職・復業・開業していない
4. 退職・廃業をした。特に希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない
5. その他（ _____ ）

問 45 問 40 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

がんの治療と仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思いますか。
【〇はいくつでも】

1. 年次有給休暇の時間単位での取得
2. 短時間勤務への変更
3. フレックス勤務への変更
4. 在宅勤務への変更
5. 試し出勤制度（リハビリ勤務など）
6. 体調を考慮した配置転換
7. 職場復帰支援へのアドバイス制度（産業医等からの助言指導）
8. 職場復帰前の面談（意向確認）
9. 休職前の部署・ポジションへの復帰補償
10. 休職前の賃金補償
11. 体調不良時に利用できる休憩場所の確保
12. 相談窓口の設置
13. その他（ _____ ）
14. 必要ない
15. わからない

問 46 生活上の困難（経済的なこと、就労のことなど）に関して情報提供や相談支援を受ける場合、どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】

1. 医療機関における相談支援体制の充実
2. 職場における相談支援体制の充実
3. 行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実
4. 行政機関が発信する情報提供サイトの充実
5. 行政機関が発行する情報冊子の充実
6. その他（ _____ ）
7. 特に、充実は望まない
8. わからない

問 47 県内のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターで実施している、がん患者を対象とした社会保険労務士による就労相談（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）がん相談支援センターにおける就労相談：がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」では、がんの治療と就労の両立支援に向けた取組として、社会保険労務士による就労相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院、市立奈良病院に設置している。

1. 知っている
2. 知らない

次のページにも記入してください

問 48 奈良県立医科大学附属病院のがん相談支援センターがハローワークと連携して実施している、がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）奈良県立医科大学附属病院における就職相談：奈良県立医科大学附属病院では、ハローワーク大和高田と連携し、ハローワークから就職支援ナビゲーターを定期的に病院へ派遣し、がん患者等の長期療養者（糖尿病や肝炎等）に対する就職相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。

1. 知っている
2. 知らない

がん登録について

問 49 あなたは、「がん登録」（注参照）について知っていましたか。【〇はひとつだけ】

（注）がん登録：全国がん登録：今後のがん検診やがん医療の評価に役立てるため、がん患者ひとりひとりの診断データや、その後の経過、生存状況について収集することを「がん登録」という。これまで、各都道府県単位で「地域がん登録」を実施していたが、すべてのがん患者が登録されていないなどの課題があったため、平成 28 年から全国すべての病院等からがん患者の情報を正確に登録する「全国がん登録」が始まった。

1. よく知っている
2. 言葉だけは知っている
3. 知らない

問 50 がん登録によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できます。あなたは何に期待しますか。【〇はいくつでも】

1. 国が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること
2. 大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること
3. 一般の人が日本のがんの状況について情報を得ることができるようになること
4. 国が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること
5. 都道府県が地域特有のがんの事情に応じた対策を行えること
6. その他（_____）
7. わからない

全般的なことについて

問 51 がん対策について、奈良県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。【〇はいくつでも】

1. がん予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む）
2. がんの早期発見（がん検診）
3. がんに関する専門的医療従事者の育成
4. がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）
5. がんに関する情報の提供
6. がんに関する相談やその支援
7. 緩和ケア
8. 在宅医療・在宅療養体制の充実
9. がん登録
10. がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備
11. 子どもに対する、がんに関する教育
12. その他（_____）
13. 特にない
14. わからない

裏面（次ページ）にも記入してください

問 52 療養生活を送る中で、よかったと感じたこと、また、不満や疑問に感じたことがあれば、自由にご記入ください。

○よかったことや不満、疑問に感じたこと

問 53 医療機関や行政に対し、がん医療に関して何かご意見があれば、自由にご記入ください。

○医療機関に対して

○行政に対して

最後に、患者さんご本人のことについて

問 54 このアンケートの記入者はどなたですか。【○はひとつだけ】

1. 患者さんご本人が記入
2. ご家族の方などが協力して記入

問 55 患者さんご本人の現在の年齢は、何歳ですか。

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1. ~14 歳 | 6. 35~39 歳 | 11. 60~64 歳 |
| 2. 15~19 歳 | 7. 40~44 歳 | 12. 65~69 歳 |
| 3. 20~24 歳 | 8. 45~49 歳 | 13. 70~74 歳 |
| 4. 25~29 歳 | 9. 50~54 歳 | 14. 75 歳以上 |
| 5. 30~34 歳 | 10. 55~59 歳 | |

問 56 患者さんご本人の性別を教えてください。【○はひとつだけ】

1. 男
2. 女

問 57 患者さんご本人が現在お住まいの市町村はどちらですか。

() 都・道・府・県 () 市・町・村

調査にご協力いただきありがとうございました。
返信用封筒に入れて密封の上、切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。
切：平成29年7月14日（金）【当日消印有効】

ならのがんに関する患者意識調査
報告書

2017年10月
奈良県医療政策部保健予防課 がん対策係

〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 (0742) 27-8928
URL <http://www3.pref.nara.jp/gannet/>
